

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・今後については新型コロナウイルス感染拡大の影響も少しずつ薄れてくる。世の中的にも経済重視の方にかじを切ることになることから、前年と比べるとかなりの客がこの2～3か月で動いてくる。マスコミの報道内容などによっては冷え込むことも考えられるが、Go To Travelキャンペーンがゴールデンウィーク前後に再開されることになれば、ムードを変える起爆剤になると期待している。
		旅行代理店(従業員)	・道民割や各自治体による需要促進策により、これまで抑制されていた観光需要が急速に回復することになる。ゴールデンウィークの日並びも良いため、今後の北海道観光の活性化が期待できる。
		観光名所(従業員)	・新型コロナウイルスの感染動向や国際情勢など、不透明な情勢はあるにせよ、道や自治体の各種施策を利用した客層が増えてきていることは間違いないことから、この先に控えている国の大規模キャンペーンなどによって人の動きが加速し、観光入込が大きく上向くことを期待している。
		商店街(代表者)	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、商店街への来街者、来客数が増えている。飲食店も通常どおりの営業に戻り、売上も徐々に回復している。
		商店街(代表者)	・まん延防止等重点措置などの規制が行われず、物価が落ち着いて推移すれば、今後の来街者や旅行者数の増加が見込めるため、飲食店や土産店、交通関係などでは売上アップが期待できる。ただ、外的要因によって左右される面が多いなど、不確定な要素も多々ある。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・新型コロナウイルスも3年目に入り、家に閉じ籠もるばかりでは人間性が維持できなくなるという声も聞こえてくる。実際に1～2年前と比べると1.7倍くらいの売上がみられることから、今後の景気はやや良くなる。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	・今後については、飲食店に対する規制などが発動されない限り、徐々に売上が回復することになる。
		百貨店(売場主任)	・前年の5～6月は新型コロナウイルスの影響で土日を店舗休業していたため、2～3か月後の景気は前年よりも良くなる。ただし、ここに来て新型コロナウイルス新規感染者数が前週を上回ってきていることから、今後、まん延防止等重点措置が再び適用されないか心配である。
		百貨店(販売促進担当)	・季節が進み、北海道でも気温の上昇とともに人出が増えることになる。新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いてきたこともあり、今後については来街者がますます増え、それに伴って客の来店も増加することになる。
		百貨店(営業販促担当)	・現在の感染状況が落ち着き、人の動きが活発になってくることで、旅行、出張、式典関係などが回復し、それに付随する商材にも動きが出てくることになる。
		スーパー(店長)	・前年はゴールデンウィーク後から6月半ばまで、まん延防止等重点措置又は緊急事態宣言が出ており、専門店において営業時間短縮などの制限が生じていたため、景気は確実に前年よりも上向くことになる。ただ、新型コロナウイルス発生前の水準までは戻らないとみられる。
		スーパー(企画担当)	・春の行楽シーズンを迎えるなか、インフレ傾向が強まることで客の行動が限定的になるとみられるため、食品小売業にとっては好材料となりそうだ。
		コンビニ(エリア担当)	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、まん延防止等重点措置が解除されたことで、今後、客の動きが少しは活発になる。
	高級レストラン(スタッフ)	・新規感染者数が増加しなければ、少しずつではあるが売上の増加が見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、週末は観光客を含めて人出が増えてきている。桜の開花、ゴールデンウィークを控えていることから、今後、新型コロナウイルス新規感染者数が増加しなければ、人出がますます増加することになる。さらに、Go To Travelキャンペーン、道民割などの景気対策が動き出せば、景気拡大につながっていく。
		スナック（経営者）	・景気はこれから少しずつ良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・ワクチンを始めとした感染対策によって、新型コロナウイルスが徐々に終息に向かうとみられる。ただし、ウクライナ情勢など、別の要因による景気減退も心配される。
		旅行代理店（従業員）	・感染が再拡大しないことが条件となるが、ゴールデンウィークも近づいているため、今後の需要は増えることになる。
		旅行代理店（従業員）	・3回目のワクチン接種率の上昇に伴って、景気がやや良くなることを期待している。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、これまで減少していた夕方から夜間に掛けての来客数が増加傾向になっている。貸切りハイヤーの予約も、まだまだ件数は少ないが、キャンセルにならずに確定するようになってきていることから、今後の景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス次第だが、今後の景気は回復することになる。Go To Travelキャンペーンが始まればV字回復が見込める。
		観光名所（職員）	・まん延防止等重点措置の影響ですこぶる低調な成績となったが、3月21日で解除されたため、適切な時期にGo To Travelキャンペーンが再開されることなどで、今後の観光需要が高まることを期待している。
		美容室（経営者）	・北海道のまん延防止等重点措置が解除されたこと、年度替わりの時期を迎えていることから、人の移動が増えているため、今後、景気が良くなることを期待している。ただし、世界情勢や様々な物価の上昇など、楽観的には考えられない部分もある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・Go To Travelキャンペーンなどの国の施策が始まることを見込まれる。観光シーズンを迎えることもあり、今後、来客数が増加することが期待できる。
		商店街（代表者）	・経済的にはロシアの動向が大きな問題となるが、地域に限れば、それほど景気に影響することはないとみられる。
		商店街（代表者）	・コロナ禍による影響が今後も続く見込まれる。
		商店街（代表者）	・まん延防止等重点措置は解除されたが、新規感染者数が高止まりしている現状から、大手企業を中心に会食の自粛が解除されていない。飲食業界の回復は見込めず、支援金がなくなった飲食店は途方に暮れている。一方、旧態依然とした店舗運営には限界があり、変革が必要とされることから、支援方法の再考も求められる。景気回復には時間がかかるため、支援金だけでなく、税制面での支援も必要とみられる。例えば、企業の接待交際費枠の条件を大きく緩和するなどして、支出誘導することなどが考えられる。
		商店街（代表者）	・青果物が高く売れないことから、当社の鮮度保持剤製品の動きも鈍い。
		百貨店（マネージャー）	・まん延防止等重点措置の解除後、景気が回復傾向にあり、売上は前年比110%で推移している。しかしながら、今後については、3～4回目のワクチン接種の進捗状況などによっても左右されるため、不透明感は否めない。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類相当に引き下げられるなどの変化がない限り、今後も景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・今後も当業界の景気は変わらない。ただ、今年に入ってから、前年や前々年と比べて数字が順調に伸びているなど、他業種と比べると良い傾向がみられている。
		コンビニ（エリア担当）	・今後については、一旦は客の動きが回復するとみているが、様々な商品の値上がりが見込まれているため、消費自体は鈍ることになる。
		コンビニ（エリア担当）	・今後については、再び新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるかもしれないことから、緊急事態宣言などが出されることも考えられる。今後の状況がみえないため、景気は変わらないまま推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（店長）	・新生活などでの需要がみられたが、余剰品を買う気配が客に感じられない。買物をする際は気分が高揚し、いろいろな物を買うことが多いが、明らかに必要な物だけを仕方なく買っている印象であり、思った以上に景況感が回復していない。
		家電量販店（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の推移、ウクライナ情勢、原料高による値上げ、商材の不足や入荷遅延など、先行き不透明な要素が多く、今後の予測が立たない。ただ、巣籠り需要が堅調に推移していることから、今後も大きな変動はない。
		乗用車販売店（従業員）	・5月に新車種が発売されることから、乗客数は増えることになるが、飛ぶように売れる車ではないため、景気は今と変わらない。ただ、これからタイヤ交換で客が来店する機会が増え、そこから話が生まれ、いろいろな面でプラスに働くことを期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の生産遅れが一時的なものから恒常的なものになりつつあることから、客の購入時期がこれまでとずれてきている。今のところ、景気が良くなる要因が見当たらない。
		自動車備品販売店（店長）	・今後もコロナ禍の状況はほとんど変わらない。飲食店や旅行業では景気対策によって需要が生じるかもしれないが、当業種にはそうした影響も生じないため、景気は変わらない。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・季節的に冬季と比べれば景気は良くなる。ただし、ゴールデンウィーク後に再度の感染拡大傾向がみられるようであれば、業績は悪化することになる。
		高級レストラン（スタッフ）	・今より景気が上向くのか、第7波が来て悪化するのか、よく分からない。3回目のワクチン接種が進むことで、今よりも景気が良くなることを期待しているが、高級飲食店でゆったりと過ごす客が戻ってくるまで時間が掛かりそうだ。新年度を迎えた4月以降は、例年であれば繁忙期になるが、今のところ、予約はほとんど増えておらず、歓送迎会という言葉は死語になりつつある。
		観光型ホテル（スタッフ）	・催行実施を検討中の大型宿泊団体や大型宴席がいまだに仮予約であることから、今後も景気は変わらない。
		タクシー運転手	・人流がそれほど動いておらず、いまだにコロナ禍のなかでもがいていることから、この先の景気も変わらない。今後の動きを注視している段階である。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が良くなったり悪くなったりと安定しないため、今後も同じような状況が続く。
		美容室（経営者）	・各種日用品が値上がりしていること、新型コロナウイルスの感染への不安が消えないこと、外出やイベントの参加機会がないことなど、マイナス要素が続いていることから、景気が上向きになることを期待できない。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスとウクライナ情勢の影響が懸念されるため、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・エネルギーや資材、原材料の価格高騰に加えて、地政学リスクの先行きも見通せないことから、この先の消費者心理が悪化していくと見込まれる。
		スーパー（役員）	・電気代、ガソリン代、食料品などの値上がりが続くため、客の節約志向が強まることになる。
		スーパー（従業員）	・原材料価格の高騰から、商材の価格上昇が続いており、消費マインドの低下が懸念されることから、今後の景気はやや悪くなる。
		コンビニ（店長）	・電気やガスなどの値上げに伴って消費が落ち込むことになる。経費も上昇するため、利益が低下してしまうことも見込まれる。
		家電量販店（店員）	・家電メーカーにおいても一部の商材で4月からの値上げ案内が届いていることから、今後の景気が上向くことは期待できない。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の受注から登録まで3～6か月と時間が掛かっていることから、今後の景気は良くなる。また、ガソリン価格の高止まりなども消費に影響することが懸念される。高額な自動車は車検を受けることが増え、買換え時期が延びることになる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・医薬品業界の動きが不透明になっており、調剤用医薬品の流通が悪化していることから、今後の景気はやや悪くなる。客の高齢化が進んでいることも拍車を掛けそうだ。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・今後については、新入学や就職による需要が落ち着くことになる。今のところ、こうした落ち込みをばん回する手段がなく、通信端末や通信費の価格競争がますます激しくなっている状況も踏まえると、今後の全体売上の減少が懸念される。
		住宅販売会社（経営者）	・今後しばらくは円安が続きそうなこと、原油価格の高騰に伴ってガソリン価格が高止まりしそうなことなどから、こうした動きが収まらない限り、コストアップが続くことになる。消費のムードが悪い状況となるため、今後の景気はやや悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響を受けて、資源関係を中心にインフレがみられるようになってきていることから、今後、分譲マンションの建築価格が上昇することになる。客の所得が上昇していないなかでの価格上昇は需要の低下を招くことになるため、分譲マンション市場が縮小する懸念がある。
	×	スーパー（店長）	・今後、輸入品の大幅値上げが懸念されることから、景気は悪くなる。
	×	乗用車販売店（経営者）	・現状はしばらく変わらないとみられるが、今後、ウクライナ情勢が悪影響を及ぼしてることが見込まれるため、景気は下向きとなる。
	×	観光型ホテル（経営者）	・ウクライナ情勢に起因する物価高が経営に大きなダメージを与えている。食品やエネルギーなどのコスト上昇は自力で解決できるものではないため、この先の観光の回復は長期間にわたって難しいものとみられる。国による強力な経済対策が必要である。
	×	タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除され、少しずつ人流が増えてきたが、暖くなる時期を迎えると、雪のある時期と比べてタクシーの利用が極端に少なくなるため、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、景気が上向くことを期待できるものの、その範囲は限定的なものになると見込まれる。
	×	美容室（経営者）	・原油価格高騰のあおりを受けて、多くの商材で値上げが進むことが懸念されるため、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-
		建設業（経営者）	・今後については、土木、建築共に受注が増えることになる。現場の稼働状況はまだそれほどでもないが、担当者は準備作業でかなり忙しくなっている。ただし、円安、原油高、ウクライナ情勢の影響で資材の価格高騰と納入遅れが心配される。特に建築関連で影響が大きくなる懸念がある。
		司法書士	・今の新型コロナウイルス感染者数でまん延防止等重点措置を解除することに疑問を感じる面もあるが、まん延防止等重点措置が解除されたことで、これから旅行業や観光業が回復することになる。ただし、新規感染者数が増加に転じることや新しい新型コロナウイルス変異株の発生によって、再びまん延防止等重点措置が適用されることが懸念される。当面はこうした動きが繰り返され、それに伴って景気も上下することになる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新型コロナウイルスの第7波が懸念されているが、以前ほどの極端な規制は行われないとみられることから、Go To Travelキャンペーンを中心とした景気対策により、今後の景気は改善することになる。
		食料品製造業（従業員）	・現在スーパー向けに、3～5月に掛けての販促キャンペーンを行っている一方で、4月からの価格改定を予定していることから、どちらに転ぶか判断が付かない。
		建設業（従業員）	・各自治体の公共工事について、来年度の予算を前倒しして発注しているようにみられることから、今後も景気は変わらない。
		建設業（役員）	・新年度の公共土木工事の入札結果に期待しているが、新型コロナウイルスの影響やロシアのウクライナ侵攻に伴う燃料、建設資材の高騰や品不足などが懸念されることから、当面景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・一時期と比べて、新型コロナウイルスの影響が小さくなっていることはプラス要因だが、ロシアのウクライナ侵攻に伴って生じる道内及び当社周辺への影響が未知数である。一般的にはマイナスの影響を受けるとみられるため、企業活動は様子見の姿勢が強まるとみられ、今後の景況感は現状のまま推移する。
		金融業（従業員）	・上昇基調にある消費者物価が個人消費の重しとなるほか、欧米の金融政策の変更による世界的な景気回復の鈍化が見込まれる。これらによる道内経済への影響は不可避であり、まん延防止等重点措置の解除による経済活動のプラス要因を打ち消すことになる。そのため、3か月後の道内景気は横ばいでの推移となる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・3か月先くらいまでの受注はみえている。同業他社についても同様だが、同時に人手不足で新たな仕事の受注ができずにいる。
		食料品製造業（従業員）	・値上げが進むことで売上はやや増えてくると見込まれるが、それ以上に原材料やエネルギーなどが高騰しているため、今後の景気はやや悪くなる。
		輸送業（支店長）	・ウクライナでの戦闘が長期化することで、ロシアとの貿易のある取引先に影響が波及していく恐れがあることから、今後の景気はやや悪くなる。
		司法書士	・新型コロナウイルスの感染が下火にならない限り、人々の行動に制限が掛かったままであることから、景気が回復する要素は見当たらない。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻によって、原油価格の高騰などが生じており、先行きが見えない状況となっている。円安により食品やその他の輸入品の価格も上昇している。しばらくは先行き不透明な状況が続くとみられ、景気は低迷したまま推移する。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・多くの物価が値上がりしているなか、エネルギー関連の価格が大幅に値上がりしている。今後、生産や物流に関して価格見直しが多くなることで客の買い控えが起きることが心配される。
	×	金属製品製造業（従業員）	・4月初旬から新型コロナウイルスの第7波が始まるとの見込みがある上、半導体不足が続いていること、ロシアのウクライナ侵攻問題がいつ終わるのか見通しが立たないことから、生産現場では、鋼材や非鉄金属、塗料、こん包材などの原材料の値上げが懸念される。また、原油高による動力費の増加により、製造原価も上昇している。所得が上がらないなか、物価だけが高騰していることから、今後の景気は悪くなる。
	×	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・新型コロナウイルスの影響は落ち着いてきそうだが、それ以外の部分で景気がどんどん悪化していくことが懸念される。
雇用 関連 (北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	・今後、3回目のワクチン接種が増えることで、病床ひっ迫率が下がり、消費活動が活発になるとみられる。僅かではあるが、宿泊業や小売業関連の求人数が増加していることもプラスである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年春先は当地の主力産業である一次産業、建設業界が動き出す時期であるため、今後の見通しは明るい。観光業界では、まん延防止等重点措置が解除されたことで、急に忙しくなったとの話も聞いている。ただ、今後の新型コロナウイルスの感染状況、ウクライナ情勢の影響、資材価格や物価の上昇傾向によっては、景気が停滞する可能性もある。
		職業安定所（職員）	・当地における新規求人数が前年から6.1%増加しているほか、月間有効求人数も11か月連続で前年を上回っており、全体としては回復の兆しがみられる。ただし、産業、業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況や経済活動、消費行動の状況によっては先を見通せなくなる懸念がある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・これまで2年間にわたって、対面での新卒採用活動が困難であったが、2023年卒業予定者に対しては、指導する大学側においてもWeb説明会やWeb面接への対応についての事前指導が行き届いていることから、前年より早めの内定出しが見込まれる。個人消費の面では上向き傾向は感じられないが、企業側の採用動向をみる限り、景気は上向いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・まん延防止等重点措置の解除はレストランなどの飲食業界にとってプラス要因であり、この業界からの求人数の増加が見込まれる。さらに、流通業界においてもゴールデンウィークの需要を見込んだ春のキャンペーンシーズンを迎えて、人材の調達意欲が高まることになる。新入社員が入ることによって正社員の頭数は増えるものの、即戦力の人材への需要が落ち込むことはないと思われる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・全体的に人手不足が続いている。潜在している人材獲得欲求が強いことから、何らかのインパクトがあれば、求人数も増加することになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、ようやく経済が動き出す準備が整ったが、ウクライナ情勢などの影響による原油価格と原材料価格の高騰、円安などが懸念材料となっている。
		職業安定所（職員）	・4～6月は北海道観光の良い時期であり、まん延防止等重点措置が解除されたことで、人の動きが今よりは活発になる。ただ、いまだに新型コロナウイルスの感染者が一定数みられることから、急激に景気が良くなることまでは考え難い。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が増加傾向にあるなど、新型コロナウイルスの終息を見越した動きが感じられる。一方、新型コロナウイルスの影響で雇用調整助成金の申請件数が増加傾向にある。これらのことから、今後も景気は変わらない。
		*	*
	x	*	*

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)		-	-
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスに慣れて消費が動くともみている。
		百貨店（営業担当）	・ウィズコロナの定着がみられ、市内中心部のイベント再開で県内外からの来街増加も見込まれることから、来客数は増加に転じると想定される。
		百貨店（買付担当）	・月末の売出しは比較的好調で、季節の変わり目とともに幾分購買意欲は高まってきているような感じがある。得意客がメインになるが、衣料品のまとめ買いも出てきており、少し上向き傾向にある。
		百貨店（経営者）	・ワクチン接種者も更に増え、来客数も少しずつ戻るとみている。一方で、原油価格高騰などの影響による価格転嫁で、節約志向が増えていくと、再度消費マインドが冷え込む可能性も否定できない。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症新規感染者数の増加に歯止めは掛かっていないが、当面は単価の増加が見込めるため、販売微増が続くと推測される。
		コンビニ（経営者）	・3回目のワクチン接種が進んでいるので人の動きが良くなり、来客数が増加するとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・まん延防止等重点措置の全国一斉解除による人流増加に期待している。コロナ禍次第ではあるが、盛夏に向けて来客数の増加にも期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・政府の新型コロナウイルス対策も緩んできているなかで、春の行楽に向けて人の動きが活発化することが予測できる。このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していけば、景気の回復も見込める。
		コンビニ（エリア担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたこともあり、ウィズコロナに人々が慣れてきている。
		コンビニ（店長）	・気候も暖かくなり、桜も咲き、消費者の気持ちも上がってくるという希望的観測から、徐々に上がっていくともみている。
		衣料品専門店（経営者）	・暖かくなれば灯油の消費量も抑えられる。また、今よりは開放的になり出掛けようという気持ちも出てきて、購買意欲につながるもみている。
		衣料品専門店（経営者）	・3回目のワクチン接種が行き渡れば、少しずつ景気回復してくると予測する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（店長）	・ビジネスマンの出張など出掛ける人が増えてきて、例年どおりになりつつある。出張が増えれば、スーツの新調なども出てくるため、リモートオンリーの社会でなくなれば、我々の業界も少しずつ潤ってくるとみている。
		衣料品専門店（店長）	・4回目のワクチン接種を進めるという発表など、ウィズコロナに向けて前もって対策が打ち出されており、消費者も気を付けながら日常を取り戻す消費行動をとる人が増えてくると予想できる。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン代がかなり高くなっている。新型の軽の電気自動車が出るので少し上向くとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の発表も控えており、それに向けた活動で良い情報も出てきている。納期も徐々にではあるが回復している。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・新型コロナウイルスオミクロン株が収束し、Go To Travelキャンペーンなどの消費意欲向上対策が再開する見通しである。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・前年はファン付きの作業服が非常に好調だったが、今年はそこまで動くかは分からない。暑い夏になるのか冷夏になるのかでも大分変わってくる。ここ2年の間の買い控えなどが少しずつ解消されていくとみているので良くなると期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新幹線が復旧することにより人の流れが変わってくれば、売上の伸びも期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・当地は観光地ということもあり、新型コロナウイルスの感染が落ち着いてくれば観光客も戻り、客も戻ってくると期待している。しかし、原料高、材料高、戦争などいろいろなマイナス要素もある。予約は今のところ入っていない。良い方向に向かってほしいと願っている。
		一般レストラン（経営者）	・来客数がやや増えてきている。また、予約もグルメサイト経由、個人共にやや増えてきているが、新型コロナウイルス発生前と比べるとまだまだである。この状況がもう少し続けばかなり戻るとみている。
		一般レストラン（経営者）	・全国的にまん延防止等重点措置が解除され、少しずつではあるがウィズコロナで外に出てくるような兆しがみえる。前月、今月とずっと悪かっただけに、来月以降は多少なりとも良くなっていくとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・慣れにより、新規感染者数に関係なく客が動いてくるとみている。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着き、Go To Travelキャンペーンなど支援策などがスタートすれば少し良くなるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・まん延防止等重点措置が適用されないことが前提ではあるが、個人旅行では春休みやゴールデンウィークといった比較の間際の申込みに加え、夏休みの申込件数も増加している。また、団体旅行では小グループから大型バス1台程度の人数での引き合いが出始めていることから、今月以上の取扱が期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、徐々にだが普通の生活に戻るため、良くなるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・今後、県民割の拡大や全国版Go To Travelキャンペーンの再開といった国策の拡大と、そこに起因した外出気運の醸成等により、復活をしていくものと期待する。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数が減少し始めていることに加え、新幹線の全面復旧、ゴールデンウィーク、新緑の季節といった要因もあり、人の動きが増大すると推察される。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数も減り、人々の往来が増える。自宅で過ごしていた分、観光など出掛けた際には気分が大きくなり、土産なども購入するきっかけになるとみている。
		観光名所（職員）	・感染状況により客の動きがピタッと止まることはなくなった。客もウィズコロナ、どのように行動するかを考えながらの動きに変わってきているようである。今後はもう少し客が増えてくれば景気は回復していくとみている。
		競艇場（職員）	・気温が暖かくなってくると外出する機会が増えるので、今以上に客足は良くなる。イベントや広告などで販売促進すれば客は集まり売上が上がるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・3回目のワクチン接種が進むことにより、客の警戒心も多少は緩み、コンスタントな来店も期待できるようになる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりの傾向にある。治療薬が開発されない限り戻らないとみている。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・3度目のワクチン接種が定着していることにより、外に出て買物をする機会は増えてきている。しかし、依然として売行きが良い商材がないため、いろいろと模索しているが難しい状況である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・春に向かって化粧品や新製品が出てくることに加え、体調を崩しやすい時期なので、それに伴う滋養強壮剤の売行きが良くなると見込んでいる。新型コロナウイルスの感染状況に変化がなければ、今後少し良くなっていくとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ガソリン、灯油等の価格高騰に追い討ちを掛けるように来月1日から酒類及び食品の多くが値上げとなる。客先でも値上げに関しては諦めムードが漂うなか、どこまでこの値上げが経営を圧迫するのか不安である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・国際情勢の影響で物価が全般的に上がってきている。一方、積極的な財政出動により、インフレ傾向となるのではないかと。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況の収束と客の購入意欲が戻ることを切に願っている。
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルス新規感染者数の高止まりや、ガソリン、食品などの物価上昇等、消費が上向き要素が見当たらない。
		スーパー（店長）	・度重なる商品の値上げに加えて、コロナ禍が続いていることにより社会全体の景気が悪くなっている。来客数の減少も続き、客の購買意欲も低下傾向にある。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が思ったよりも減っておらず、客の動きに変化はないとみている。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いている。食品小売業に関しては内食需要もあり、安定して売上は高水準となっている。
		スーパー（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしており、行楽での外出も現状から大きな変化は見込めないが、ゴールデンウィークのおうち需要には期待感を持っている。
		コンビニ（経営者）	・相変わらず客単価や購入点数は堅調だが、人の動きに明るさがみえず、新型コロナウイルスの話題がニュースから消えるまでこの状態が続くとみられる。人出が若干戻れば、堅調が続いている客単価や購入点数から売上が順調に伸びるとみている。
		コンビニ（経営者）	・雪が溶けても、新型コロナウイルスの感染が落ち着かないので来客数は増えないし、売上も下がり続けている。リモートが定着し、自炊回帰が増えているなかで、コンビニの必要性和需要の意味を再度考える必要がある。人もいないし、利益も出ない。そのようななかで24時間、365日をやり続ける意味はあるのであろうか。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、花見のシーズンに入れば来客数も増加するので、売上に結び付けたい。
		衣料品専門店（総務担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、4月からの新年度による学生需要に期待したいが、先行きは不透明である。
		家電量販店（従業員）	・3月16日に発生した地震の関係で客の消費行動に変化があるとみている。家電製品の購入に関してはやや下降気味になることが予想される。
		乗用車販売店（店長）	・今回の工場ストップの影響は限定的とみられる。幸い受注のストックもある程度持って年度末に臨めるので、悲観はしていない。
		自動車備品販売店（経営者）	・歓迎会なども機会が減ることが予想される。
		住関連専門店（経営者）	・受注生産なので、契約したのを作って納めることになる。新たな受注を取るのが厳しい状況は2～3か月前とほぼ変わらず、受注が取れていない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・今後、まん延防止等重点措置等がないという前提であれば、徐々に持ち直すと予想している。しかし、欧米のような政府や自治体の新型コロナウイルスに対する明確な対応や指針がなければ変わらないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔靴〕 (従業員)	・依然として回復の兆しが見えない。3回目のワクチン接種と小児ワクチン接種の効果に期待している。
		高級レストラン(スタッフ)	・電力不足が懸念されている。
		観光型ホテル(スタッフ)	・物価高騰による影響は少しずつだが出てくるとみている。
		観光型旅館(スタッフ)	・新型コロナウイルス感染症に加え、ウクライナ情勢の影響が大きい。身の回りの物価が上がり、旅行に使う余裕がないという状況下になる可能性も考える。いずれにせよ終息を待ちたい。
		タクシー運転手	・3月16日の地震の影響で、人の動きが変わっている。
		タクシー運転手	・庶民を取り巻く状況は悪い条件だけがそろっているが、そのなかでも我々の生活が上向きになるよう皆努力をしているので、そうなるよう期待している。
		通信会社(営業担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大が続き、過去最高の感染者数を更新しているため、契約訪問営業にキャンセル等が出ている。また、飲食店などの店舗の休業が続いているため、契約者の解約も増えている。今後の収束状況によるが、新生活応援キャンペーン等の加入促進活動がしばらく実施できないので、加入者数の増加は期待できない。
		通信会社(営業担当)	・景気が良くなる動きが見えない。
		遊園地(経営者)	・新型コロナウイルスに対する心理的な影響はともかく、ウクライナ情勢の影響、諸物価の上昇が懸念され、景気の好転は難しいとみている。
		美容室(経営者)	・常連客が決まっているので、特に変わらない。
		設計事務所(経営者)	・全体的な景気は依然回復基調がみられない。
		住宅販売会社(経営者)	・建て替えを考えていた高齢の客が、減額したりリフォームに切り替えている。
		その他住宅〔リフォーム〕(従業員)	・リフォームは屋外の工事が増え、住宅設備機器はエアコンを早めに交換する動きが増えると予想している。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕(従業員)	・3回目のワクチン接種と新規感染者数の減少に時間が掛かるとみている。
		商店街(代表者)	・コロナ禍もずるずると続きそうであり、消費が増える感じはない。また、ロシアのウクライナ侵攻などによる経済的な影響が2~3か月先にはいろいろと出てくるとみられる。景気が良くなることはまずない。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの感染状況の収束がみえないなか、商品の全般的な値上がりやロシアのウクライナ侵攻等、経済不安が続いており、景気に明るい兆しが見えない。
		商店街(代表者)	・ウクライナ情勢、円安による物価高騰の影響がある。
		スーパー(経営者)	・4月はロシアのウクライナ侵攻の経済への影響が一段と大きくなってくるとみている。小麦や原油等の輸入価格は上昇し、円安も加わり、輸入価格の上昇は抑えられず、商品の販売価格は更に上がるものとみられる。労働単価の上昇が少しあっても、原材料の価格高騰で諸経費が上がるため、家計の可処分所得は下がり、買上点数も減ると危惧している。消費は良くない傾向が続くとみている。
		スーパー(経営者)	・様々な物価が上がっており、客はますます価格の安い店に流れるとみている。メーカーのような上流ではインフレ、小売のような下流ではデフレ傾向が強くなるとみられ、スタグフレーションが懸念される。
		スーパー(店長)	・電気、ガスの光熱費の上昇が企業収益を圧迫すると予測している。収益圧迫の影響で景況感はやや下向き傾向になるとみている。
		スーパー(営業担当)	・海外情勢の不安から値上げに対する防衛策として、また、地震による防災意識の高まりにより、節約志向が強くなるとみている。
		コンビニ(経営者)	・まん延防止等重点措置が解除になったが、物価が上がっているため、来客数は何とか横ばいでいってほしい。
		コンビニ(経営者)	・食品の価格上昇で、多少買い控えが発生するとみている。売上は伸びずに原価が上昇するので、利益が減少して厳しくなる。
		コンビニ(エリア担当)	・新生活需要時期で、本来は消費意識は伸長する時期であるが鈍化傾向にある。新型コロナウイルスと地震により東北の景気は厳しい。4月末からの連休でどれだけ客足が戻せるかで夏までの景気が決まってくるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・世界情勢が不安定であるため、様々な面で経済が悪化することが予想される。
		家電量販店（店長）	・客の身の回りの環境において、世界情勢や物価上昇など将来に向かって不安な要因が増えてきているため、客の購買意欲がやや低くなっている。今後、更に悪くなるとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルス感染は落ち着きつつあるが、依然として各方面に影響を及ぼしている。また、ウクライナ情勢は収束の気配がみえない。現状より悪くなる条件がそろっている。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足はしばらく続くということなので、直近の景気は変わらないとみている。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症は依然収束しないことに加え、ガソリンや食品等の価格高騰により、耐久消費財への出費はかなり抑えられることが考えられるため、景気の上昇は見込めない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・今後の世界情勢の動向によるが、販売価格は上昇したままの状況が続くとみられ、回復は見込めない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・春～夏にかけて灯油の販売量が減ってくる。給油所部門もガソリン価格の高騰で販売が減ってくるとみている。
		高級レストラン（経営者）	・地震の影響や、果たして新型コロナウイルス感染症は終息に向かうのかなどの懸念があり、先が見えない。
		通信会社（営業担当）	・今年に入り、原油高に加え各種物価が値上がりしている。一部企業ではベースアップが見込まれるが、政府が掲げるような賃上げにはなっておらず全体的な底上げには程遠い。値上げに伴い従来よりも消費が冷え込み、景気は悪くなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻により、更なる景気の悪化が予想される。
		通信会社（営業担当）	・当面、電気、ガソリンの価格高騰は変わらないとみている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・現状のままで迎える転勤新学期シーズン、Go Toキャンペーン復活、大型連休に不安が募る。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・これから暖かくなり人が多く集まる機会がたくさんあるので、新型コロナウイルス感染は下火にならず、現状維持かもっと多くなるとみている。また、物価の上昇がますますひどくなり経済も落ち込むので、状況は悪くなる一方である。
	×	スーパー（経営者）	・ウクライナ情勢による原油高、さらには食料品価格の上昇が今後も続き、客のマインドは更に節約志向に入る。このインフレ状況を自分の可処分所得で賄っていくことが非常に厳しい状況になってきている。
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で集客率がなかなか上がってこないで、これからもっと悪くなっていくとみている。
	×	衣料品専門店（店長）	・ロシアのウクライナ侵攻による世界制裁の影響で物価の上昇が予想され、消費は冷え込むとみている。
	×	一般レストラン（経営者）	・新シーズンが動き出すために必要な部分は一時的に景気が良くなるが、世の中全体の景気が良くなるには材料不足である。また、ここに来て様々な要因により生活必需品の価格も上がり出している。根本的な要因を再度見直して国を立て直してもらわなければ、一般消費の活性化は見込めない。
	×	通信会社（営業担当）	・メーカーで部品調達ができないことにより生産力が鈍化し製品化ができず、売上や利益に打撃を受ける。失業率も上昇し、税金を投入しても将来的に景気が悪くなる。先行きは不透明である。
企業 動向 関連 (東北)		食料品製造業（製造担当）	・まん延防止等重点措置の解除や交通網の復旧に加え、ゴールデンウィークがあることから、今まで抑えられていた分、人流が活発になると予想される。
		建設業（企画担当）	・仕事で接している客先の動向等により、良くなるとみている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症に関する規制が緩和され、また新幹線が復旧することで県内の交流人口の増加が見込める。
		食料品製造業（経営者）	・新幹線の再開やGo Toキャンペーンの開始により、状況が良くなることが期待できる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束するのを期待したい。また、新規事業の立ち上げを予定している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスやウクライナ問題などの不安要素はあるものの、受注予測としては上向きである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・客先の新年度の予算取り情報からすると、前年度よりは活発化する見込みの企業が出てきており、4月以降随時動いてくることが見込まれる。
		広告業協会（役員）	・新型コロナウイルス第6波が緩やかに収束に向かい、イベントの収容人数制限が完全に撤廃されれば、広告業界の業績回復には大きな一歩となる。
		公認会計士	・全国的に新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着いてきているので、小売、サービス、飲食業に消費者が戻りつつある。製造業関係は半導体不足の影響で不安があるが、建設関係がこのまま一定の好調を維持すれば、全体としては景気はやや良くなるとみている。
		建設業（従業員）	・年度をまたいで大型の民間設備投資が続く見通しである。
		輸送業（従業員）	・東北新幹線運休に伴う特需がみられるが一時的であり、復旧後は従前の厳しい状況になると予想する。
		通信業（営業担当）	・今後も気を抜くことなく、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら営業努力を継続していくのみである。
		金融業（広報担当）	・半導体不足や電子部品、鋼材、建築資材などの価格高騰は継続が予想されている。コロナ禍や地政学リスク顕在化の影響から小売商材価格も上昇中のため、個人消費の回復も見込みにくい。
		経営コンサルタント	・政治経済のグローバルな安定が見通せない限り、景況悪化傾向に変化はないとみている。
		司法書士	・不動産登記申請件数は前年比4%の増加であるが、住宅新築件数の減少傾向が継続している。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・観光シーズン前という季節要因からの観光客の増加はまだ望めない。また、地震への警戒から観光客の足が当地に向きにくくなっていることが考えられる。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・見積案件及び受注実績は微増から増加傾向にあるものの、原材料を始めとした調達コストの急騰により収益はますます厳しくなる。今後のインフレ、供給制約などによりこの先の動向は不透明感が増している。
		農林水産業（従業者）	・農作業の春の生産資材の値上がりがか心配である。また、果物の開花が前年よりも1週間くらい遅れる予想なので、お盆前のももの収穫期の遅れも心配である。
		食料品製造業（営業担当）	・販売量の5～10%減少は当面続くとみている。さらに、原材料等のコスト高による利益減少が顕著になっており、やや悪くなる見込みである。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度末という特殊要因はあるものの、原材料価格の上昇、燃料費の高騰など仕入原価の増加により粗利幅が縮小している。販売価格への転嫁を図るべく営業強化しているものの、交渉難航先が多く、他社への乗換え打診など競合が激化している。景気回復は国の政策次第である。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・ロシアによるウクライナ侵攻の影響や国内での各原材料、生活用品の値上げに賃金が全くついていかず、業績も生活も良くなる兆しがみえない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・ロシアのウクライナ侵攻による様々な経済制裁の影響が、今後徐々に電子部品事業にマイナスに働くと考えられる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・既設納入メーカーへの特命発注案件が、軒並み競争発注に移行している。
		建設業（従業員）	・原油価格の高騰が続く間は、原材料の価格が高止まりすると見込んでいる。
		輸送業（経営者）	・3月に入りウクライナ情勢が悪化するにつれ、原油の取引価格が更に高騰している。加えて円安が進んでおり、業界としては自助努力の域をとくに超えている。また、全体的に物の動きも良くない。景気動向については悲観的見方をせざるを得ない。
		通信業（営業担当）	・半導体の影響が長引いているため、需要に対して商品の在庫がなく、提供できない状態が続いている。
		広告代理店（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻が長期化し、原材料価格の高騰、物価の上昇などで日本企業の業績が悪化することを懸念している。
		コピーサービス業（従業員）	・主力商品であるIT関連商材の納期が見通せず、厳しい状況が続いている。この先も厳しい状況は続く見通しである。
	x	農林水産業（従業者）	・ロシアのウクライナ侵攻で、燃料価格や農業資材価格は今後も高騰する状態が続くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・ウクライナとロシアの戦争が世界全体の不景気の要因になっている。油、原料、資材等、全ての値上がりに結び付いている。戦争が終わったからといって元の状況に戻ることは考えられないため、販売は非常に慎重になって、購買力も落ちると予想している。1～2年は元に戻ることはなく、不景気状態が続くとみている。
雇用関連		*	*
(東北)		人材派遣会社（社員）	・求人数と求職者数の両方が増加している。今後も当面はこの局面は継続するものと捉えている。
		アウトソーシング企業（社員）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着きつつあるので期待したい。
		職業安定所（職員）	・洋上発電工事が始まり作業員の食事や宿泊先の需要があるため、飲食店や宿泊施設への新型コロナウイルスの影響は引き続き最小限に抑えられている。また、大型工場の進出が決定している。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数共に、前年9月以降6か月連続で前年同月を上回っており、今後しばらくはこの傾向は続くともっている。
		民間職業紹介機関（職員）	・3月16日の地震の影響も少なからずあるが、企業からは今後求人数が戻ってくる見込みがあるとの情報も入っている。
		人材派遣会社（社員）	・ウクライナ情勢を含めて先行き不透明であるため、3月末の退職の補充はあるものの、新しく人を採用して事業を拡大するという動きは一旦様子見の動きが多い。特に製造業は非常に先行きが不透明なので、人の採用について一旦保留にしている企業が多いと認識している。
		人材派遣会社（社員）	・良い意味でも悪い意味でも余り大きな変化がみられない状況になっている。
		人材派遣会社（社員）	・求職者の動き、求人の動きに余り変化がみられない。
		人材派遣会社（社員）	・ロシアのウクライナ侵攻や東北の地震、新型コロナウイルスの感染状況の収束鈍化などにより先行き不透明になっている。原油高がこれ以上進行するようであれば景気下振れもあり得る。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの影響は徐々に収まってくるとみているが、世界情勢不安でしばらくは景気回復は難しい。
		学校〔専門学校〕	・全国的な新型コロナウイルス新規感染者数の推移が読みきれない。
		人材派遣会社（社員）	・世界情勢、物価上昇などの影響がある。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・コロナ禍が収まる一方で、ロシアのウクライナ侵攻の影響が深刻化するおそれがある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの感染状況の収束と新幹線復旧が見込まれる4月末までは悪化が続く。ウクライナ情勢まで考えると物価の上昇も予想され、景気が良くなる要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・ロシアによるウクライナ侵攻の様々な影響が各産業に出ているとみている。
	職業安定所（職員）	・雇用維持政策がどこまで続けられるのかが不透明であり、終了した場合に倒産・解雇となるような事業所が増加してしまう可能性がある。	
	x	-	-

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北関東)		百貨店（店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種率の向上や、新規感染者の減少が続けば、確実に景気は上昇する。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスはなかなか収まらなさそうだが、人々の経済を回そうという意識が高まってくるので、景気は良くなる。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・パンデミックから抜け出せると感じている。
		観光型ホテル（経営者）	・最悪の2年間を乗り越えて、そろそろ通常どおり営業したいという期待も込めて、良くなるかと回答している。
		都市型ホテル（総支配人）	・宿泊はゴールデンウィークを中心に、個人予約が伸びてきており、学生のスポーツ大会等の団体予約も入ってきている。料飲部門も少人数の会食や宴会等が動き出してくると見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・まん延防止等重点措置の解除前から、客足が徐々に増えてきている。こうした客の状況をみると、各自で判断して旅行に出かける方が増えてきているようである。特に、この3月は、卒業旅行の若者のグループや、進級を控えた子供連れの家族が目立っている。Go To事業は有り難いが、そのお陰で密ができてしまうので、密を避けるためにも、Go To事業が始まる前に旅行に行こうと考える方も一定数いる。自粛疲れもあり、Go To事業を行わずとも、旅行の需要はあると感じている。
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・まん延防止等重点措置が解除になったことで、多少は違ってくるとは思うが、新型コロナウイルスの感染者数がかかり減っていかない限り、皆、気を付けているので、今までや昔のように、外食や飲み歩き等はしないのではないかと。
		百貨店(営業担当)	・来客数の増加で、これまで以上の買い回りが期待できるため、やや良くなる。
		コンビニ(経営者)	・相次ぐ商材の値上げや、戦争など世界情勢への不安も感じるものの、今年に入って新型コロナウイルスとの共存は進んでいる。日中の人出や車の動きは以前に近くなってきている。3～4月は人の移動もあり、今後の変化に気を配りながら、客の要望の変化に対応して、商材の品ぞろえ等を注意し、売上を伸ばしたい。
		コンビニ(経営者)	・競合店の閉店により、やや良くなる。
		コンビニ(店長)	・新型コロナウイルスの感染状況は、収束していくのではないかと。
		一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・季節的にも暖かくなるので、上向くと予想している。
		都市型ホテル(支配人)	・先の予約数の動きが増加傾向にある。
		都市型ホテル(スタッフ)	・まん延防止等重点措置が解除となり、少しずつ来客数も増えていく気配はある。とはいえ2019年と比べると、宿泊は約70%、レストランが約85%、宴会に至っては35%と、新型コロナウイルス禍前とは程遠い。特に宴会は、金融系がまだ動かないため、低調のまま推移している。
		旅行代理店(経営者)	・Go To Travelキャンペーンが再開予定のため、やや良くなる。
		旅行代理店(所長)	・まん延防止等重点措置が全国的に解除され、加えて、地域限定割引の再開とゴールデンウィーク以降にはGo To Travelキャンペーン再開も見込まれるため、旅行予約の動きは、今後活発になると期待される。
		旅行代理店(従業員)	・このまま需要がなくならなければ回復する。
		通信会社(営業担当)	・新型コロナウイルスのワクチン接種率が上がることで感染率が低下すれば、人の動きも活発になり、消費回復が期待できる。
		テーマパーク(職員)	・新型コロナウイルスのワクチン接種率向上に加え、新規感染者数増加が抑えられれば、春休みやゴールデンウィークに向けて、来園者数の増加が期待できる。
		競輪場(職員)	・まん延防止等重点措置も解除され、天候も暖かくなるので、今月よりも良くなると期待したい。
		一般小売店〔精肉〕 (経営者)	・暖かくなってきて、人の動きが良くなることを希望するが、新型コロナウイルスオミクロン株の減少が第一だと思っている。感染が落ち着いてくれば、幾らか人の動きも良くなってくるので、期待が持てそうである。
		百貨店(営業担当)	・まん延防止等重点措置が解除されたものの、新型コロナウイルスの新規感染者数は依然多く、収束に向けた見通しは不透明である。また、エネルギー価格を始めとした物価高騰による生活防衛意識の向上により、消費低迷はしばらく継続する。
		百貨店(店長)	・まん延防止等重点措置が解除となるも、新型コロナウイルス新規感染者数が減らず、売上の回復には厳しい状況が続くと考える。
		スーパー(商品部担当)	・景気回復支援事業も拡充されそうな感じで、人々の動きが出るような話題も多く、期待している。ただし、先行きに対する不安感は払拭される感じはなく、現状維持が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（統括）	・変わらないと回答したが、このまま最悪の状況がまだ続くような気がしている。特に、祭礼用品を扱う当店の商売は、職人仕事も多いが、仕事が滞っている。なかなか注文がなく、職人も高齢になっているので、辞めてしまう業者が多くある。今後、正常に戻っても、今度は商材の提供が難しくなるのではないかと。
		衣料品専門店（販売担当）	・もう2年以上同じような対応策で、新型コロナウイルスの感染者が増えると、飲食店を中心に社会経済活動を止めてしまうので、何回も同じつづを踏んでいる気がする。もう飲食店だけを止めても何の効果もないのが、分かっているのではないかと。今後は、きちんと見える化した形で、国民全体が動き回れるように、良い悪いを見極められるような政治決断が必要になってくるのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは、部品のサプライチェーンからの納入が今一つ順調ではないため、時折、生産停止日を設定している。依然として受注から納車までの日数が掛かっている状況である。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型コロナウイルス禍が落ち着かない限りは、当社は観光地を控えている立地なので良くならない。このままずっと新型コロナウイルスが落ち着くまでは横ばい状態で、景気は良くならないが、これ以上は悪くもならず現状維持だとみている。
		自動車備品販売店（経営者）	・ここ1～2か月は、人の動きや販売量はほどほど戻ってはきている。ただし、いきなり人や販売の動きが止まったり、仕入れがうまくいかなかったりという要素があるので、今のところ先が読めない。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が全国的に解除されたが、客の動きが急に良くなるとは考えにくい。また、長期的に生活スタイルが変わり、物への消費に厳しくなってきた。一方、供給側の問題として、メーカーの商材供給の不安定さは素材価格上昇と生産の不安定さが大きな原因と考えられる。
		タクシー運転手	・地方では、まだまだ時間が掛かりそうな気がする。
		タクシー（経営者）	・夜の動きが悪いので、この先も変わらない。
		ゴルフ場（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況が分からないため、変わらない。
		設計事務所（所長）	・3回目の新型コロナウイルスワクチン接種が進んではいないものの、まだ新型コロナウイルス新規感染者が減少しているとはいえ、景気回復の兆しは見えない。
		設計事務所（所長）	・いろいろな物価が値上がりしたため、生活に影響が出てくる。景気が良くなる要素はない。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況に落ち着く気配がないため、流通状況は改善されないと予想している。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・住宅への関心は高いものの、新型コロナウイルスの影響は続くとは予想されるので、良くなるとは余り期待できない。ただし、現状以上に悪くなることも考えにくいので、変わらない。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス禍によって国から借りた借入金の返済が迫ってきているが、一向に売上が見込めないため、大変苦しい。
		スーパー（総務担当）	・電気、ガス料金の値上げや、その他各商材の値上げが続くため、やや悪くなる。
		家電量販店（店員）	・今後の天候要因による季節商材の伸びと、巣籠り需要の継続が期待される。ただし、新型コロナウイルス禍の動向や半導体の供給度合いによる商材生産能力が心配される。
		乗用車販売店（従業員）	・受注残が減少している状況が、依然として続いている。
		住関連専門店（店長）	・ウクライナ情勢の今後がいまだみえない上、新型コロナウイルスの感染拡大第7波もいつ発生するのか不明なため、やや悪くなる。
		住関連専門店（仕入担当）	・生活防衛意識はさらに高まり、し好品への消費は抑制される。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・ウクライナ情勢や新型コロナウイルス感染状況等の影響次第で、今後も事業所給食の提供食数は影響を受ける懸念がある。また、食材、エネルギーコスト、人件費の上昇により、収支面で厳しい状況が続くことも懸念される。
		通信会社（社員）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響等、物価上昇が予想され、景気は余り良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・新年度からキャリアによる代理店手数料の改定があるため、やや悪くなる。
		通信会社（局長）	・ウクライナ情勢や東北地方で起きた地震により、電力価格が高騰しており、新規受付を停止する等の対策が必要になるため、やや悪くなる。
		美容室（経営者）	・小さな地方都市で、新型コロナウイルス倒産ではないが商売の先行きに不安があり、廃業を考えているという声をよく耳にする。生活形態がすっかり変わり、外出を控える状態に人々が慣れてしまうことで、営業ができなくなりそうである。老舗店こそ経費のしわ寄せは経営者に集まる。こうなるとなす術がなく無力である。
		美容室（経営者）	・株式投資は対価としてリスクに見合う利益が伴わなければうまみはない。投資家を優遇する税制を望む。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・ひっ迫した経済状況は、回復の兆しも見えない。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・物価高に給料が追い付いていない。店としても材料費等の高騰分を価格に転嫁せざるを得なくなってくるが、それ以上に客の負担が増えるということなので、悪くなる。
	×	コンビニ（経営者）	・世間がこのような状態で客が全然来ないことが原因である。
	×	家電量販店（営業担当）	・ロシアとウクライナの戦争が大きく影響しているため、終息に期待している。
	×	一般レストラン（経営者）	・4月から、更に物価が上がるのに給料が上がらないので、外食は限定的だと思われる。当店でも仕入値が上がるのは間違いなく、場合によっては値上げも検討しなくてはならない。この先しばらくは不景気になっていくだろう。
	×	一般レストラン（経営者）	・原材料はとにかく何でも値上げである。輸入品も輸送料の関係で上がる。消費者も慣れるまでは買い控え等があるのではない。
	×	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・円安で当社のような輸入に頼っている職業は、全ての物が値上がりしている。円安以外でもウクライナの関係で、小麦粉や燃料等が上がってきており、通常、年間である程度の値幅はあるが、1年に何度も値上げがあつて、売値を上げなくてはならない。インフレも起きていて、客の給料が上がらないなか、近い将来すぐにも、購買が落ちてくると考えられる。
	×	都市型ホテル（経営者）	・まん延防止等重点措置は解除されたが、一向に客足は戻らない。
	×	通信会社（経営者）	・仕入コストの高騰が止まらない。4割くらいしか売価に転嫁できないのが現状である。量的緩和もいい加減にしてほしい。10年近く続けた金融政策も効果がないことは明確である。また、ロシアのウクライナ侵攻で状況は一変したにもかかわらず、金融政策の現状維持は余りにも無策ではないか。言うまでもなく、業績は最悪である。既に経常赤字国になっている日本も、利上げをすべきではないか。
	×	通信会社（経営者）	・飲食店のみならず、まだまだコロナの影響は多大であり、関係会社やユーザーである飲食店や中小企業が、3月末時点で5社、廃業や閉店に追い込まれている。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	・ロシアからの原料入荷がなく、国内製造がストップしていることと、新型コロナウイルスの影響により、アジアからのコンテナが入らないため、商材を発注しても入荷の見込みがない。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-
		経営コンサルタント	・まん延防止等重点措置が解除になり、消費の加速度的な拡大傾向が続けば、地域経済も着実に盛り上がってくる。
		社会保険労務士	・政府は物価上昇に対して景気対策を打つだろうが、参議院議員選挙もあるので、そこそこ効果が出るかとみている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・商談件数、受注量からみても業績は改善されると思われる。ただし、取引先の調達コストは増加傾向にあり、先行きの情報化投資を控える取引先も出てきている。
		化学工業（経営者）	・漂っている不透明感が払拭できないため、現状より良くなるとは考えていない。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・例年以上の売上で年度末を迎えられる。
		金属製品製造業（経営者）	・景気が良くなる話はない。これからは自己努力をして、良い取引先を探さなければならないが、なかなかそういう取引先を探すのは大変である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・昇降機の3か月後の受注量は好転するかと思ったが、新型コロナウイルス禍前の8割止まりかというところである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻の今後の予測が付かない上に、世界的な半導体関連商材不足がどうなるかによっても大きく変化するので、正直予測は全く付かない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・3月は1～2月と比べてかなり仕事が増えてきたが、2～3か月先は、まだロシア問題等があるので、全くどうなるか分からない。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・まだしばらくは、新型コロナウイルスの影響が残ると考える。
		輸送業（営業担当）	・例年同様、キャンプ、バーベキュー、レジャー用品等や、園芸用品等の物量は前年並みを確保予定である。しかし、ウクライナ情勢等の影響による原油価格高騰や円安による輸入品の割高感により、物量減少等の不安材料は多い。
		不動産業（経営者）	・入退居の時期が終わると、作業依頼は少なくなる傾向にある。
		広告代理店（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除になったが、すぐに経済が大きく回るわけではないので、閉店や廃業する飲食店は、もっと増えるのではないかと。
		司法書士	・新型コロナウイルス対策について、少し思い切った措置を取っていくようになれば変わってくるのではないかと。現在の対策は時期を逸した感じで消極的すぎると感じている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ウクライナとロシアの戦争が始まった。これがいつまで続くか分からないので、先が見通せない。とにかく早く戦争が終わってほしい。
		建設業（総務担当）	・発注量がとにかく少なく、先が読めず不安である。
	×	一般機械器具製造業（経営者）	・自動車、建設機械等のロシア向け輸出の動きが止まるとともに、様々なコスト上昇が顕著であり、先行きの状況は厳しくなる。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・主要な取引先から、5～6月以降の受注量がかなり落ち込んでいて、春はまだ良いが夏頃には受注が落ち込むという情報をもらっているの、悪くなる。
	×	建設業（開発担当）	・今期の公共工事発注は1か月を残した現在、前年比14%減である。長引く新型コロナウイルス禍の影響である。建設業は10年以上前から不況業種で、その影響から新入社員の確保が難しくなっている。当社も社歴55年になるが、社員の確保が難しく、魅力ある会社作りが課題である。今期売上は前年比10%減と厳しい状況で、会社の維持が大事である。
	×	不動産業（管理担当）	・新年度からは経費増加で値上げを受け入れてくれる取引先もあるが、それ以上に資材や燃料の値上がりの波が大きく、利益増にはならない見込みである。取引先でも、主に清掃関連費用削減のため、自社の社員で行ったり頻度を下げる等、依頼回数を減らすところがあるため、売上減少が予想される。
雇用 関連 (北関東)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・まん延防止等重点措置が解除されたばかりで、取引先の宿泊施設の稼働率はまだ非常に低いと、これから季節柄も良くなってきて、再びまん延防止等重点措置が適用されるようなことがなければ、稼働率はどんどん上がっていく。
		人材派遣会社（社員）	・業種によるが、製造業やサービス業では人材不足が続いており、引き続き受注が増える見込みである。
		職業安定所（職員）	・当県のまん延防止等重点措置が解除になったことから、飲食業及び関係する卸売業からの求人が増加傾向にある。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・新型コロナウイルスの感染状況が収まりつつあり、ワクチン3回目接種も少しずつ進んでいる状況で、経済活動が活発化していくのではないかと。
		人材派遣会社（経営者）	・4月からの値上げを前に、住宅改修や公共事業等も含めてだが、工事契約等が活発になっている。この先3か月以内は、現状維持ではないかと。新入学等の新生活に向けた生活用品準備も現状維持とみている。
		人材派遣会社（管理担当）	・サービス業への派遣は伸びているが、製造業への派遣が停滞しているため、変わらない。
		職業安定所（職員）	・求人数等は前月や前年同月と比較して、余り変わらない状態が続いている。製造業からは、「受注残の仕事はあるが、物流が滞り材料が入荷しないため、納期遅延の状況もある」と聞く。原油価格高騰のなか、海外情勢も加わるため、作業量が回復していても雇用を控えるのではないかとと思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		*	*
	x	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		その他専門店〔雑貨〕 (営業担当)	・まん延防止等重点措置の解除を受け、人流が急速に回復しているなか、Go To Travelキャンペーンなどの経済支援策が再開すれば、更なる来街者の増加が期待できる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・飲食業界は今が本当の最低だと思うので、これより悪くなることはない。政府もただ単にまん延防止等重点措置を解除するだけではなく、企業に対して外食や宴会をするようになどと言ってほしい。少々規制を掛けるだけ掛けておいて、緩めた後に世の中がどうなるのか分かっていない。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・新型コロナウイルスをきっかけにした過剰経費の圧縮、余剰人員の削減等、大幅に見直した効果が収益を新型コロナウイルス発生前の水準以上に引き上げ、かつ安定的なものにしている（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・まん延防止等重点措置が解除され、3回目のワクチン接種も進んでいけば間違いなく良くなる。しかしながら、また新型コロナウイルスの新たな変異株が出てくれば繰り返しになる。早く風邪と同等の扱いにしてほしい。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況によるが、ゴールデンウィークや連休明けにGo To Travelキャンペーンの再開が予想される（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	・4月からは県民割が、近隣都道府県にもブロックで拡大されるというような報道があったので、個人旅行が増えるのではないかと。また、ゴールデンウィークや、団体旅行、修学旅行のシーズンになるので、間違いなく今よりは良くなる。Go To Travelキャンペーンの再開への期待も込めて、良くなる（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・今月の販売量が悪過ぎたこともあり、今よりは良くなる。ただし、政策や税制面においても景気が良くなりそうな気配はない。いよいよ今までどおりの手法と営業の頑張りでは販売量を増やせなくなってきていると感じている。
		商店街（代表者）	・これまで新型コロナウイルスの影響で止まっていたときに比べて、イベント情報などに対するレスポンスが明らかに良くなっている（東京都）。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・現在は家電量販店など大型店が多く、地域の小売店が少なくなっているが、これからは特徴のある何かに特化した電気店になれば、商品も売れる。
		一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・まん延防止等重点措置が解除され、街に活気が戻れば、行事等の開催も再開され、需要が増える。
		一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・景気の判断は新型コロナウイルス感染者数の影響が大きいと思うが、東京都内の感染者数がなかなか減少しないことから、大幅な景気回復は見込めない。ただし、4～5月にかけては新入学、新入社の時期であるため、個人需要はやや上向くとみている（東京都）。
		一般小売店〔眼鏡〕 (経営者)	・飽くまでも希望的観測だが、良くなってほしい。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・外に出かける機会が増えると、商品を購入する機運が高まる。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・今月にまん延防止等重点措置が解除されたので、早くGo To Travelキャンペーンが再開され、ホテルに客が集まることにより、当社の販売数も伸びることを期待している（東京都）。
		一般小売店〔書店〕 (営業担当)	・新型コロナウイルスの感染対策の制限緩和と新年度向けの受注量増加がしばらくは続く（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・このところ毎月同じことをいっているが、新型コロナウイルス禍が長引き、まん延防止等重点措置が解除された今でも回復基調にない。前年比では120%程度を維持しているが、2019年度比ではまだ9掛けである。化粧品は、マスク生活が終わらないと、リップやチークなどのメイク商材の厳しい状況が継続する（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・まん延防止等重点措置の適用中よりは改善すると思うが、劇的に改善するとは思えない（東京都）。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルスオミクロン株亜種の感染拡大懸念がある一方で、3回目のワクチン接種も進み、場合によってはGo To キャンペーンなどもそろそろ再開されるのではないかと期待している（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・緊急事態宣言の再発出やまん延防止等重点措置の再適用がなければ、段階的に景気は良くなる（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・新型コロナウイルス禍における生活に対して、慣れも含めて個人が対応してきている。また、4回目のワクチン接種に対しても政府が動きを見せるなど、従来とは異なった動きになっており、少しずつ明るい兆しが出ている。
		百貨店（管理担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、陽気も良くなり、徐々に出かけ需要が増えてくる（東京都）。
		百貨店（店長）	・まん延防止等重点措置が解除され、3回目のワクチン接種も進むなか、引き続き感染対策アイテムは底堅い。加えて、セレモニーや旅行等、オナーションの動向が高まり、必要アイテムの購買意欲が高まると想定している。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染者数が高止まりとはいえ若干減ってきているということで、客の動きが活発になってくる。また、現在の3回目又は5月以降の4回目のワクチン接種が進むことにより客の動きが良くなると、購買意欲も高まっていくのではないかと。合わせて、食料品、おしゃれ着を含めた売上が伸びる。ただし、インバウンド売上は見込めないで、差引きして、期待値を込めて、若干良くなる。
		スーパー（総務担当）	・物価が上がってきていることは気になるが、今まで我慢していたので、出掛けてお金を使う流れは止まらない。
		スーパー（販売担当）	・期待を込めて、景気回復へ少しずつ進んでほしい。ウクライナ情勢が今後身の回りの生活品にどのような影響を及ぼすかでまた大きく変化する。
		コンビニ（経営者）	・これから暖かくなるので、客単価が上がり、来客数も増加する。
		コンビニ（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除されたので、人の動きに期待したい。
		コンビニ（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、もしGo To Travelキャンペーン等々がまた始めれば、人々が動き出し、我々小売業の売上も伸びてくるのではないかと期待している。
		コンビニ（商品開発担当）	・今後も更に客が増えてくれることを期待したい（東京都）。
		家電量販店（店長）	・今年の夏は平年並みか猛暑の予報が出ているので、季節商材が売れることを期待している。
		家電量販店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況に加え、ロシアのウクライナ侵攻などの不安があるため、景気回復にはまだまだ時間が掛かる。客が外に出ることが増えれば必ず回復する。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型コロナウイルスが落ち着いてくれば消費も伸びるし、ドライブや観光等で良くなる。2か月後くらいにはロシアのウクライナ侵攻も落ち着く気がするので、両方が落ち着いてくればやや良くなる。消費者は買い控えをしているが、やはり物を買いたい、移動したいという意欲を感じるので、今後については良くなる（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・まん延防止等重点措置が一旦解除され、消費活動が活発になる。しかし、その後は新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		一般レストラン（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除されたことが最大の理由である。しかし、ロシアのウクライナ侵攻の影響が各方面に出ていることから、今後の流れについては予断を許さない。材料調達の困難さ、値上がり等が起きることが考えられる。
		一般レストラン（経営者）	・活動的な季節になり、旅行など出掛ける機会が増えているため、消費額も増える（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔カフェ〕 (経営者)	・良くなってほしいという希望が強いが、良くなっていくかどうかは新型コロナウイルスの感染状況次第である。ゴールデンウィークにぶつからないことを願うばかりである。新型コロナウイルス禍が長引いてしまったことで、我慢の限界が近づいている企業も多くなっていると感じる。少ないマイナスも、2年も続くと非常に大きなマイナスになるし、値上げラッシュも苦しくなっている要因の1つである。経営者としては、これ以上客離れにつながる要因は減らしたいが、そうもいかず、全体的に値上げせざるを得ない。この状況から早く抜け出したい(東京都)。
		都市型ホテル(経営者)	・新型コロナウイルスが収束に向かい、3回目のワクチン接種が進み、飲み薬等が開発できれば通常の世の中に戻ると思うが、まだロシアのウクライナ侵攻に起因するエネルギー価格等の高騰がやや暗い影を落としている。ただし、今よりは良くなることを信じて新しい年度を迎えたいと思っている。引き続き、政府の適切で迅速な対応をお願いしたい。
		都市型ホテル(スタッフ)	・新型コロナウイルスの感染者数は高止まりしているが、経済活動も同時に進めようという動きが出てくると思うので、多少上向いていく。
		旅行代理店(従業員)	・5月頃からGo To Travelキャンペーン再開という話も聞こえてきているので、冷え込んだ需要の回復に期待している(東京都)。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者数がこのままピークアウトしていけば、人の動きが出てきそうな気配はあるが、今後はウクライナ情勢が景気に大きく影響してくる。その動き次第ではまた景気が悪くなり、人の流れがなくなってしまう感じがする。しかし、新型コロナウイルスに対する規制は現状、世界的にもなくなってきたので、今よりは利用客が増えて人の流れが生まれてくる(東京都)。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況次第ということもあるが、季節的な要因もあり、現状はやや人の動きが良くなっている。また、ターミナル駅周辺の人の動きもやや良くなっている。営業はしにくいですが、車も増えている。これまでは一旦良くなった後の新型コロナウイルスの感染再拡大等で何度も振り回されているが、今度はそれがいいことを願っている(東京都)。
		通信会社(経営者)	・新型コロナウイルスが収束に向かっていくと、安心して街に出掛けられるようになる(東京都)。
		通信会社(経営者)	・まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルスも徐々に落ち着いてくるため、消費拡大に期待が持てる。一方で、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻の影響から、物不足による物価高が深刻になりつつあり、消費が落ち込む可能性があるため、大きな変化はない(東京都)。
		通信会社(局長)	・まん延防止等重点措置が解除されたことで、分譲マンションの組合も、当社からのサービス提案に対して止まっていた理事会を開く準備を始めているので、今までより幾らかは契約数増加の兆しが見えつつある(東京都)。
		通信会社(経営企画担当)	・4月以降の新年度における予算確保と新規案件の発生が期待される(東京都)。
		観光名所(職員)	・良くなると信じたいが、新型コロナウイルスの影響は大きく、結果として大した変化は見込めない気がする(東京都)。
		ゴルフ場(経営者)	・新型コロナウイルス感染者数が徐々に増加しているようなので、3か月後には巣籠り需要が再燃しそうな気がする。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕(支配人)	・団体予約の問合せが増えてきている。大学生以下やファミリーでの来場も増加してきている(東京都)。
		その他レジャー施設 〔総合〕(広報担当)	・新型コロナウイルスの終息はまだ見えないが、良い規模感で催事を開催していけそうなので、集客が増えてやや良くなる(東京都)。
		その他レジャー施設 〔複合文化施設〕(財務担当)	・新型コロナウイルスの国産内服薬の承認、ロシアのウクライナ侵攻の終息を期待している(東京都)。
		その他サービス〔学習塾〕(経営者)	・アルバイト募集時に他の職種の募集も多く出ている状況のため、当社への応募件数が少ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルス感染防止のためのまん延防止等重点措置は解除されたが、今日現在また感染者数が増えているという報道がある。このような状態では上向くことはないが、まん延防止等重点措置が解除されて新型コロナウイルスが少しでも収束に向かえば、今までの話がぶり返して仕事に結び付くのではないかと。企業や行政への営業を行っているが、少しでも新型コロナウイルスが収束しないと往訪できない。ここが問題だと思っている。
		商店街（代表者）	・大手企業では利益が出ているが、引き締めている。
		商店街（代表者）	・せっかく新型コロナウイルスが下火になってきたという良い情報があるが、またここで少しずつ増えつつあることから、今後に対する不安要素がかなりあり、商売に影響してくる。新型コロナウイルス感染第7波はできるだけ低い山で終わってくれば有り難いが、このままだと商売もかなり以前から悪い状況が続いているので、大変難しい。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きも出てきたところだが、原材料やガソリンなどの価格高騰で、消費が少し落ち込むのではないかと。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・この先も悪い現状のまま変わらない。新型コロナウイルスは収束はしないまでも少なくなるとは思うが、客の生活スタイルが変わってきたような感じがするし、景気が良くなる兆しは一向に見当たらない（東京都）。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・1日も早く新型コロナウイルス禍が収束し、元の商売の状況に戻りたいが、非常に低迷しているのが現実である。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・2店舗のうち1店舗が大幅に落ちており、こちらの店舗を4月末をもって閉店する。店舗の整理統合で何とか保っていくが、売上の減少は避けられない。その分、外資系が少し売上を伸ばしているため、最終的にはプラスマイナスゼロになるのではないかとみている。ただし、将来的に大きな案件がたくさんあるかというところも心配なので、それほど極端に伸びることもない。
		百貨店（売場主任）	・まん延防止等重点措置が解除され、来客数、売上共にやや回復傾向だが、新型コロナウイルスが収束したわけではない。新変異株が流行すればまた対策を強めなければならないため、現状と大きな変化はないとみている（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルスの収束が見えないなか、更に多岐にわたる値上げ、光熱費の上昇などの影響から、消費に対する慎重な姿勢が継続する。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルス収束の見通しが相変わらず見えないなかで、ウクライナ情勢などに関連した物価への悪影響など、先行きは依然として不透明な状況が続いている。消費者に対して、具体的な景気対策などが目に見える形で示されなければ、今後も同様の状態が続く（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況は改善しつつあるが、世界情勢が見通せないため、消費に対しては慎重になる（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・今後大きく改善する、又は顕著に悪化する、どちらの材料も乏しい。また、ウクライナ情勢など先行きが見えにくい要素に左右されることも大きい（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・長く続いたまん延防止等重点措置が解除されたことで、人流拡大による効果は期待できるが、価格上昇の先が見えていない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、非常に厳しい経済環境のなかで、食品、日用品、電気、ガソリンなど、様々な分野での値上げが家計を直撃しているため、消費マインドの回復は難しい（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・4～6月にかけては、新年度、新成人、母の日、父の日などの暮らしの中でのギフト需要も見込める。思いを伝えるギフトは、ここ数年、自家需要より優先されている傾向がみられている。総菜、スイーツなどの食品は堅調に推移すると予測している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染者数の急増前は、消費に対して積極的になりつつある雰囲気を感じた。また、高額品の売上も比較的好調であり、感染者数が落ち着けば景気は良くなる傾向になると思われた。しかし、まん延防止等重点措置の解除後も感染者数がいまだに多いことに加え、ロシアのウクライナ侵攻に不安を感じているためか、消費意欲の低下は否めず、来客数も回復していない。しばらくはせめぎ合いになり、景気は大きく変わらない。そういう意味では、景気刺激策としてGo To キャンペーンの再開などがあれば、回復の一助になる。
		百貨店（販売促進担当）	・本来なら初夏物商戦が活況の時期であるが、現在の春物商戦が新型コロナウイルス禍により低調のため、メーカー各社が初夏物を潤沢に生産、投入できる体制を整えるのは困難であると想定し、景気回復は困難と考えている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・政府の動きが全てにおいて遅い（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・販売、来客数は増えているが、今後は、ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルスの感染状況などによっては、良い部分が結局吸収されてしまうのではないかと（東京都）。
		百貨店（経営企画担当）	・ウクライナ情勢による急激な物価高が、今後消費に与える影響を懸念している。一方で、新卒採用の増加など経済環境については改善の方向に向かっており、今後は値上げに対する懸念と新型コロナウイルス感染者数の減少など、しばらくは一進一退の状況が続く。なお前年、前々年と4～5月にかけて打撃を受けたため、その反動も見込んでいる（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスの影響もあり、営業時間の短縮だとか、いろいろなことが通常どおりに戻っていない状況がある。家庭の主婦などの経済感覚としては厳しいので、買物を控えるという状況が続く（東京都）。
		スーパー（経営者）	・こここのところは良くなってきているが、これは値上げ前の買い込み需要が多少あって少々上振れしているものであって、これから先も余り良くないのではないかと。今後はどんどん値上げが続いていくので、良くなる要素は少ない。加えて、客の節約志向が非常に高まることも予想されるため、変わらない。
		スーパー（店長）	・今が悪いので、3か月後も今と大きくは変わらない。やはりまん延防止等重点措置が解除されて、一般客も外食だとか、いろいろと外出することが多くなると思うので、近場のスーパーよりはちょっと車で出掛けて安いスーパー等を回るとのではないかと予測している（東京都）。
		スーパー（店長）	・高齢客は新型コロナウイルス等を意識し、人が集まる店舗ではなく、ふだん行っている店舗での買物を続けている。買物の回数は減っても、買上単価が上がっているため、全体としての売上に大きな変化はない。
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、経済全体の先行きも不透明である。この先、新型コロナウイルスの影響で打撃を受ける業種も少なからず出てくると思うので、消費者が自己防衛をしている感じがする（東京都）。
		スーパー（営業担当）	・今後も来客数は変わらないものの、買上単価の減少が気になる（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・今後、エネルギー価格等の高騰が予想され、食料品や生活用品は安価な物に流れる気がしている。政府主導による値上げがあったとしても、横ばいの状況が続くと予想している。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第で売上が増減する状況が続いている。一方で、リモートワーク等の新しい働き方が定着しており、新型コロナウイルス発生前まで戻る感じはしない（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・まん延防止等重点措置が解除されてどうかというところではあるが、恐らくその程度では特に変わらない。今後もまん延防止等重点措置の適用と解除の繰り返しは想像される。安心して数か月先を迎えることができる安心感のようなものがもっと必要である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除されて、人の流れが出てきて良くなるのではないかと思うが、これから諸物価が上がり、その反動がどうなるかということで、気持ちは半々である。このまま良くなることを期待しているが、また新型コロナウイルスの新変異株で感染者が増えてしまうと困る。今後、春～夏にかけてイベントや催物がスムーズに行われることを期待している。
		衣料品専門店（従業員）	・新型コロナウイルスが落ち着き、先行きは少し良くなると思われるが、まだ不安要素の方が大きいので、変わらないのではないか。
		家電量販店（店員）	・前年に実施された新型コロナウイルス対策の給付金等の反動で、現状は厳しいと感じる。この状況は何か外的要因がなければ変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。新型コロナウイルス禍で今年一杯は駄目なのではないか。
		乗用車販売店（経営者）	・新車が売れても登録できない状況がいまだに続いている。
		乗用車販売店（営業担当）	・戦争などネガティブな要素が多過ぎて、購買意欲が湧かない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・自動車の生産が正常化しておらず、売上の見込みが立たない。
		乗用車販売店（営業担当）	・納期の遅れが解消される見込みがない（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	・物価上昇に対して、所得が増えていない（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染者数のピークがまた来る可能性があるのでは、なかなか読み切れない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・当店も含め周りが今一つ元気がないので、2～3か月先もやはり今と変わらないのではないか。
		その他専門店〔貴金屬〕（統括）	・今までは新型コロナウイルスに関する政策などで身の回りの景気に影響を受けることが多かったが、そのようなことがなくなりつつある。他の要因で景気がどのように変化するか不透明なところもあり、良くなることも悪くなることも判断し難しい（東京都）。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・原油価格次第だが、直ちに好転することは考えにくい（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	・利用の多くはレストラン部門の2～3名での少人数で、当社の売上の柱である法人、婚礼、法事等の宴会部門は、ほとんどが規模縮小である。マイナス分を新たな事業や施策等で補うため、試行錯誤している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が発生してから2年になるが、飲食形態が激変した感じである。繁華街でもシャッターが目立つ（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・まん延防止等重点措置が22日に解除されたが、客の戻りは厳しい。全店営業再開しているが、また、まん延防止等重点措置が適用されるような気がしている。今は資金繰りも厳しく、今年で会社を閉めることになりそうである（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・米国の金利上げやウクライナ情勢の影響による物価高などが原因で、急激な回復はみられないが、徐々に心理的な影響は和らぎ、財布のひもが緩んできている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・このところ、少人数ではあるが、歓送迎会の予約が入ってきている。しかし、東京はやはり新型コロナウイルス感染者数が高止まりして、前週よりやや増えている状況なので、本当に新型コロナウイルスとの付き合い方というか、この先どうなっていくのか分からない。今入っている予約客を大事に何とか頑張っていきたい（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・行政が新型コロナウイルス終息を完全に打ち出さないと景気回復には程遠い（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・まん延防止等重点措置が解除され、人出が増えてきているので、2～3か月後には新型コロナウイルス感染が再拡大の一途をたどり、景気が停滞する。ホテルとしてはいかに新型コロナウイルスと付き合いしていくかを再度検証し、徹底的な対応をしなければ生き残れない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・桜が満開になり、陽気も良くなってきているが、客が遠出をするという事はなかなかないので、やや期待外れである。
		旅行代理店（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮によるミサイル発射等、社会的不安が広まっているので、2～3か月後の景気には期待できそうもない。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者数がまだ今一つ少なくなっていないため、今後もやはり慎重にせざるを得ない雰囲気がある。新型コロナウイルスの新たな変異株の発生が心配されるなか、しばらくはこの状態が続く。
		タクシー運転手	・ここまで長く続くと、早く新型コロナウイルスが収束に向かうのを、ただただ待つのみである。客が戻るには、ワクチンと飲み薬に頼るほかない。利用状況は、昼間の利用はあるが、夜が少ない。まん延防止等重点措置解除により多少でも夜の利用が戻ることを期待したい。
		タクシー（経営者）	・良くなると思うが、政府の新型コロナウイルス対策次第である。
		タクシー（団体役員）	・新型コロナウイルスの完全な終息がなければ、景気の回復は望めないのではないか。また、ウクライナ等の国際情勢もあり、安心感を得られない。
		通信会社（経営者）	・まん延防止等重点措置は全面解除されたが、ロシアのウクライナ侵攻により国内経済にも影響があるため、景気が良くなると思えない（東京都）。
		通信会社（社員）	・新企画が立ち上がるなど、来年度に向けた活動が起きている。ただし、大口の復活は見込めない（東京都）。
		通信会社（社員）	・値下げによる契約数の増加が一巡する（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・商品やサービスの値上げが進むなかでは、大幅な消費回復は見込めない。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話、固定インターネットを軸とした価格競争は引き続き継続する。
		通信会社（管理担当）	・新型コロナウイルスに加え、ウクライナ情勢の影響による株価、為替相場の動きで、景気には停滞感が広がっているように思われる。周囲でも景気が良いという話をほとんど聞かない。業界にはヒット商品も余りなく、当面ネガティブな状況が続く。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料がない。
		通信会社（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたが、販売量や客の動きは変わらないように見受けられるので、当面は変わらない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・新型コロナウイルス収束への期待がある反面、ウクライナ情勢による世界経済への影響も懸念される（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	・ウィズコロナ、アフターコロナへの対応や国際情勢に係る良い意味での変化や解決策が明確に見えてくるまでは、今の状態が続く。円安も更に進むのではないかと。
		競輪場（職員）	・抜本的な改革をしないと数字を作れないため、厳しい状況が続くと予想している。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・新型コロナウイルスやガソリンの値上げ、その他の値上がりで、当分の間は良くならない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・現状のままであれば、この先も同じ単価のままで、売上もさほど大きくは増加しない。
		設計事務所（経営者）	・住宅を含めた民間の投資意欲が上昇しない限り、景気は横ばいが続く。新型コロナウイルス禍に加え、ウクライナ情勢など負の要素が多い。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスとウクライナ情勢が収束しない限り、景気は良くならない。新型コロナウイルスについては、早く3回目のワクチン接種が進展することと、治療薬が普及することを期待している。また、政府による景気対策にも大いに期待したい。
		住宅販売会社（従業員）	・客の動きや情報に大きな変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	・売上の先行指標である受注に変化はないので、しばらく損益の状況に変化はないと思われるが、まん延防止等重点措置の全面解除に伴い、現場見学会への来場者増に期待している。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・いろいろな見直し依頼が来ているが、一般ユーザーについては様々な物の値上がり、新型コロナウイルス、ウクライナ情勢などの不安感が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・客の様子から、景気が上向いているとは感じられない。
		一般小売店〔生花〕 (店員)	・3月はお彼岸や卒業式、転退職など、祝い事の花束や大きな花の需要があり、年間を通して最高の月である。これに勝る月はない。今月と比べると、2～3か月先はやや悪いくらいになる(東京都)。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	・商店街の会員で、チェーン展開をしている居酒屋が2軒閉店し、今月をもって退会する。
		スーパー(経営者)	・各メーカーが値上げをするため、売価の上昇に客が慣れるまで時間が掛かるかもしれない。
		スーパー(経営者)	・インフレ傾向の影響が出始めている。商品単価は多少上がっているが、売上は伸びない。これから販売量の減少が見込まれるのではないかと。
		スーパー(仕入担当)	・ロシアへの経済制裁の影響もじわじわと出てくることと、原材料価格の高騰による値上げラッシュが続き、消費自体は低迷する。
		コンビニ(経営者)	・夜間、深夜帯の来客数が半分以下に減少しており、ますます厳しい状態が続いていく。
		コンビニ(経営者)	・世界情勢に関係すると思うが、材料が不足してきているので、価格自体が少しずつ値上がりしてきている。そのため、買い控えというよりは買えなくなっている。
		衣料品専門店(経営者)	・中国上海の港や工場がロックダウンしており、商材の到着が遅れている。買い付け量を多めにして対応しているが、今後どうなるか予想ができない。仕入価格が5～10%値上がりしている。販売価格の値上げで対応しているが、急激な円安となり、更に値上げできるかどうか分からない(東京都)。
		衣料品専門店(店長)	・原材料高騰、円安等の影響で悪いインフレが進行しつつあることが懸念材料である(東京都)。
		衣料品専門店(統括)	・まん延防止等重点措置の解除に伴い、駅前の商業施設、百貨店などに客が分散される。
		衣料品専門店(役員)	・光熱費や食料品の値上がりの影響を最も受けるのは衣料品だと思われる。
		家電量販店(店長)	・新型コロナウイルス感染対策としてのまん延防止等重点措置は解除されたものの、取引メーカーからの商品供給が不安定なこと、商品価格の上昇など、不安要素が残る(東京都)。
		家電量販店(店員)	・新型コロナウイルス感染者数が思ったより早くリバウンドしている。
		家電量販店(経営企画担当)	・3か月後の見通しは、ロシアのウクライナ侵攻の結果次第である。エネルギー価格、小麦を中心とする食材等の物不足を起因とする需要の変化により、客の消費行動がどう変化するのかが、慎重に見る必要がある(東京都)。
		住関連専門店(営業担当)	・従前からのインフレ傾向に加え、ウクライナ情勢などの影響による世界的なサプライチェーンの乱れから、様々な分野で需給状況の悪化が懸念される(東京都)。
		住関連専門店(統括)	・新型コロナウイルス禍で、販売量の減少と物価の上昇を踏まえると、この先も全体的に落ち込む。
		一般レストラン(経営者)	・3か月後の5～6月頃は余り人の動きがないため、それほど売上は望めない。新型コロナウイルスが少し収まってきてはいるが、まだまだ警戒している客が多く、ケータリング、パーティ等はほとんどないので、これから売上が伸びていくということは考えられない。
		一般レストラン(経営者)	・ウクライナ情勢の影響で小麦粉や金属系の輸入が減っている。ロシアに対する経済制裁なども今はまだ日本への影響は余りないが、これからはどんどん影響が出てきて、経済も苦しくなる。そうしたことから消費意欲も乏しくなってくる気がする。
		旅行代理店(従業員)	・ウクライナ情勢がより深刻になってきている(東京都)。
		通信会社(経理担当)	・まん延防止等重点措置が解除されたので、在宅で利用するテレビ及びインターネット接続サービスを提供している側としては、VODや有料チャンネル等のオプションサービスの売上が下がると見込んでいる。
		通信会社(局長)	・ロシアのウクライナ侵攻の影響で、国際情勢が非常に不安定になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（経営者）	・ゴルフ関連はこれからハイシーズンだが、ウクライナ情勢や電力供給量の逼迫による様々なジャンルの値上げが足を引っ張り、来場動向は期待したほどは伸びないと感じる。
		その他レジャー施設 [映画]（営業担当）	・新型コロナウイルス禍やロシアのウクライナ侵攻の収束時期次第なので現状では何ともいえないが、短期的には良くなる見通しはない（東京都）。
		美容室（経営者）	・早く新型コロナウイルスが収束してほしい。
		設計事務所（所長）	・景気は底を突いたと考えていたが、ここきて世界情勢が変わってきている。資材の価格上昇、製品の値上げ等があり、また製品の納入期限も見当が付かない状態が続いていることから、非常に悪くなる（東京都）。
		設計事務所（所長）	・仕事量がこれから一気に増えることは望めないの、非常に厳しい状況にある。
		設計事務所（職員）	・世界情勢不安による建設コストの上昇、エネルギー供給不足等、悪い要素しかない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・地価の高止まり、建築価格の高騰など、かなり厳しい状況が続いている。ウッドショックが引き続き影響していることや、ロシアに対する経済制裁なども影響してくると思うので、今後の景気も悪くなる。
		その他住宅[住宅管理・リフォーム]（経営者）	・私どもの仕事は受注までに数か月の期間が必要になる。しばらくの間は厳しい状況が続く。やはり新型コロナウイルスの影響は大きい。
		その他住宅[住宅資材]（営業）	・年度の替わり目で、先行きの確定情報を集めてみても目ぼしい案件は少なく、資材高騰のなかで購買方針を変更していく得意先が増えていく見込みである（東京都）。
	×	一般小売店[家電]（経営者）	・半導体やLED関係では、ある物とない物がはっきりし始めている。問い合わせたところ、正常に戻るまでにはまだ時間が掛かるというようなことをメーカーが言っている。そうすると、今注文をもらっているものがどんどん遅れていくことに加えて商材が入ってこないことから、悪循環が生じるような気がする（東京都）。
	×	一般小売店[食料雑貨]（経営者）	・オーバーストアである。
	×	スーパー（ネット宅配担当）	・既存の原料高とウクライナ情勢、急激な円安と、悪い材料しかない。輸入品については買い負けしている状況なので、量を確保するには更に高い価格で購入するしかない。結果として更なる値上げをしなければならなくなる。
	×	コンビニ（経営者）	・ウクライナ情勢が影響してくる（東京都）。
	×	衣料品専門店（店長）	・まん延防止等重点措置が一旦解除されたことは良いが、ウクライナ情勢の影響で、ロシアからの輸入品を含めてもるの資材価格の急上昇が決定的となっている。
	×	乗用車販売店（総務担当）	・ウクライナ情勢の影響により中古車市場の暴落が予想され、新車部門も景気不安により鈍化すると見込んでいる。
	×	乗用車販売店（店長代行）	・物価上昇に伴い、今後ますます車の販売量の低下が進む（東京都）。
	×	その他小売[ショッピングセンター]（統括）	・物価が上昇するなか、賃上げや経済活性化策の追加投入等がないと厳しいのではないかと（東京都）。
	×	その他小売[生鮮魚介卸売]（営業）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響が長引くことが懸念される（東京都）。
	×	高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が再び悪化すると考えている。
	×	タクシー運転手	・ロシアのウクライナ侵攻が続くなか、国内も影響を受け、ガソリンを始めとした物価の高騰が収まらない。しばらくは景気の悪化が見込まれるので、悪くなる（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・物価上昇の影響が大きい。
	×	ゴルフ場（経営者）	・今後もスタグフレーションが続くことは間違いない。
	×	ゴルフ場（従業員）	・まん延防止等重点措置が解除されたが、新型コロナウイルス感染者数は再び増えつつある。さらに、ロシアのウクライナ侵攻による影響がどれほど大きいか、改めて日本が多くを海外に依存していると痛感している。物価の上昇のみならず、景気への影響は更に大きくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	ゴルフ場（経理担当）	・原材料、資源エネルギー価格の高騰に加え、輸入品を中心とした物流の混乱にウクライナ情勢と円安が重なり、さらに、人手不足が深刻化することで、物価上昇圧力が一段と加速する可能性が高く、景気改善に重大な痛手となることは不可避と考えられる。資材や要員の先行確保が必要で、必要緊急性が高い設備投資にも着工の遅れが懸念されている。
	×	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・学年の入れ替わりで生徒が結構辞めていった。新しい生徒も対面だとか不登校の生徒が新型コロナウイルス感染がやはり心配だということで、退塾も増えているので、悪くなる。
企業 動向 関連 (南関東)		金融業（従業員）	・ウクライナ情勢が不透明感を増すなか、資源価格の高騰を不安視する声が多く聞かれる。以前は、仕入価格が上昇した場合、経費削減で対応する事業者が多かったが、最近では、やむを得ず販売価格への転嫁を行う事業者が増えているようである（東京都）。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・4月以降、売上が増加する。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・物価高感はあるが、会社では引き合いが増えており、人員が不足している。昇給もある。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・ゴールデンウィーク絡みの案件も多数の引き合いがあり、今まで動けていなかった反動が大きくなっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人からの注文が増えてきて上向いている。店頭は、今まで個人客の来店が少なかったが、今月辺りから大体10キロメートル圏内の近郊からの来店客が出てきており、来客数も増加傾向にある（東京都）。
		化学工業（総務担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、イベント等での人流が回復してくれば、受注が多少なりとも回復してくるのではないかと期待している。ただし、更なる原材料費の値上がり心配である。
		広告代理店（従業員）	・今までどん底状態だったので、イベント催事の開催で少しずつ上向きになっていく。
		食料品製造業（経営者）	・恐らくこのままいくのではないかと（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・大胆な景気対策がなければ、更に落ち込む。
		化学工業（従業員）	・生産量も受注量も大きく変わらないが、原材料の高騰が止まらない。特に、欧州からの輸入原料が高騰している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関係は下火だが、電機関係が上向きなので、差引きして変わらない状況が続くという希望的観測である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・この先も不確定要素としてウクライナ情勢や新型コロナウイルスの問題が残り、会社経営にとって思わしくない状況が続く（東京都）。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・新型コロナウイルス感染拡大、ロシアのウクライナ侵攻による資源価格高騰の影響もあり、部品調達が安定していない。自動車業界はしばらく不安定な生産体制が続くとみている。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスが収束しない（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が引き続き低迷している。また、輸出力は全くない。今後も現状が続く予想である。
		通信業（広報担当）	・今の傾向が続けば良い（東京都）。
		金融業（総務担当）	・まん延防止等重点措置の解除により、飲食業では営業時間が元に戻り、徐々に人が戻ってくる期待がある。人手募集も多くなり、経済が動き始めている。ただし、いろいろな業種で半導体不足の影響があるため、全体の景気回復までには至らない。燃料価格の高騰がゴールデンウィークまで続くようなら、観光業にも多少影響が出そうである（東京都）。
	広告代理店（従業員）	・まん延防止等重点措置が解除され、旅行、観光業界に少し動きが出てきているように見えるものの、新型コロナウイルスの感染状況はまだ予断を許さない。また、ウクライナ情勢や16日に東北地方で起きた地震の影響なども懸念される（東京都）。	
	税理士	・米中の景気のほか、新型コロナウイルス、ウクライナ情勢の影響で原油や食料品の価格が上がってきている。従来の捉え方と違うので、どういう展開になるか分からない。上向いていくのか、下向きになるのか分からないが、ひとまずは変わらないところではないかと（東京都）。	
	社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(経営者)	・既存契約の値上げ交渉がペンディング状態なので、収益改善は難しい(東京都)。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・ロシアのウクライナ侵攻あるいは原油価格の高騰、そのほか物価の上昇で、3か月ほど先の景気はかなり悪くなるのではないかと。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・化粧品容器の受注に上昇気配がみられない。頼みの医療品容器の受注にも先行きに明るさはみられず、当分苦戦が続きそうである。
		金属製品製造業(経営者)	・ロシアのウクライナ侵攻や資源高の影響がどのような形で出てくるか不明だが、景気後退への不安を感じる。
		その他製造業〔靴〕(経営者)	・今ムードが良くなる要因は、絶対的に新型コロナウイルスだという気がする。そういった意味では、まず新型コロナウイルス収束の見通しがきちんと立たないことには、社会が動かない。得意先にも同じことがいえる。
		その他製造業〔化粧品〕(営業担当)	・円安の影響がある(東京都)。
		建設業(営業担当)	・2~3か月後には、ウクライナ情勢による影響が現状よりも大きく出てくるのが予想される。取引先訪問時にも話題に上ることが多く、各業界とも苦慮していると感じる。
		輸送業(経営者)	・燃料価格上昇への政府の対策により高騰の勢いが弱まっている感はあるが、原油価格の現状からみて高止まりの状況が続くものと予測される。荷動きが低迷するなか、景気の回復には更なる時間を要するものと思われる(東京都)。
		金融業(従業員)	・エネルギーや原材料価格の高騰をなかなか価格転嫁できていない現状を脱することができず、景気は後退をたどっていく。
		金融業(役員)	・新型コロナウイルスの影響により客足が伸びないこと、ウクライナ情勢に端を発する資源高騰リスクが見込まれることから、事業者マインドとしてはやや悪くなっており、先行きについての楽観視は見受けられない。
		不動産業(経営者)	・久しぶりに明るいニュースがあったが、全般的には低調で、必要な人しか動かないのが現実である。いずれにせよ新型コロナウイルスの終息を祈るばかりである(東京都)。
		不動産業(経営者)	・諸物価の値上がりが続く、じわじわと景気に影響を及ぼす。
		不動産業(総務担当)	・ロシアのウクライナ侵攻に対する経済制裁措置によって、欧州全体の経済環境が不透明になっている影響で、新規入居予定のテナントから土壇場でキャンセルされることがあり、確実に景気の先行きは悪化する(東京都)。
		広告代理店(経営者)	・物価上昇に対して、政策が追い付いていない。もともと国内における物価の低さには問題があり、失われた30年間とよく言われるが、日本人の勤勉さがあだとなっている部分もあるのではないかと(東京都)。
		広告代理店(営業担当)	・ウクライナ情勢、円安、新型コロナウイルス感染への不安などがまだ続く(東京都)。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルスの感染状況は良くなっているものの、物価の上昇、ロシアのウクライナ侵攻など、環境悪化の影響が出てくる。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕(経営者)	・新型コロナウイルス感染症関連の原材料費の値上げが4月から確実に実施されること、その後もロシアのウクライナ侵攻の影響による値上げや原材料不足が懸念され、市場の冷え込みがしばらく続くことが予想される。
		その他サービス業〔映像制作〕(経営者)	・現在の世界情勢が急に良くなるとは思えず、このまま円安や物価上昇が続けば、景気低迷のまま、良くなる要素はない(東京都)。
		その他サービス業〔情報サービス〕(従業員)	・ウクライナ情勢や、新型コロナウイルスが終息しないと、品薄状況が改善できないのではないかと心配している。
	×	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・4月を過ぎると受注量が減る(東京都)。
	×	金属製品製造業(経営者)	・取引先では、新年度の計画の立ち上がりが遅く4月の受注量が少ないと心配している。営業に力を入れて、受注できるように努力するしかない。
	×	精密機械器具製造業(経営者)	・原油高、原材料高、円安、更にロシアのウクライナ侵攻による経済不安が戦後としては最も高まっている。3か月先にはかつてないインフレ状態に陥りそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響があるため、今後どうなるか分からない。新型コロナウイルス対策、経済対策をやってほしい。
	×	建設業（経営者）	・新型コロナウイルスもロシアのウクライナ侵攻もあり、世界経済がどうなるか不安である。
	×	建設業（経営者）	・先の見通しが全く立たない。同業者も同じことをいっている。
	×	輸送業（経営者）	・先行きが不透明過ぎである（東京都）。
	×	経営コンサルタント	・新型コロナウイルス、ウクライナ情勢に関連した海外取引の大きな変化、原材料費の値上がり、いずれも大きく影響が出ており、将来が見通せない（東京都）。
	×	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・ガソリン価格を含むいろいろな物の値上がりラッシュで、消費者の財布のひもが固くなり、悪くなる。ロシアのウクライナ侵攻が長引けば更に多くの物が値上がりし、景気に悪影響を及ぼす。もちろん円安の弊害も大きい（東京都）。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・足元の募集件数は堅調である。来月以降の就業希望の募集も多い（東京都）。
		人材派遣会社（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見えてきているなか、企業も業務繁忙等により求人数が増加してくる。それに伴い、人材市場も活性化する可能性がある（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・EV開発を中心として、自動車産業はまだ伸びる傾向がうかがえる。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・新型コロナウイルス感染対策の制限が再び始まらない限り、緩やかにではあるが、景気は回復していくのではないかと（東京都）。
		職業安定所（職員）	・求人数の伸びと求職者の求職活動再開により、労働市場の活性化が見込まれる。ただし、原油高と原材料不足の影響が徐々に企業活動を圧迫することが懸念される（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・暖かくなってきて人が多く出るようになり、消費が進む。一方で、世界情勢によっては悪くなっていく（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ウクライナ情勢にもよるが、今のような状況であれば大きな影響はない。企業の人材不足感が解消されることはなく、求人は堅調に推移しそうである。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響が大小繰り返しあり、結局現状と変わらない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・人材派遣の求人数は、新型コロナウイルス発生前の8割水準まで回復してきている。今後も増加傾向が続いていくと予想される（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・人材不足は変わらず、悪化する一方である（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス対策関連の求人数が落ち着いてきており、それ以外のものについても特に大きな動きはなさそうである。
		人材派遣会社（支店長）	・新型コロナウイルスの3回目、4回目のワクチン接種など国の施策に伴う人材需要は見込めるが、ウクライナ情勢の影響を受けて、民間企業の業績によっては人材需要の低下等が懸念される（東京都）。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・消費行動や観光回復などがより一層活発になれば、景気が上向くことも考えられるが、原材料価格の高騰や、それに伴う物価の高騰により、製造した製品が売れないなどの不安材料が多く、今以上に労働市場が膨らむとは考えにくい（東京都）。
		求人情報誌製作会社（営業）	・現状は前年に比べて増加傾向にあり、良い状況にあると言えるが、2～3か月先では現状とそこまで変わらない。まん延防止等重点措置が解除されたことにより、更なる消費を期待したいところである。特に、落ち込んでいる飲食業やサービス業がもっと元気になってくることが、求人数の増加や景気の上向きに密接にかかわってくる。
		職業安定所（職員）	・求人数の動きはほぼ横ばいである。求職者数の動きは若干下降気味だが、ほとんど横ばいに近い。
	職業安定所（職員）	・有効求人数が前月比で0.1%増加しており、4か月連続して今年度で最も多い数値となっている。前年比では6.8%増加しており、3か月連続して前年同月を上回っている。しかし、前々年の同月と比較すると14.9%の減少である。	
	民間職業紹介機関（経営者）	・ウクライナ情勢の影響で先行きが不透明になっており、様子見が続く（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業側は求人の対象要件をもっと柔軟に、長期的に考えるべきだと思うが、海外勤務を希望する求職者自体が減ってきているようである。求人企業サイドの待遇などの見直しも必要なのだろう（東京都）。
		職業安定所（職員）	・ロシアへの経済制裁による資源、穀物価格の高騰が経済を失速させる可能性が高く、景気悪化による雇用への影響が懸念される。
	x	求人情報誌製作会社（所長）	・ロシアのウクライナ侵攻が経済動向に影響する。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (甲信越)		高級レストラン（経営者）	・国や県共に、新型コロナウイルスの感染対策と経済を回していくことに力を入れているお陰で、人流も増えていくと思う。
		都市型ホテル（スタッフ）	・法人関係の動きが良くなってきている。宿泊も毎日80件くらいの予約が入っている。一般宴会も徐々に企業が懇親会を開催するようになってきて、2021年度の宴会件数は前年に比べて、累計で300件プラスとなっている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・最近、口コミや人づてに聞いたとあって、葬儀の相談に来る人が増えてきている。新聞広告をやめてみたが、客はむしろ増えている。
		商店街（代表者）	・ようやく暖かくなって、屋外の運動もできるようになってきたり、新型コロナウイルスの感染状況も多少落ち着いて、クラブ活動も行えると思うので、期待している。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、客の動きがこのまま続けば、少しずつ良くなっていくのではないかと。
		百貨店（店長）	・まん延防止等重点措置が解除され、来店客の増加が見込まれる。ただし、この2年の状況を見ると、全ては新型コロナウイルスの感染状況次第であり、3か月後を予測するのは不可能である。
		スーパー（経営者）	・店頭販売の来客数は減少傾向だが、外販でばん回したい。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスもやや落ち着く方向に見えてきている。恐らく様々な場面で飲食や出掛ける機会が増えてくると思うので、若干は上向いてくる。
		コンビニ（経営者）	・これから春になり、新型コロナウイルス禍ではあるが、人々の意識も少しずつWithコロナになってきているので、経済自体が回って来るのではないかと。そうすれば来客数もおのずと増えるかとみている。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減らない厳しい状況だが、現状の方向として、様々な物が緩和されているので、希望的観測だが良くなるのではないかと。ただし、新型コロナウイルスの新たな変異株の発生や、爆発的な感染により、一気に暗転する場合もあり得る。
		一般レストラン（経営者）	・地元の名刹の7年に1度の祭礼もあり、祭礼時は例年に比べて多客期になる。十数年前から工事を行っていた県道の新規開通により、客が当店に来店しやすくなることも追い風になると思っている。
		スナック（経営者）	・人の動きは元に戻っていくだろうが、元どおりになることはないと思っている。新しい環境に適應できるよう、しばらくは身軽にしておこうと思っている。
		スナック（経営者）	・全国的にまん延防止等重点措置が解除され、皆が時短慣れというか、新型コロナウイルスに対する危機感が段々薄くなってきているように感じる。ふだん飲まない客も飲みに来てもらえるようになったので、少しずつ良い方向に向かってくるのではないかと実感している。
	観光型旅館（経営者）	・年末頃から比較すると良くない状況だが、2月が底で3月に入ってから徐々に売上が回復してきている。このため、2～3か月先はやや良くなると予想している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(スタッフ)	・まん延防止等重点措置の解除や別のニュースに関心が移り新型コロナウイルス報道が縮小されたことにより、新規感染者数は減少していないものの、利用者数及び予約が伸びている。また、客の状況からも、以前ほど新型コロナウイルスに関する話題や問合せが少なくなっているため、この先は感染状況と関係なく、徐々に利用者数が伸びて安定していく。
		都市型ホテル(スタッフ)	・新型コロナウイルスが終息する気がするので、やや良くなる。
		タクシー運転手	・これからイベント等が徐々に増えてくる。1番大きいものが地元名刹の祭礼で、これに関連して周りでのイベントも出てくると思うので、期待している。
		通信会社(社員)	・サービスエリアの拡張等で販売量の絶対数は増えてくると思われるが、単価上昇は余り期待できない。投資分を回収するには時間が掛かりそうである。
		観光名所(職員)	・インバウンドの来訪はないが、一般個人のWeb予約や問合せが多く、今まで旅行を控えていた客が一気に増えるのではないかと予想している。
		遊園地(職員)	・引き続き、新型コロナウイルスの影響が懸念されるものの、感染予防対策を徹底し、万全な受入体制を整えるとともに、積極的に集客施策の実施や情報の発信を行うことで、多くの客の来園を期待する。
		商店街(代表者)	・Withコロナとはいうものの、いまだ先の見えない状況が続いている。
		一般小売店[家電](経営者)	・いろいろな物の値上げが決まっているなかでも、買い急ぎや買いだめの様子はない。イベント等で誘客ができない状況が長かったためか、必要に応じた購入が定着している。消費者の購買意欲を出させるのは難しい。
		一般小売店[薬](経営者)	・原油高や世界情勢の変化があるので、変わらない。
		コンビニ(店長)	・変わらないと回答したが、良い意味ではなく現状の悪いまま変わらないという意味である。これから値上げ等も入ってくるので、かなり購買意欲も減って来るような気がする。
		衣料品専門店(経営者)	・消費の回復予想が全くできないため、変わらないとみている。
		家電量販店(店長)	・世界や国内情勢をみても、変わるような状況ではない。
		乗用車販売店(経営者)	・半導体不足の解消が見通せず、東北での地震の影響やウクライナ問題等、不透明感が増している状況で、新車需要の伸び悩みは続く。
		スナック(経営者)	・変わらないと回答したが、悪いまま変わらないという意味である。本当に地方は困っている。何とかならないものだろうか。
		旅行代理店(副支店長)	・旅行で考えればGo To事業が再開されれば景気喚起の起爆剤にはなると思うが、旅行費用も値上がりを見せており、需要があっても一歩引いてしまう可能性が高い。もう少し新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、需要が高まり景気回復が見えてくるかもしれない。
		通信会社(経営者)	・全てにおいて物価上昇が続いており、新規加入促進の好材料が見当たらない。
		設計事務所(職員)	・仕事依頼にまではいかない計画が多い。
		百貨店(営業担当)	・4月からいろいろな物の値上げが始まるし、現状でもガソリン価格は高止まりなので、慎重な買物になる。
		スーパー(経営者)	・新型コロナウイルス以前に戻るには、相当な時間が掛かりそうな気がする。一方で、原油価格や諸物価の上昇で、節約志向が強まり、価格競争の激化が予測される。
		スーパー(店長)	・様々な商材の物価上昇と、ロシア、ウクライナの紛争が影響し、やや悪くなる。
		コンビニ(経営者)	・3回目の新型コロナウイルスワクチン接種も始まって、感染拡大は一段落しているようにみえる。ただし、ロシアの戦争と新型コロナウイルスの影響で、物価も大幅に値上がりするので、生活は大変になる。
		コンビニ(経営者)	・燃料費の高騰の影響で、やや悪くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・戦争を含め、光熱費の高騰や物価上昇等により、客の財布のひもは固くなる。
		自動車備品販売店(従業員)	・食料品やガソリン代等、全体的な物価上昇の影響を受け、客単価はなかなか上がらない。さらに、商材の供給不足も継続するため、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (店長)	・非常にいろいろな物の値上げが起きるといふ噂を我々の業界でも聞いている。配送運賃が高くなると真っ先に値段が上がると思うが、それ以外にも値上がりした洗剤や様々な資材等を酒屋でも使っているの、いずれ酒全体がせきを切ったように値上がりした場合、全体に悪影響が及ぶのではないかと心配している。非常に高額でも売れる物はあるが、大部分は高くなれば買い控えの可能性を秘めている物なので、2～3か月後は少し後退する。
		ゴルフ場(経営者)	・今後の原材料費、燃料費の値上げが非常に気になる。しかし、4～5月の予約の伸びは順調で、ゴールデンウィークも大型コンペはないものの、予約数は伸びている。テレビのゴルフ番組も増えており、来場者のゴルフに対する意気込みを感じている。
		ゴルフ場(経営者)	・食料及びエネルギー価格の高騰、戦争による娯楽マインドの低下で、やや悪くなる。
		住宅販売会社(経営者)	・別荘に関する問合せや資料請求数等は以前と余り変わりがない。ただし、販売用物件の品薄感が強くなりつつあることから、今後の成約件数の減少が懸念される。
	x	商店街(代表者)	・反転のきっかけが、いつどう来るか分からない。
	x	衣料品専門店(経営者)	・新型コロナウイルス、物価高騰、ウクライナ戦争等、全てが消費者にとって良くない状況である。
	x	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕(経営者)	・新型コロナウイルスの影響以外にも、災害、原油高、物価上昇、戦争等、不安要素が増えてきている。まだしばらくは厳しい状況が続くのではないかと。
	x	その他サービス〔クリーニング〕(経営者)	・少しずつ観光が良くなればよいと思っているが、実体経済が良くなるまでには、まだ相当時間が掛かる。
企業 動向 関連		金属製品製造業(総務担当)	・半導体不足による需要過多で、良くなる。
(甲信越)		建設業(経営者)	・新型コロナウイルス新規感染者減少が続いており、陽気も良くなるので、工事成約ができると期待している。
		金融業(経営企画担当)	・原油価格高騰や円安によるコスト高の影響は継続すると見込まれるが、まん延防止等重点措置が全国的に解除されたことで、社会経済活動は上向いていくと見込んでいる。
		食料品製造業(営業統括)	・原油高騰による資材や諸物価の値上げが影響して、商材の値上げを検討しなければならない状況に追い込まれている。
		食料品製造業(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染状況次第だと思われる。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	・積極的なPR活動をしているものの、受注や販売見込みは依然として不透明である。地元では名刹の7年に1度の大祭を控え、関連商材の受注に多少の期待感はある。
		電気機械器具製造業(経営者)	・取引先でも先行きの明るい話は余り聞かない。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・材料価格の高騰と部品遅延が続き、先行き好転の兆しがみえない。
		金融業(調査担当)	・新型コロナウイルスの感染再拡大次第であるが、県内では名刹の祭礼や大祭があり、集客が見込めるため、景気を下支えするとみている。ただし、地政学リスクの影響が広がれば、更に下押しされる可能性もある。
		新聞販売店〔広告〕 (総務担当)	・ロシアとウクライナの情勢による燃料費高騰、新型コロナウイルスの感染状況次第で、イベントや旅行需要等は、いまだ大きな期待を出来る見通しにない。
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・資材等の値上げ分をなかなか客への値上げに転嫁できないということが起こりそうである。
		電気機械器具製造業(経営者)	・資材費の上昇に加えて円安の影響で調達コストが上昇し、採算性が悪化する見込みである。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕(経営者)	・材料価格の高騰に加え、円安が響き、商材作りが更に難しい状況となっている。
	x	食料品製造業(製造担当)	・度重なる資材や副資材の値上げが、連日FAXで送られてきている。これらの値上げ分を吸収していくには最低でも30～50%ほどの値上げが必要不可欠だが、どこまで値上げできるかは不透明である。いずれにしても値上げは企業維持のために必要である。
	x	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・受注は減るし、毎月の資金繰りは大変である。
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (甲信越)		職業安定所(職員)	・まん延防止等重点措置も解除されて、経済が活発に動き出す傾向がある。
		民間職業紹介機関(経営者)	・求人をけん引する製造業においては、ウクライナ問題は注視しているものの、手元の受注は順調で、将来の不安を懸念しているという企業が多い。
		人材派遣会社(営業担当)	・これからイベント活動が増え、新型コロナウイルスの影響等もあると思うので、まだしばらくは現状が続くのではないかと。早急に何らかの歯止めは必要である。
		職業安定所(職員)	・世界情勢の混乱から、いろいろな物価が軒並み上がっている。その結果、企業の経営を圧迫し、一般家庭の家計が圧迫される状況が起こっている。この状態が続くと、再び、求人数や求職、求人倍率等に影響が出てくるのではないかと。
		職業安定所(職員)	・円安による貿易赤字の拡大が懸念される。
	x	-	-

6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)		百貨店(経理担当)	・ワクチン接種等により新型コロナウイルスの感染リスクは後退して消費マインドが大きく改善するほか、Go Toキャンペーン等の需要喚起策を通じて観光・飲食関連消費が伸長することによって、景気は大きく上向くと考える。
		百貨店(営業担当)	・まん延防止等重点措置が解除され、消費者のマインドも戻りつつある。
		コンビニ(店長)	・新規感染者数の増加とまん延防止等重点措置や緊急事態宣言を繰り返すことで、ウィズコロナが確立された。劇的な新規感染者数の増加がない限り、感染症対策を徹底しながら外出する人は増えていくと思われる。
		コンビニ(商品企画担当)	・3回目のワクチン接種の進捗やゴールデンウィークを始めとする行楽需要の高まりにより、景気が良くなると見込む。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着くにつれて徐々に良くなっていくと思われる。ただし、会社関係の人は相当借金が増えているようなので消費に金が回りにくいため、なかなか以前のように戻らないのではないかと考える。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの感染が収束しそうで、皆浮き浮きしている。
		商店街(代表者)	・新規感染者数の減少とまん延防止等重点措置の解除で飲食店にはにぎわいを感じる。今後も幅は少ないかもしれないが、徐々に回復していくと感じる。
		一般小売店[土産](経営者)	・観光バスによる移動はまだこれからである。ガソリン価格の高騰や日用品・食料品の値上がり等で、100%の回復は難しそうだ。
		一般小売店[生活用品](販売担当)	・まん延防止等重点措置の解除後の人の動きに期待したい。
		百貨店(経理担当)	・まん延防止等重点措置も解除され、徐々に景気回復へ向かうと思われる。
		百貨店(業績管理担当)	・まん延防止等重点措置が明けて以降、土日を中心に来客数、売上共に回復傾向にある。今後、極端な新型コロナウイルス感染再拡大がなければ、この回復傾向は続くと考えている。
		スーパー(販売担当)	・販促戦略のアプリが始まった。クーポンをレジで提示すると5%引きになるなど、若い客層が増えると期待する。
		コンビニ(企画担当)	・人の動きは回復傾向にあるが、夜間の来客数はまだ戻ってはいないため、大幅な改善は期待できない。
		コンビニ(エリア担当)	・気候が暖かくなることと、新型コロナウイルス新規感染者数も大幅には減らないにしても少しずつ少なくなることで、人の動きが活発になり、来客数が伸長していくと思われる。このことから売上、来客数はアップしていく流れになると考える。
		コンビニ(店長)	・卒業に伴うアルバイトスタッフの確保と新体制の構築に心血を注ぐ時期であり、安定運営できるかは現時点では不透明な部分が多い。しかし、それ以外の不安要素はない。
	コンビニ(店員)	・夏に向けて来客数が増えることが見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（本部管理担当）	・ロシア・ウクライナを始め世界情勢が不安定だが、景気に対しての不安感はない。国内事情によるのでコロナ禍がこのまま鎮静化できれば、盛夏の繁忙期に向けて小売業は期待できる。
		家電量販店（営業担当）	・まん延防止等重点措置の解除で、今までの自粛の反動により購買意欲が上がってきている。
		住関連専門店（営業担当）	・住宅、商業施設などのリフォーム物件が増加してきた。また、新築に対する問合せ等も少しずつ増えている。ただし、設備を含む主要資材の値上げが相次いでおり、見積りや契約には少し時間が掛かっている。
		その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・期待値を含めての判断である。新入学・入社のシーズンやゴールデンウィークを考慮すると、景気回復してもらいたい。
		高級レストラン（経営企画）	・まん延防止等重点措置の解除により来客数の回復を期待するが、店舗・業態によって、客の利用動機や人数、個室利用などの要望に応えられるか否かで格差は出てくる。
		一般レストラン（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され少しずつ人流は増えると思うが、すぐに以前のように戻らないと思う。
		バー（経営者）	・まん延防止等重点措置も解除され、夏に向けて新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きそうである。
		観光型ホテル（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除されて足元では需要が回復基調にあるため、このまま推移すればやや良くなると思う。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出ると非常に需要が冷え込み、人が動かなくなってしまうので、状況次第である。外部要因にかなり左右される状況であるが、順調にいけばやや良くなる見通しが立つ。
		都市型ホテル（経営者）	・インバウンド需要の回復が期待される。
		旅行代理店（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、経済を動かしていく方向にシフトしていきたく思う。
		旅行代理店（経営者）	・4月になると旅行の県民割も開始される予定である。6月や8月の団体予約がちらほらと入り始めている。
		旅行代理店（経営者）	・まん延防止等重点措置も解除され、新型コロナウイルスも薬で少し対応できるようになれば、景気は少し良くなると思う。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスへの対策の進展等に加えウクライナでの戦争が終われば、少し上がってくるのではないかなと思う。
		テーマパーク（職員）	・春の団体客の予約状況が戻りつつある。
		商店街（代表者）	・今は先のことが全く読めない。
		商店街（代表者）	・まん延防止等重点措置が解除になったが、相変わらず新規感染者数が減少していない現況を考えると、足元と変わらないと考える。
		商店街（代表者）	・今まで我慢していた分、人の流れは活発になりそうだが、ロシアの軍事侵攻の影響が経済活動にかなり反映されると思うので、全体の景気としてみれば、余り変わらないのではないかと予測している。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・ウクライナ情勢が先行き不透明である。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染や世界情勢への不安など良い材料が全くないため、このまましばらく低迷すると思う。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除されたが新型コロナウイルスの新規感染者数が下がらない。したがって、2～3か月先も客自身が自粛をして人との付き合いの範囲を狭めた状態が続く。一旦狭くなった付き合いの幅は2～3か月程度では変わらない。客の心理としてはまだ自粛が続き、2～3か月先も売上は伸びないと予想する。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているため、飲食店の利用にはまだまだ慎重な傾向が続く。企業によっては飲食店への出入りを原則禁止としているところもあると、飲食店のオーナーから聞いている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・原材料費、輸送費などが軒並み上がり始めている。明らかに悪性インフレの兆候を感じており、コロナ禍が明けても、力強い回復は難しいと感じる。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・新型コロナウイルス、ウクライナ情勢や円安等いろいろな状況の先行きが読めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・春夏物の入荷が少し厳しく輸入品はなかなか入ってこないが、客の問合せは多くなった。まん延防止等重点措置でまた外出ができなくなる前に買っておこうという客が多いのであろうか。海外ブランド品の問合せも多く、入荷次第連絡という客も何件がある。購買意欲のある客が増えてきた。
		百貨店（企画担当）	・3月21日をもってまん延防止等重点措置が解除され、景気の戻りを期待したが、前年並みの売上で推移している。新規感染者数も一進一退で、旅行や外出などファッションや雑貨の購買を押し上げる要素が伸びていない。年齢が高い層の外出も余り戻っておらず、この傾向は数か月続くと思われる。
		百貨店（計画担当）	・足元では新型コロナウイルスの感染拡大が収束しつつあるが、消費の急激な上昇感はない。一進一退の状況が続くのではないかとと思われる。
		百貨店（販売担当）	・まん延防止等重点措置が解除されても新規感染者数が減少しなければ自粛は続くため、良くなるとは考えにくい。
		百貨店（販売担当）	・来客数は回復しているが、売上は思ったほど伸びていない。来月の動向も見てみないと分かりにくい状態である。
		スーパー（経営者）	・客席をほぼ半数に減らしての営業なので、満席でも以前の売上は期待できない。
		スーパー（店員）	・商品価格が上がってきて非常に販売量が減っている。これからも更に厳しくなっていくと思う。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数によって来客数が変わってくるため、どちらともいえない。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス感染がどう推移するかによる。このまま終息に向かうということは、現時点での可能性としては低いと思うため、景気が良くなるかどうかは不明である。
		コンビニ（商品開発担当）	・まん延防止等重点措置が解除されて人の動きは活発化している。Go Toキャンペーンの再開があり来店動機も高まるが、半導体不足による工場の休業などは引き続き発生が予想され、様子見が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束すれば、来店のきっかけにはなると思う。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・まずは新型コロナウイルスの感染が収束していかないと、ファッションを楽しむ環境にはならない。
		衣料品専門店（売場担当）	・物価上昇の影響が大きく、今後も買い控え等が増えると考えられる。
		乗用車販売店（経営者）	・納期遅れのめどが3か月でははっきりしないため、まだこの状態が続く。新型コロナウイルスの収束もまだまだみえにくい部分があるため、しばらくこの状態が続くと思う。
		乗用車販売店（経営者）	・大きく景気に影響するような要素は見当たらない。今後控えている各方面での値上げは不安要素である。
		乗用車販売店（経営者）	・タイヤ価格の値上げなど、今後も良くなる感じが見受けられない。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体不足による新車供給の遅滞は、しばらく続く予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・特に具体的な材料や理由はないが、横ばいか、精々少し良くなる程度と見込む。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の生産制限はまだ解消されておらず、客との会話でもよく話題になる。ガソリン代の高騰や生活用品の値上がり等で、自動車に余り金を掛けられない様子の客が更に増えてきているので、先行きは不透明である。
		乗用車販売店（従業員）	・悪い状態が続くという意味で変わらない。新型コロナウイルスの影響がいきなりなくなって製造業が一気に増産できるとは思えない。まだ当分は、悪い状態が続くと思う。
		乗用車販売店（販売担当）	・当社はドイツからの輸入車を販売しており、ただでさえ半導体不足の影響で生産が遅れているのに、ウクライナ情勢で部品供給もまた大分遅れるという情報があったので、今後どうなるか不安しかない。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・新型コロナウイルスの第7波が来るのではという話はあるし、ウクライナ情勢もありいろいろな物の値上がりが続いているため、客の財布のひもが固くなるのではと懸念している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上は前年比マイナス7.1%、前々年比マイナス19.5%である。来客数は前年比マイナス10.9%、前々年比マイナス19.8%である。
		一般レストラン（経営者）	・まだまだ飲食業には新型コロナウイルスの影響があると思う。現状維持ができるように努めていきたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・4月より食材等の値上げが多く、客先でもどの程度価格転嫁できるか苦慮している模様である。値上げにより販売量の減少を見込む取引先が一定数あり、通常よりも在庫量を減らす動きが出ている。
		観光型ホテル（支配人）	・新年度が始まる4月以降の予約状況は、宿泊人数は前年や前々年よりは多いが新型コロナウイルス発生前の3割にも満たない。一般宴会に至っては2割未満という有様で、回復にはまだまだ時間が掛かると思う。ゴールデンウィークの個人客と6月の株主総会に少しでも期待を持ちたい。
		都市型ホテル（総支配人）	・良くなることを期待したい。
		都市型ホテル（営業担当）	・現状と同様で余り変わらないと思われる。
		旅行代理店（経営者）	・コロナ禍も3年目なので、そろそろ旅行の計画を立てたいという声はある。県民割を政府も後押しするつもりならば、6つの地域ブロック内で全国版のGo To Travelと同じ仕組みで実施してほしい。客が直接ホテルにネットで予約すると、当日ワクチン証明を1人分しか持っていないか、子供がワクチン未接種で陰性証明もないケースなど当日トラブルが起きる恐れがある。個人経営の旅行会社ならワクチン接種の確認もきちんとできると思う。Go To Travel自体も、後からの割引にしなければ、大手旅行会社のような不祥事もなくなると思う。ブロック県民割を行うならば、県内の旅行会社での予約を必須にしてほしい。
		旅行代理店（経営者）	・飲食料品などの値上げやガソリン代の高騰で、消費者の選別がより厳しくなる傾向がある。具体的には、近所の税込み一本30円のみたらし団子屋には行列ができ、車での来店客も多くなっている。また、大都市の中心部に八百屋などの食料品店が出店するなど、集中的に居住者が集まってくる場所と過疎化している地域とに差ができてくる。
		旅行代理店（営業担当）	・旅行業での大きな収入は期待できない。政府の施策がでない限りは、旅行業外の収入確保を優先して取り組むのみである。
		タクシー運転手	・タクシー業界はなかなか厳しい状況がまだまだ続いている。賃上げ回答をみても、良い企業もあるがなかなか厳しい企業もある。ロシアのウクライナ侵攻の問題もあって、小麦粉、電気、ガス、ガソリンなどいろいろな物が値上がりしているため、その対策として、特に高齢者は金を使わなくなるのではないかと懸念がある。
		タクシー運転手	・悪いまま戻らない。
		通信会社（営業担当）	・足元の状況が続くと思う。
		レジャーランド（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていけば変わらない。原材料費や燃料費の高騰により、4月から商品価格を改定する。客の消費行動にどのように影響するかを危惧している。
		テーマパーク職員（総務担当）	・ウクライナ情勢で世界経済が不安定であり、物価が上昇する気配もある。
		観光名所（案内係）	・新年度になって、値上げやその他良くないことばかりが宣伝されている。先行きが心配である。
		ゴルフ場（支配人）	・5月の入場者予約数は、各ゴルフ場共に好調に推移している。しかし、これからはコロナ禍に対する認識の変化に伴って様々なレジャーへの分散が予想される。したがって、今後のゴルフ場の景気は余り変わらないと判断する。
		その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	・コロナ禍への警戒感は変わらない状況である。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・変わらないという分からないというのが本音である。ロシアが核兵器を使用するといった状況になれば、悪化は避けられないと思うが、ウクライナへの侵攻が落ち着いていけば、景気が上向きになっていると思う。腹立たしいことではあるが、ウクライナ情勢次第である。
		美顔美容室（経営者）	・まだ新型コロナウイルスの感染が収まり切らないため、用心している客は来店を控え、余り気にしない客は来店してくれる。しばらくはこのような調子ではないかと思う。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着くまでは変わらないと思う。
		住宅販売会社（従業員）	・今しばらくは様子見の状況が続くと思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・住宅新築、住宅リフォームや企業の設備更新など、順調に受注している。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・まん延防止等重点措置も解除されたので期待したいが、繁忙期が終わってしまったので、先行きは変わらない。
		商店街（代表者）	・家電製品や工部材のほぼ全てが値上げとなる。販売量に影響しないはずがないと思う。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・年度初めは一旦停滞する。
		百貨店（総務担当）	・各種食品の値上げやガソリン価格の高騰により、消費者の財布のひもは一層固くなるものと想定される。値上げなどで少し明るい話題があるものの、消費全体を盛り上げる力には欠けている。今後の新型コロナウイルス感染症感染動向次第であるが、消費需要よりも旅行需要に金が回り、百貨店としては厳しい状況がまだ続くものと想定している。
		百貨店（販売促進担当）	・現状では新型コロナウイルス感染の拡大防止措置が何もないので、第7波の到来によって第6波よりもはるかに多い感染者が発生し、ゴールデンウィークと夏休みの間には感染拡大防止措置が出るのが予測される。それに伴い来客が減少すると見込んでいる。
		スーパー（店長）	・ウクライナ情勢の終わりがみえていないなか、生活品、電気代やガソリンなどの値上がり相次ぐことで、消費者の節約意識は更に高まっていくと思われる。
		スーパー（店長）	・商品の値上げアイテムが増えており、更なる値上げ要請がある。
		スーパー（店長）	・値上げラッシュが続くなか、物価だけが上昇し消費者の所得は増えない。節約思考が一層強まる可能性がある。
		スーパー（店員）	・4月より値上げの категория がまた発生する。
		スーパー（店員）	・原油価格はある程度落ち着きを見せているが、円安に大きく動いているので、その影響がどう出るかにもよる。3月は油や大豆などの値上げがあったが、4月以降も何らかの値上げがあり、どう影響するかである。
		スーパー（総務）	・新型コロナウイルスに対する規制の緩和により、一層歩くようになって巣籠り需要が減ると考えられ、小売業にはマイナスの要因がある。また、ウクライナ問題による物価上昇により、財布のひもが固くなるのではないかと考えられる。
		スーパー（営業企画）	・ロシア・ウクライナ情勢により燃料を始めとして原料費が高騰することが予想されるので、その影響が消費動向に出てくると思われる。
		スーパー（販売担当）	・食品以外にもいろいろな商品の値上げが始まっており、また新型コロナウイルス感染症も終息に向かっていない状況から、必需品以外の購買拡大が考えにくい流れになりそうである。小売各社の競争は激しさを増しており、企業体力の消耗も懸念される。
		コンビニ（店長）	・夏の花火大会も中止となり、近隣の春の祭りも中止となった。まだまだ新型コロナウイルス発生前に戻るには、時間が掛かる。
		衣料品専門店（店長）	・特に中小企業の客からは、コロナ禍の影響による部品供給不足や人材不足などにより仕事が進まないという話を聞く。こういった地域経済のサイクルの回転が鈍化している。
		衣料品専門店（売場担当）	・今が1年のうちで最も繁忙期に当たるため、今月は単価が安い物も高い物も平均的によく売れて、当初予算もかなりクリアしている。ただし、今がピークであって来月以降はフレッシュャーズも減り、既にスーツをそろえている人は要らないため、今月よりも下がると思う。
		家電量販店（店員）	・特に購買意欲を感じない。故障したので仕方なく買換えをするという場面が多い。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・新型コロナウイルス流行初期の2020年度と比べて2021年度の方が売上、来客数共に減少傾向にある。ECサイトの普及は今に始まったことではないが、新型コロナウイルス対策で今までECサイトを使っていなかった人も一定数はECに流れていく。新型コロナウイルスもまだまだ続くだろうが、新型コロナウイルスの感染が収束したとしても、小売のEC化は加速していきそうである。
		乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格の高止まりや食品などの値上げ等、生活に関わる物の値上げが著しいので、財布のひもが締め消費が鈍くなると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・客との会話で、ガソリン価格の高騰、電気・ガス料金の引上げや生活用品の値上げ等、生活費の増加によりなかなか車までは金が回らないと、生活に余裕が余りないことを嘆く話題が増えてきた。
		乗用車販売店（従業員）	・生産のめどが立たないのに新型車は発表され、発売すぐに半年以上の納期になってしまう。生産が止まり、改良等でオーダーストップになる車も多い。発売が急きょ延期になったり、生産が止まったりするので、メーカーは間違いのない予定を組んでもらいたい。
		乗用車販売店（営業担当）	・昨年末の時点では今年4月以降は生産が回復するといわれていたが、ロシア・ウクライナ情勢が扱い商品の供給にも大きく影響し、遅れている商品入荷がこの先更に悪化するおそれが出てきた。この先は一層不透明になった。
		一般レストラン（従業員）	・物価の上昇に伴い、外食を控えている。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・ロシアの影響で物理的にも心理的にも後退する。
		旅行代理店（営業担当）	・もう新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の感染拡大による第7波に突入したと考えてよいと思う。県民割やGo To Travelを実施する準備が進められているが、実際に実施できるかは疑問である。また延期になるのではないかと半信半疑の状態、旅行予約の増加は見込めないと思う。
		通信会社（サービス担当）	・年度替わりのピークが終わると落ち着いてくるので、新しいサービスの提供等がなければ、新しい客をつかむのは難しいと思う。
		テーマパーク（職員）	・収束がみえない。
		パチンコ店（経営者）	・コロナ禍の影響は収まってきているが、業界全体の集客力が落ちてきており、監督官庁による規制の強化とあいまって、減少傾向は変わらない。
		理美容室（経営者）	・いろいろな物価も上がって、生活が段々と苦しくなっているのではないかとと思う。
		美容室（経営者）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響はあるので、一時的に足元では良くなっているが、客自体は少し来店を控えているような感じがする。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの影響が一番大きいと思う。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・介護保険サービスである福祉用具レンタル価格は、上限を設定され、このご時勢では原価高騰でじわじわと利幅が縮小していく様相である。品質に影響を及ぼさないように、運営努力をしている。
		設計事務所（経営者）	・計画案件が少なく、実施設計につながらない。
		設計事務所（職員）	・今の政府の状況をみると景気が良くなるような方向性はみられない。
		住宅販売会社（経営者）	・売地が少なく、また、在庫も少なくなって、その上建築費が上がっているため先行きが不安である。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローンの借入金利が低水準であるため、検討をする人は出てきている。
	×	コンビニ（店長）	・仕入価格の上昇で販売価格を上げざるを得ない。まん延防止等重点措置が解除されても、客足は戻っていない。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの終息は無理であろうから、まだまだ心配がある。そして、ウクライナ問題が最大の懸念である。
	×	都市型ホテル（従業員）	・予約数から、悪くなると判断する。
	×	通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルス、半導体不足、円安や原油といったいろいろな物の値上がりなど、不安定要素が多過ぎる。
	×	理美容室（経営者）	・次から次へと予想外の事案が出てきて安心できない。
	×	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・新型コロナウイルス対策が遅れ、エネルギーや材料の価格が上がりがり、これからまたウクライナ情勢も加わり、経済の回復が進まず2～3か月先が心配である。このままでは景気は落ち込む。
企業 動向 関連 (東海)		-	-
		輸送業（従業員）	・物量の動きから、徐々にではあるが良くなっている感があるが、ウクライナ情勢が長引けば、それも終息する可能性がある。
		通信業（総務担当）	・新型コロナウイルスとの付き合い方も浸透して、感染症対策をしつつ規制も解除になり、消費が戻る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（従業員）	・ 新年度を迎え一般的な需要は増えるように思う。しかし、新型コロナウイルスの新規感染者数は横ばいであるため、観光や飲食関係では景気は戻りづらいと考える。
		金融業（従業員）	・ 飲食店の営業時間が通常に戻るとことで、皆の会話を聞いていても、外に出て外食や会食を楽しむ計画を立てている人が大変多いため、飲食店を中心に景気は上がっていくと思う。
		不動産業（経営者）	・ 大都市圏への集中がみられる。
		不動産業（経営者）	・ 今後は新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向がしばらく続くと思われ、外出や遠出する人の増加傾向は当面継続すると予測している。今後も売上は徐々に回復していき、前年を上回る状況は継続していくと予測している。
		会計事務所（職員）	・ 季節的にも外へ向かう気分になっている。国内旅行のパンフレットがダイレクトメールで送られてくることが増え、幾つか検討しているツアーもある。少しずつ消費が増えるように思う。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・ 新型コロナウイルスの感染拡大から2年ほど経過したが、あと半年は不況が続くと考え。当社の新製品も客に試行してもらった段階になった。客の反応はますます上々の滑り出しである。
		食料品製造業（営業担当）	・ 軒並み受注量も減少傾向にあり、良くなる要因が見つからない。
		化学工業（総務秘書）	・ 景気に悪影響を与える要因は特段ない。スポーツ観戦や興行の再開は2年間の我慢を取り戻すような消費行動にもつながり、ポストコロナでの好景気をおう歌したいという意識が強く感じられる。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・ 受注の予想を立てにくい状況が続いているが、新規引き合いは多く、受注量が増えることはあっても減る可能性はなさそうである。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・ 受注量、販売量の見込みから、変わらない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・ 輸送と部品供給の問題が解決しないことには生産計画が立てられず、受注に結び付かない。また、輸送費の高騰が利益を圧迫しているため、良くなる材料がない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・ 鋼材やガソリン価格が高くなり先が見えない。とても利益は望めない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ 3か月先もまだ新型コロナウイルスの影響が続いていると思う。客先業界の設備投資への意欲が復活するのは大分先なので、余り変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ 全ての物が値上がりするなかでやむを得ないといった感覚もあるため、余り変わらないと思う。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・ ロシアの戦争が終わらないとロシア向けの輸出関連が復活しないため、しばらくはこのままだと思う。
		建設業（経営者）	・ 世間では新型コロナウイルスとウクライナ問題で何となく落ち着かず、景気も良くなるのかどうか誰も分らない状態である。これから少し大変になるとは思うが、現状のままていくと考える。
		建設業（営業担当）	・ 今の御時世では、出勤が減ったサラリーマンも自営業も全体的に収入は下がっていく一方だと思う。こういう世の中だからこの新しい仕事が出てくるときにこういった業種で景気が上がっていくかは分からないが、これまで良かったところは下がって違うところが上がっていくと思われる。
		輸送業（従業員）	・ 原油や部品などの先行きの供給や値段が予測できない。新型コロナウイルスの感染が収束してもいないこの時期に、ウクライナ問題でまた影響を受けそうな感じである。
		輸送業（エリア担当）	・ 燃料費は上がっているが、客からの単価は変わらないために苦しい。
		輸送業（エリア担当）	・ ロシアのウクライナ侵攻による世界経済の停滞や物価の上昇が見込まれ、良いニュースが何もない景況感である。先行きが見えないという点で、今後の景気は少し伸び悩みそうである。
		通信業（法人営業担当）	・ 次は新型コロナウイルスの第7波である。ワクチン接種とマスクに頼った対策は腰抜けで場当たり的である。新型コロナウイルス発生前の日常を取り戻すための行動様式の確立に国を挙げて取り組まねば、状況は好転しない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（法人営業担当）	・ 諸物価高騰の折から消費者マインドがかなり低くなる。加えて、新型コロナウイルスの第7波が押し寄せてくるかもしれない、余り変わらないと考える。
		広告代理店（制作担当）	・ 新たな新型コロナウイルス変異株に加えて、ウクライナとロシアの情勢による原料不足もあり生活必需品の値上がり予想される。広告出稿量も横ばいが続きそうである。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・ 新規利用者が増える時期までは、購入量は増加しない。
		食料品製造業（経営企画担当）	・ 原材料価格、燃料、人件費や物流費など更なるコストアップ要因が多過ぎて、危機的な状況にある。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・ 新型コロナウイルス感染症の拡大、主要原材料の値上げ、物価高、ロシアのウクライナ侵攻、円安の急激な進展等による悪い状況が今後も続くと思われ、景気はやや悪くなると思う。
		化学工業（営業担当）	・ プラスチック原料価格は更に上昇し、収益のひっ迫が予想される。客への値上げ活動は実施しているが、全て転嫁できないことが予測される。
		金属製品製造業（従業員）	・ ステンレス材を始めとした原材料の価格高騰が暗い影となっている。収益の圧迫はもちろんだが、市場の縮小、停滞は免れず、その影響は見極めが付かない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・ ウクライナ情勢等の影響が今後出てくる可能性がある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・ ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮の動向等、地政学的リスクが心理的な圧迫となり、消費マインドを下げるのではないかと危惧する。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・ ロシア・ウクライナの戦争の影響と、需要に見合う部品の入手が進まないため、やや悪くなる。
		建設業（役員）	・ 建設、不動産分譲とも資材高騰が懸念される。分譲住宅では販売価格に大きく影響する。客が予算オーバーになっている。コロナ禍やウクライナ情勢による影響で、更なる不安材料がある。
		金融業（企画担当）	・ まん延防止等重点措置が解除されたとはいえ新型コロナウイルスの感染が収束に向かっていないことに加え、ウクライナ問題もあり材料費が高騰している。価格に転嫁できない企業は非常に厳しい。両方が落ち着いてこない、景気は良くなる方向にならない。
		不動産業（開発担当）	・ マンションの販売状況は変わらず堅調であるが、資材素材関連の値上がりの影響が今後出てくると考える。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・ 配達用の燃料費や賃金など様々なコストが上がっている。また、節約のために新聞購読をやめる人も増えてきている。
		公認会計士	・ 中小企業の後継者不足や低生産性等新型コロナウイルス発生前からの課題や、業種によってコロナ禍で生じた売上減少等の課題の解決には少し時間が掛かる。今後、補助金等が適用されなくなる局面では、企業の業績悪化が具現化すると見込まれる。さらに、ウクライナ問題によるエネルギーコスト増加等の影響が予想される。
		会計事務所（職員）	・ 原料価格の高騰や円安の進展で、以前にも増して仕入価格が高くなっている。価格に転嫁したくても売上減少などが懸念され、なかなか進まないのが実状である。国の指導で抜本的な経済対策がなされなければ、景気は悪化、若しくは現状維持にとどまると思われる。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・ 新型コロナウイルスの影響、ロシアの問題、給料は上がらず物価が上がっていくなど良い話題がない。
	×	鉄鋼業（経営者）	・ 良くなる要因がない。世界情勢による資源価格の高騰もあり、鉄鋼メーカーの恣意的な値上げ要請だけが続き、中小零細企業は企業間取引での物価高に押しつぶされる。これ以上続くと潰れる会社がどんどん出ると思う。
	×	金属製品製造業（経営者）	・ 仕入価格の上昇を販売価格に転嫁する準備はしているが、引き合いも減少している。
	×	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・ 4月から更にいろいろな物が値上げされ、更に景気悪化へ向かう気がする。
	×	輸送業（経営者）	・ 軽油価格の高騰やトラックの新車不足に伴う修理費増大はしばらく継続すると思われ、利益を圧迫する。さらに、消費財、生産財共に原料価格高騰に伴う値上げが続くことで消費が冷え込み、荷量が減少すると考えられる。
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (東海)		人材派遣会社（社員）	・ゴールデンウィークに祭りの開催が決定し、少しは良くなるかと思われるが、新型コロナウイルスの新規感染者数の状況による。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣求人数、成約数共に前年を上回り、積極的な採用計画をもくろむ企業が増加傾向にある。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・4月以降、部品供給不足と半導体不足は徐々に改善される見通しである。生産計画も部品調達との関連を考え、段階的に生産増加へ推移する予定である。第7波の懸念もあるが、生産計画どおり推移してほしい。
		職業安定所（職員）	・輸送用機械器具製造業については、半導体等の部品供給不足も改善しており、新型コロナウイルス発生前の状況に向かっていくと思われる。一方、世界的な原油高、原材料高に加え、ロシア・ウクライナ情勢等、先行きに不安要素がある。
		職業安定所（職員）	・まん延防止等重点措置が解除となり、求職者も求人者も動きが活発になっていくと見込まれる。
		職業安定所（職員）	・管内企業では人手不足感が出てきているところが多くなっている。ただし、海外情勢や新型コロナウイルスの感染状況に注視する必要はある。
		職業安定所（次長）	・コロナ禍が続くなか、新規求人数は産業ごとにはばらつきはあるものの増加傾向を維持している。なお、新たな新型コロナウイルス変異株による感染の再拡大やウクライナ情勢が経済に与える影響には注視が必要である。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・3月末時点でも、若干ではあるが採用未定の学生がいなかったという法人からの問い合わせがある。入職辞退者などが発生している状況である。
		人材派遣会社（経営企画）	・特に変化の兆しはない。
		人材派遣業（営業担当）	・新型コロナウイルス感染対策、ウクライナ情勢次第で変動はするが、この先数か月には劇的な変化は期待できない。
		人材派遣会社（営業担当）	・4月になって一旦採用意欲が下がる企業が増えてくる。それに伴い求職者も一旦現状の職で様子を見る時期となり、人材流動は落ち着くとみている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新型コロナウイルス、ウクライナ情勢など企業活動を進める上で不安要素が多い。手探り状況が続くと思われる。
		職業安定所（所長）	・新規求人数は徐々に増加し、穏やかながら改善傾向を維持しているが、新型コロナウイルス感染の長期化の影響に加え、原材料価格の高騰、部品・部材不足等先行きの不透明感が残る。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の影響は軽減し始めているものの、資源価格の高騰や円安の影響が懸念される。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束とまではいえないもののまん延防止等重点措置が解除されたため、その分減少していた求人ニーズは戻ってきているが、ロシア・ウクライナ情勢の経済面への影響などが懸念されるため、周囲の景気上昇までは見込めない。
		人材派遣会社（企画統括）	・ロシアのウクライナ侵攻が世界経済に大きな影響を与えると思われる。
		人材派遣会社（営業担当）	・前月と同様に今月は年間でも派遣募集が増える時期であるため、2～3か月後は足元よりも募集数下がるのが予想される。また、ロシアのウクライナ侵攻が長期化すると主要客の部材調達への影響が出て、外部人材活用への投資にストップが掛かる可能性もある。
		人材派遣会社（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻で先行きが不透明である。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・Go Toキャンペーンなどが再開するが、新型コロナウイルスとウクライナ情勢で消費マインドは冷え込んでおり、上向く気配はない。
		職業安定所（職員）	・ウクライナ情勢の影響が暗く影を落とすと考える。
	民間職業紹介機関（営業担当）	・4月からゴールデンウィークにかけては、例年転職希望者の登録が減少する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		コンビニ（店舗管理）	・もう一息で新型コロナウイルスが落ち着くとみられるため、リベンジ消費も期待できる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、前ほど深刻に捉えられていない感じがする。ワクチン接種が今以上に浸透すれば、良くなるとみている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・まん延防止等重点措置が解除された期待を含めてだが、ゴルフの景品や入学祝い等の動きが活発になることを願っている。平日の売上が3か月前と同程度と考えると、少し良くなると見込んでいる。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・第7波があるかもしれないが、県民割引などが好調な出足をみせているようなので期待したい。
		スーパー（仕入担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、地域の祭りやイベントの開催が予定されている。観光客が流入し、買上点数が大幅に増えるとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・社会情勢が落ち着くことが前提だが、消費意欲が上がるとみている。
		自動車備品販売店（役員）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着いており、来客数は増えている。外出する人が多くなり交通量も増え、多少は良くなっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新規感染者数の減少傾向が続き、3回目のワクチン接種が進むことを期待している。年明けから長引いていた警戒心が少しずつ薄れ、これまでの傾向から上昇トレンドになると見込んでいる。Go To Travelキャンペーン関連のほか、ゴールデンウィークに向けて外出への期待が高まることでチャンスだと捉えている。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減少傾向になり、Go To Travelキャンペーンの話も出てきている。まだまだ予約数は少ないが、Go To Travelキャンペーンが始まれば個人客を中心に宿泊客が増えるとみている。
		観光型旅館（スタッフ）	・まん延防止等重点措置が解除され、予約が大幅に増加している。これにGo To Travelキャンペーンが始まれば弾みがつくとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会部門はまだまだだが、宿泊部門とレストラン部門は回復に向かっており、ようやく新型コロナウイルスの感染状況と経済対策に期待が持てるようになってきている。
		都市型ホテル（役員）	・まん延防止等重点措置が解除され、引き続き週末を中心にレジャー客の増加を期待する一方、燃料や食料品の値上げによる消費意欲の抑制を懸念している。
		旅行代理店（従業員）	・まん延防止等重点措置の解除により、遠方の旅行手配が少しずつ増えてくると見込んでいる。
		タクシー運転手	・3回目のワクチン接種を受けた人が増加している。新規感染者数が減少傾向にあり、夜の街も人出が増えてきている。
		タクシー運転手	・ロシアによるウクライナ侵攻は、人の動きには余り影響がないようである。また、新型コロナウイルスについては、県独自の警戒レベルが一番低いレベルになるようで、人の交流が増えると考えられる。
		美容室（経営者）	・3回目のワクチン接種がここに来て順調に進んでいるようなので、消費者の行動は活発になる。
		商店街（代表者）	・コロナ禍の影響が続き、大型イベントの予定が全くない。原材料費の値上げなどコスト増加が続いており、経営も厳しい。Go To Travelキャンペーンの1日も早い再開に期待したい。
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・値上がりが続く、厳しい状況がこれからも続くと考えられる。	
	百貨店（売場主任）	・まん延防止等重点措置は解除されたが、直近では再び新規感染者数が増加傾向となっている。2～3か月後の状況は、3回目のワクチン接種の進捗状況が分からないので、現状維持を見込んでいる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売担当）	・好調なビジネス需要も3月で終了し、5月にはケールピスになるため、数値が伸びる要素は少ない。ポイントは新型コロナウイルスの感染状況である。悪化しなければ、旅行や出張などの需要回復が見込め、ゴールデンウィーク前には感染拡大に転じるとみている。一方、感染が拡大すれば現状維持である。リベンジ消費という言葉が出ており、ラグジュアリー品やアートなどの一部で動きはあるが、地方では堅実な客が多く、全体数値を大きく押し上げるには至らない。食需要のみ、現状維持か拡大傾向が継続すると考える。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているとはいえ、これからの飲み会シーズンで新規感染者数が増加すれば、今の状況は変わらない。
		スーパー（店舗管理）	・県全体での人口減少と高齢化が進む状況にもかかわらず、ショッピングモール、食品スーパー、ドラッグストアと出店が続くため、既存店舗における改善策を見いだすのが困難な状況である。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響は、当面は一喜一憂しながらの状況で、売上の急回復は難しいと考える。
		家電量販店（店長）	・特別なことは起こらないとみられ、平年並みである。
		家電量販店（本部）	・ウクライナ問題の長期化や石油価格等、先が見えない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車業界ではいまだに納期の遅れや未定の状況が続いている。この状況がまだ長引くと見込んでいるので、景気は変わらないと考える。
		住関連専門店（役員）	・新型コロナウイルスの感染状況の推移が不透明な上、食品や生活用品の値上げなどもあり、客の耐久消費財やし好みへの購入意欲は抑え込まれると考える。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・毎月同じだが、とにかくこれ以上悪くなってほしくないという思いである。
		高級レストラン（スタッフ）	・新規感染者数が増えると集客が悪化し、新規感染者数が減るとGo Toキャンペーンで奮起する流れだが、飲食店利用が悪者になっている以上、期待は持てない。新型コロナウイルスの毒性が弱まることのみが集客回復への道筋と考える。
		一般レストラン（店長）	・新規感染者数がなかなか減らないので、客は戻らない。このような状態が通常と考えると対応しなければいけないのかもしれない。
		スナック（経営者）	・国内外とも有事が続く、物価が上昇する状況では、ますます悪くなる気配である。
		通信会社（営業担当）	・新入学の時期も終わり、大きな変化が起こり得る商材が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・新商品が発売される時期で、順当に在庫が納入されればある程度の販売数は見込めるが、在庫納入が少ないと見込んでいるため、予測値以下になりそうである。
		通信会社（役員）	・これまでと変わらず前年同期と同程度の契約者数で推移すると見込んでいる。
		テーマパーク（役員）	・新規感染者数が高止まっており、一部では増加傾向もみられるため、社会経済活動への影響は不透明である。Go To Travelキャンペーンの再開などに期待はするものの、全体としては現状維持の状況が続くとみている。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・春先や新年度の新規入会が見込める状況ではなく、新年度における第1四半期の状況は良くならないとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・見込み客が増えないことに加え、価格上昇の勢いが止まらず、営業現場での価格設定も混乱するような状況である。営業マン自体が落ち着いて客と話しづらい状況であり、価格が落ち着くまでバタバタするだけで、客が増えるとは見込めない。
		住宅販売会社（従業員）	・年度計画は達成できている。製品の確保が不透明であり、この状態が続くのか先が読めない。
		住宅販売会社（従業員）	・木材価格が安定しない限り、景気回復にはつながらない。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・新型コロナウイルス感染症やウクライナ戦争等の要因による物価上昇や商品供給が不安定なため、消費者の購買意欲が上がるとは見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・ウィズコロナの生活が通常となり、休業など大きく営業に影響することは少ないとみているが、ガソリン価格の高騰など生活必需品の値上げの影響と、遠方や宿泊を伴う旅行の回復が見えづらく、アパレルを中心とした売上の回復は依然として厳しいと考える。
		スーパー（店長）	・値上げがどこまで進むか分からない状況では景気の拡大を見込めない。
		コンビニ（営業）	・新型コロナウイルス発生前と後の生活様式の変化やロシアのウクライナ侵攻による原材料等の値上げのため、やや悪くなる。
		乗用車販売店（役員）	・ウクライナ情勢、地震による交通や電力への懸念など不安要素が高まり、消費者心理が冷え込むとみている。
		通信会社（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況に加え、ウクライナ侵攻による資源価格の高騰や物価上昇を懸念する。
		通信会社（役員）	・半導体不足により電子機器不足が顕在化する可能性があり、新規契約者数等に影響が出る懸念がある。
		パチンコ店（経理）	・ロシアとウクライナとの戦争により諸物価の上昇が予想され、消費が減退するとみている。
		住宅販売会社（営業）	・ウッドショックや世界的インフレによる原材料価格の高騰及び高止まりが、消費マインドを押し下げるものとみている。加えてウクライナ情勢に伴う世界経済の不安定さの拡大など、景気を引き下げる要素しか思い当たらない。
	×	商店街（代表者）	・陽気が良くなり、桜や春祭りの時期になれば入出は期待できるが、財布のひもは固いと考える。
	×	衣料品専門店（経営者）	・資源エネルギー価格の高値感強く、利益確保を目的とした諸物価の上昇はまだ続くとみられ、消費はますます不安定にならざるを得ない。
	×	乗用車販売店（従業員）	・コロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻で、良くなる要素が全くみえない。
企業 動向 関連 (北陸)		-	-
		化学工業（総務担当）	・3か月後の売上は上がる予定である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・ウクライナ問題は長期化のおそれがあり、この影響により食品からエネルギーに至るまで物価上昇が予想される。また、新型コロナウイルス感染症の終息もなかなか見込めないなかで、当面、個人消費は本格的に回復しないとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況を見て変わらないと考える。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・オートバイ関連の需要がグローバルに高まっているものの、輸送用船舶の手配がひっ迫しており、在庫過多になってきている。また、主原料や副資材の値上げ、輸送費の高騰等、コスト上昇による価格転嫁が避けられず、今後の需要動向に影響が出ると懸念している。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・ロシア、ウクライナ情勢による影響が不透明である。
		精密機械器具製造業（役員）	・シーズンの売上伸びていく時期であり、実際そういう傾向にはあるが、レベル的には期待する本来の水準よりはまだまだ低い状況である。身近なところでの各種の値上げ攻勢やウクライナ問題の不透明感もあり、しばらくこの状況が続くとみている。
		通信業（営業）	・景気の状況が3か月後に更に延伸するとは考えづらい。積極的な補助金や助成金等政府の施策拡大がない限り、現状並みを想定している。
		金融業（融資担当）	・原料価格の高騰、円安進行による輸入物価の上昇、燃料価格の上昇などが企業収益を圧迫している。一方、新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりしているが、まん延防止等重点措置が解除され、飲食や観光業における需要回復の兆しもあり、一進一退の状況が続く。ロシアのウクライナ侵攻が長期化すれば経済制裁の影響が顕在化してくる可能性がある。
		不動産業（経営者）	・個人客からの問合せはほとんどない状態である。法人客からの問合せに期待していたが、なかなか期待どおりになっていない。
		司法書士	・建築資材の高騰、住宅機器不足により、新築住宅や園舎の建築が遅れたり、予定が変更されたりといった案件が多く、変わらないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		税理士（所長）	・分からないというのが正直なところである。ウクライナ情勢などの国際情勢による大きな影響を中小企業が受けている。仕入れや仕入価格がどう変わるかによって、非常に変動が大きいようである。仮に売上が増加しても利益率が上昇しない、円安による材料価格上昇などの不安もある。不安定な状況が続いている。
		食料品製造業（経営企画）	・ロシアのウクライナ侵攻は、ありとあらゆる面でマイナスに作用すると考える。
		繊維工業（総括）	・ウクライナ情勢や円安により、原材料価格の高騰に拍車がかかることを懸念している。
		建設業（経営者）	・ウクライナ情勢から建設資材の価格が上昇し、品薄の資材も出てくるだろうが、設計価格に反映されるまでにはタイムラグが生じると考える。
		建設業（役員）	・材料価格の先行きの不透明さが拭えないのに加え、世界情勢等による景気動向が不安定である。
		輸送業（管理会計担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が燃料価格の高騰に拍車を掛けている。さらに、国際物流の低迷、資材価格の高騰もあり、国内貨物も低迷すると見込んでいる。
		金融業（融資担当）	・ウクライナ情勢や円安の影響で4月から更に物価が上昇することから、予断を許さない状況である。まん延防止等重点措置の解除による経済活動の更なる活発化に期待するしかない。
	x	輸送業（役員）	・ロシアによるウクライナ侵攻の先行きが不透明である。また、トラックの構造が複雑化しており、修繕費が高騰している。
雇用 関連 (北陸)		-	-
		人材派遣会社（役員）	・新型コロナウイルス感染症が終息すれば、経済活動がより活発になるとみている。ただし、働き手の確保が難しいため、飛躍的に景気が良くなるとも考えられない。
		新聞社〔求人広告〕（営業）	・人流が回復すれば、上向きになることは間違いない。
		職業安定所（職員）	・徐々に求人を出す事業所や初めて求人を出す事業所が多くなっている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・新型コロナウイルスの感染に警戒しながら行事や催しなども復活し、徐々にではあるが経済も活発化するとみているが、ロシアへの経済制裁によるデメリットの影響が不安材料である。
		人材派遣会社（社員）	・年度替わりから3か月を経過するタイミングで新たな雇用が増加するとは考えにくく、しばらく現状維持であるとみている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用の話が出てこない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人数について、状況が変わる要素や気配が見受けられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ロシアによるウクライナ侵攻が世界経済全体に影響を落としており、国内でもエネルギー関連を筆頭に影響が大きい。あらゆる分野で仕入価格が上昇し、企業収支に大きな影響が出ることは避けられないとみている。
		職業安定所（職員）	・ガソリン価格が安くならない。
	x	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		コンビニ（経営者）	・平日のビジネス街はテレワークも減少し、出勤率が80%程度に戻る可能性がある。売上も15%ほどの増加が見込めそうである。
		商店街（代表者）	・花見シーズンに入り、人出の増加が予想されるため、少し売上の改善が見込まれる。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・まん延防止等重点措置の解除による、飲食店の営業再開や時短営業の解消による影響が大きい。
		百貨店（売場主任）	・客が旅行の予定を立てるなど、新型コロナウイルスの感染を防止しつつも、元の生活に戻ろうとする意識を感じる。それに伴い、外出着や旅行用品、土産物などが動くことを期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・3回目のワクチン接種による、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少を期待している。
		百貨店（企画担当）	・このままコロナ禍が収束に向かえば、外出の頻度も増え、来客数、売上は現状よりも上向くと期待している。
		百貨店（外商担当）	・徐々に消費行動は好転しており、新型コロナウイルス発生前の状況に近づきつつある。ただし、ウクライナ情勢に対する不安要素の存在が懸念される。
		百貨店（マネージャー）	・明らかにコロナ禍の影響が緩和されつつある。特に、直近の2週間で急速に緩和している。2週間前は前年並みであったが、前週は来客数、販売量共に、前年比で1けたの増加となっている。
		百貨店（サービス担当）	・来月からは、これまでの外出自粛の反動によるリベンジ消費とゴールデンウィークが重なり、来客数が順調に回復し、売上の確保につながることを期待している。
		百貨店（外商担当）	・まん延防止等重点措置の解除により、客の購買意欲が高まると予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・3回目のワクチン接種が進み、気温の上昇とともに外出機会が増えることで、景気への好影響が予想される。
		百貨店（マネージャー）	・4月以降は人流が大きく増え、停滞していた旅行や飲食関連の市場も活発化し、それに伴って全体的な消費活動は上向くと予想される。原料価格の値上げといった、コスト上昇の動きもあるが、消費者の理解が進むことで、大きな障害にはならないと予想される。むしろ心理的に開放されることで、節約行動と開放的な行動という、消費の二極化が更に進みそうである。
		百貨店（売場マネージャー）	・まん延防止等重点措置が解除され、徐々に来客数も戻ってきている。また、3回目のワクチン接種の実施で、高齢層の来客数も増えている。
		百貨店（マネージャー）	・今後もウクライナ危機による影響は懸念されるが、国内では3回目のワクチン接種による外出意欲の上昇のほか、リベンジ消費への意欲も高まるなど、プラスの要素が見込まれる。
		百貨店（服飾品担当）	・まん延防止等重点措置が解除された週末は、大きく数字が伸びたことから、今後は来客数の回復が見込まれる。前年4月末の休業を余儀なくされた状況と比較すると、売上の基調は上向くと予想される。徐々に外国人客の代理購買の比率がアップし、値上げ予定のラグジュアリー関連も数字が伸びそうである。コロナ禍がこのまま収束する感覚を、客がもっている期待感がある。
		スーパー（店長）	・コロナ禍が長期化し、そのなかで経済活動と共存し始めていることから、今後は徐々に良くなっていくと予想している。
		スーパー（店長）	・今後もコロナ禍の推移に景気は左右されるが、まん延防止等重点措置の解除後は、客の買物動向が変化しており、行楽関連商品の需要が増えている。今後、客の購入意欲はゴールデンウィークに向けて高まっていくと予想される。
		スーパー（企画担当）	・2階にテナント誘致ができたため、来客数の増加が見込まれる。それに加えて、自転車や園芸関連の好調は続く予想される。
		コンビニ（経営者）	・このまま順調に経済活動が回復することを期待している。
		コンビニ（経営者）	・今まで控えられていた行動が再開し、新年度もスタートするなど、通常の動きに近づく形で行動範囲が広がるため、自然に消費も増えてくる。ただし、企業の負担が増えている部分については、とても不安に感じている。
		コンビニ（店員）	・人が動けば買物をする機会も増える。当店は駅の近くの立地であるため、立ち寄りでの来店が増えてくる。
		コンビニ（店員）	・気候が暖かくなり、冷たい物が売れ始める。
		衣料品専門店（店長）	・毎年のことながら、4～5月に向けて季節要因で客が増えつつある。今年は新型コロナウイルスの感染第6波が下火になることで、特に回復が見込まれる。ただし、まだまだ予断を許さない。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きが増えそうである。
		衣料品専門店（販売担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたため、少し外出する機会が増えて、衣料品にも動きが出てくると予想される。
		家電量販店（経営者）	・コロナ禍が落ち着いたほか、物流も正常化し、景況感が上向くと感じている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・医薬品や化粧品の売上が増加傾向にあるが、今後も新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や、気温の上昇に伴う来客数の増加が見込まれる。日用雑貨、嗜好品も堅調に推移しており、緩やかに回復していく。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・3回目のワクチン接種も進み、社会の新型コロナウイルスに対する認識が少しずつ変わり始める。
		高級レストラン（スタッフ）	・今月末から来月にかけて、延期されていた送別会や祝賀会などの予約が増えている。
		高級レストラン（企画）	・コロナ禍による外出の自粛や、企業の宴会自粛の緩和が進み、来客数が今よりも回復することが予想される。
		観光型ホテル（経営者）	・現在は当地域でも県民割が実施されているが、更に広いブロックに拡大しての適用はない。元々当地区は隣接する大阪府からの来客が多いため、当地域だけの県民割では大きな効果が期待できない。
		観光型ホテル（経営者）	・現在の社会情勢は完全に正常ではなく、新型コロナウイルスの消滅が最低の条件となる。とにかくコロナ禍の影響が強く残っているが、これから2～3か月先には状況の改善が期待される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス発生前には到底戻らないが、徐々に回復傾向にある。一方、年配客の同窓会などはやはり自粛傾向で、10月開催分も現時点でキャンセルになるなど、先行きは不透明である。黒字に転換するまでには、相当の年数を要する。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・宿泊は、間際や当日の予約が増えており、稼働率は上向きそうである。飲食関係は、ここ数年はコロナ禍でさっぱりであったが、今春は直近の宴会場の予約が少しずつ入り始めている。当ホテルは受けていないが、立食パーティーの問合せも増えている。まん延防止等重点措置が解除されたほか、コロナ禍への慣れもあるかもしれないが、客室部門からは、今回はしっかりと動き出しているという声が出ている。
		都市型ホテル（総務担当）	・社会活動の活発化が期待されるものの、今後の新型コロナウイルスの感染状況次第では、医療体制が逼迫する懸念もあることから、まだ楽観はできない。
		都市型ホテル（客室担当）	・3回目のワクチン接種が進むことで、Go To キャンペーンの再開にも期待が集まる。県民割などの再開の動きも、良い方向に進んでいる。
		都市型ホテル（フロント）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が下げ止まっているものの、参議院選挙もあるなかで、まん延防止等重点措置の再適用は考えにくいいため、その間はビジネス移動や旅行消費が伸びると予想している。
		都市型ホテル（管理担当）	・消費者の動きが活発化する。
		旅行代理店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、感染第7波も発生せず、Go To Travel キャンペーンが再開されれば、今よりも回復することが期待される。
		旅行代理店（従業員）	・県民割やGo To Travel キャンペーンを再開するかどうかにかかっている。
		旅行代理店（役員）	・海外旅行の需要はまだまだ戻らないが、国内旅行については、この2年間、貯蓄に回っていた予算が出てくると予想される。
		旅行代理店（支店長）	・国内旅行については、ゴールデンウィークの日並びも良いほか、自治体による県民割やGo To キャンペーンの再開を求める声は大きいため、需要は伸びると考える。一方でウクライナ問題もあり、海外旅行の復活はまだまだ先となる。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されたほか、春になって暖かくなったこともあり、週末にはいろいろな場所で人出がみられる。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置の解除で、消費者からコロナ禍への恐怖心がなくなっていくことを期待したい。4月も異動による挨拶回りなどでの、人の動きを期待している。
		ゴルフ場（支配人）	・来客数は増加傾向にある。今後は物価の上昇で仕入価格の上昇が懸念されるが、それ以上に売上が増えれば、景気は良くなっていく。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・アロマオイルでのマッサージで服を脱ぐため、寒い時期よりも暖かい時期の方が客は増加する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔珈琲〕 (経営者)	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きは活発になるが、毎回その影響で新型コロナウイルスの感染が再び拡大してきたため、期待できない。
		一般小売店〔野菜〕 (店長)	・ウクライナ問題が3か月後に終わっているかどうかで、物価の上昇率が変わる。安定して商品が入ってくれば助かる。
		一般小売店〔菓子〕 (営業担当)	・コロナ禍への不安がまだまだ残っており、動きの方向性が一向に定まらないなど、先行きが不安である。
		百貨店(店長)	・ウクライナ危機などで物価が上がるなか、お金を節約する部分と使う部分の差がどんどん出てくる。一方、新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてくることも予想されるなど、不安材料がなくなるまでにはまだ時間が掛かる。
		百貨店(営業推進担当)	・コロナ禍は一旦落ち着いているが、緊迫するウクライナ情勢、原材料価格の高騰による食品類の値上げなどの悪影響で、大きな伸びは期待できない。
		百貨店(販売推進担当)	・まだまだ一進一退の状況が続くと予想される。
		百貨店(特選品担当)	・コロナ禍は良くなったり悪くなったりの繰り返しで、結局は余り変わらない状況である。今後は良くなる可能性の方が大きい。ウクライナ危機による影響も少なからず出ており、事態が長引けば、影響は更に大きくなることも考えられるので、3か月先も状況はそれほど変わらない。
		百貨店(宣伝担当)	・中国やアジアからの輸送の停滞に、ウクライナ危機の影響が加わり、春夏商品の入荷に遅れが出始めている。ゴールデンウィークや母の日商戦を前に、不安要素が増えている。
		百貨店(販促担当)	・コロナ禍に加えて、ロシアのウクライナ侵攻による社会不安もあり、先が全く見通せない状況にある。状況が良い方向に進む場合は、旅行を中心に消費の機運が一気に高まり、プチゼイタクをキーワードに消費を楽しむ提案を進めていく。仮に逆の方向であれば、引き続きイェナカでのプチゼイタクや、防災関連商材の打ち出しを行うなど、柔軟に対応していく。
		スーパー(店長)	・新型コロナウイルスの感染状況は依然として予断を許さない状況にあるほか、各メーカーの販売価格の引上げによって生活防衛意識は更に高まる。
		スーパー(店員)	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が増えなければ、客も毎日買物に来店してくれるため、それなりに売上が伸びる。
		スーパー(企画担当)	・今月以降も値上げ予定の商品が多く、厳しい状態に変化はない。果物などの輸入品に関しても、値上がりは避けられない。
		スーパー(開発担当)	・原油価格の高騰が続き、小麦の値上げも発表されている。4月からは食品の値上げが進むため、景気が良くなる可能性は低い。賃金の上昇もないため、コロナ禍のなかで良い材料は何も見当たらない。
		スーパー(社員)	・全ての客ではないが、節約しようとする客は、広告の商品や値下げ商品の購入が増えている。今のやや厳しい状況が、しばらく続くと考えている。
		コンビニ(店員)	・新型コロナウイルスの感染状況や、物価や光熱費の値上げといった不安材料が多いなか、景気が上向くことはあり得ない。
		衣料品専門店(経営者)	・様々な商品やサービスの値上げが予定されている。一方、給与については上がる気配がなく、東京を除く地域は、アフターコロナのリベンジ景気の波に乗り遅れる。
		家電量販店(企画担当)	・リフォーム市場では、グリーン住宅ポイントとは異なり、こどもみらい住宅支援事業が補助金交付型であるため、問合せが急増している。消費者の反響が良いため、今後期待している。
		家電量販店(営業担当)	・コロナ禍とウクライナ危機の影響がある間は、厳しい状況が続く。
		乗用車販売店(経営者)	・何となく様々な動きに時間が掛かるようになった。また、物価は上がり、納期未定の仕入れが売上を更に圧迫すると予想される。
		その他専門店〔宝飾品〕(販売担当)	・ロシアのウクライナ侵攻により、為替や金相場の変化で仕入商品のコストも上昇し、販売価格を上げざるを得なくなっている。新年度以降の、客への商品提案も簡単ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・直近の売上は前年を上回ったが、新型コロナウイルスの感染再拡大のリスクが付きまとい、なかなか安定的な業績改善は見込みづらい。
		一般レストラン（企画）	・コロナ禍の影響については、内食、中食と比べて外食はまだまだ厳しい。まん延防止等重点措置は解除されたが、消費はまだまだ回復には至っていない。また、ロシアのウクライナ侵攻による経済への影響は、原油や原材料価格の上昇が企業や家計を直撃しており、今後も厳しい状況が続くことが予想される。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が余り減らず、感染第7波に突入しそうな情報が流れている。
		観光型ホテル（客室担当）	・コロナ禍の影響もあり、爆発的に来客数が伸びることはない。
		都市型ホテル（管理担当）	・コロナ禍の先行きが不透明であるため、一進一退の動きが予想される。
		観光名所（企画担当）	・3月21日をもってまん延防止等重点措置が解除になったが、まだそれほどの動きがなく、先行きは不透明である。
		遊園地（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除を受け、来客数の回復が顕著となっている。ただし、現状の動きがいつまで続くかは不透明であり、楽観視はできない。様々な面で判断が慎重にならざるを得ない状況にある。
		競輪場（職員）	・ゴールデンウィークに入るほか、当競走場で一大イベントがあるなど、良くなる要素はある。ただし、ロシアのウクライナ侵攻による影響や、コロナ禍による物流の悪化や物価の上昇で、どの程度の影響が出るのか、見当が付かない。
		競艇場（職員）	・コロナ禍による在宅ワークの影響もあり、電話投票やインターネット投票の売上が全国的に好調を維持している。ここしばらくは、現在の高水準の売上が続くことが予想される。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・ウクライナ危機の長期化によるインフレの進行や、新型コロナウイルスの感染拡大といった下振れリスクが多く、慎重にならざるを得ない。特に、消費の力強い回復がみられない段階で、水道、光熱費が急上昇すれば、企業収益が打撃を受ける。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・コロナ禍やウクライナ危機によって、物価の上昇が進むなか、消費が活発化しない。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、プロ野球の試合でも入場制限がなくなった。新型コロナウイルスの感染に対し、万全の対策をとったなかではあるが、久しぶりに多くの来場者が訪れることを期待している。なお、3か月後の状況は不透明であり、大きくは変わらないと予想している。
		美容室（店員）	・気温が上がってくると髪型を変えたいくなるが、今のところは大きく変わらない。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・前月に続き、入会者が増えている。ただし、今後は年度替わりとなるため、多少の退会者も見込まれる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・新築住宅市場は、政府の強力な支援策でも発表されない限り、上向くことはない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・1か月ごとに新型コロナウイルスの関連情報や世界の情勢がどんどん変わり、落ち着いた気持ちである。人のメンタルが振り回されることも事実であり、安易に2～3か月先に良くなるという希望的観測はもてない。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・新型コロナウイルス発生前に戻るとは考えていないが、今後も経済は悪いままのような気がする。
		百貨店（売場主任）	・ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあって所得が増えないなか、物価は上昇しており、消費に影響が出るのは必至である。前年の5月は緊急事態宣言の発出で大きく悪化したため、今年は通常の営業ができれば、前年よりも良くなるが、本格的に景気が良くなる状況にはない。
		スーパー（経営者）	・今月以降も幅広い商品の値上げがあるが、今のところ同業者との価格競争による値崩れは起こっていない。客も値上げをやむなしと受け入れざるを得ない状況とみられるが、中小企業にまで値上げが行き渡るかは不透明である。高齢者の年金の目減りなどで、節約ムードが高まることは避けられない。
		スーパー（店長）	・原価の高騰による値上げで、生活防衛の意識が強まるおそれがある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店員）	・コロナ禍も落ち着いてきて、人出が多くなることも予想されるが、いろいろと値上がりする商品も増えるため、買い控えの動きが出ると予想される。
		コンビニ（店長）	・コロナ禍に加えて、ウクライナ危機の影響も不安視される。ガソリンや小麦粉など、どの部分にどの程度の影響が出るのかが心配である。
		コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や、4月からの商品の値上げなどが影響する。
		家電量販店（店員）	・コロナ禍やウクライナ危機が日本経済に大きく影響し、小売業にもダメージが出る。消費者の購買意欲は下がり、既に最低限の生活を受け入れる傾向になりつつある。
		家電量販店（店員）	・値上げの影響が徐々に始まる可能性がある。
		家電量販店（店員）	・値上がりなどの情報で、客が購入に慎重になる可能性もある。
		乗用車販売店（経営者）	・給料の増加と、物価の上昇のバランス次第となる。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体不足の問題で生産が制限されており、新車の販売が厳しい。新車の購入希望者が購入を諦めることもあり、売上が伸びない。
		乗用車販売店（営業担当）	・半導体不足に加え、ウクライナ危機で更に生産が落ちることが予測される。
		乗用車販売店（販売担当）	・ロシアのウクライナ侵攻もあり、今後、原材料費や燃料費の高騰などが足を引っ張る。
		その他専門店 [宝石]（経営者）	・ガソリンや小麦価格の高騰が、所得に影響を与える。この状況はしばらく続く。
		その他専門店 [ドラッグストア]（店員）	・緊急事態宣言などの発出中は、買物こそが外に出掛ける動きであったが、今後は旅行などに行き始めるため、売上は厳しくなる。また、今後もマスク生活が続くため、高額な化粧品などの売上も回復の期待は薄い。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経理担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、Go Toキャンペーン等の観光振興策が打ち出されると、ゴールデンウィークを中心に景気の一時的な回復が見込まれる。ただし、ウクライナ危機や原油価格の高騰が長期化すれば、物価の上昇につながり、買い控えなどの消費の抑制が進む。
		その他小売 [インターネット通販]（オペレーター）	・送料の無料キャンペーンが終わるため、例年どおりの動きに戻る。
		一般レストラン（店員）	・春休みや卒業式などの影響もあり、家族連れでの外食の客が増えたが、今後はそのようなイベントもないため悪くなる。
		その他飲食 [自動販売機（飲料）]（管理担当）	・経費削減の流れはこれから更に強まるため、自動販売機の撤去は、増える要素しか見当たらない。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されたが、接待などを自粛する企業はまだ多く、会食後の深夜の長距離客が期待できる状況ではない。
		通信会社（社員）	・コロナ禍からの回復が余りみられない。ウクライナ危機の影響や、ガソリン代を始めとする物価の上昇により、消費を控える傾向がますます強まることが懸念される。
		通信会社（企画担当）	・ウクライナ情勢やコロナ禍の影響、各国での金融引締めなどから、我が国もインフレ傾向になると予想される。一方、それに見合った給料の増加は見込めないため、景気は悪化に向かうと考えられる。
		テーマパーク（職員）	・ロシアによるウクライナ侵攻が社会に与えたインパクトは相当大きい。ロシアが我が国の隣国という現実から、他人事でないことがよく分かる。原子力発電施設に攻撃を仕掛ける国とは、正常な交渉は困難である。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・ウクライナ危機に伴う物価の上昇で、財布のひもが固くなることを心配している。
		住宅販売会社（経営者）	・世界情勢が不安定で、先が見通せない。
		住宅販売会社（経営者）	・ウクライナ問題で、徐々に国内の景気にも影響が広がる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・分譲マンションの供給が都心部周辺に広がっている一方、販売単価の高騰が止まらない。既に価格水準が実需層の限界に達しており、今後は売行きが悪化していくことも考えられる。
		住宅販売会社（総務担当）	・ウクライナ危機に伴い、木材の建材やコンピュータ制御の浴槽などの調達に時間が掛かり、費用も上昇傾向となる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・世界情勢の不安定化がますます加速するほか、円安の進行によって物価の上昇が更に進む。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・仕事に必要な工具類や備品の入荷も遅れがちであり、スムーズに予定が立てられない。目に見えない形で、機会損失が発生している。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・海外の不安定な状況や円安などの影響を含めて、原価の大幅な上昇が見込まれるなか、住宅価格の更なる上昇は不可避である。今後の価格転嫁により、販売の停滞につながるおそれが強まっている。
	×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・ロシアのウクライナ侵攻による影響が出る。
	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今後また増えるおそれがあるほか、物価上昇による買い控えの懸念も強い。ロシアによるウクライナ侵攻の動きも、今後の推移は不透明であり、景気が良くなるとは到底思えない。
	×	一般小売店〔呉服〕（店員）	・高額の呉服を扱っているが、貴金属の購入客とは違った考えの客が多い。着物でぜいたくをするのであれば、世界の恵まれない子供に寄附する方がよいという人も多く、呉服の買い控えが発生している。
	×	衣料品専門店（経営者）	・商品を仕入れようとしても、売れ筋商品が入らず、ヒット商品もない。
	×	住関連専門店（店長）	・通関業者によると、ロシアのウクライナ侵攻で船便の輸送費が1.5～2倍に上昇し、航空輸送は10～20倍に高騰している。現地の取引先からは、燃料費高騰による大幅値上げの通達があった。目に見えて大変厳しい状況となっている。
	×	住関連専門店（店員）	・様々な商品の価格が上がる一方、収入は変わらないため、良くなる要素がない。
	×	一般レストラン（経営者）	・4月からの値上げラッシュで家計も厳しくなり、新型コロナウイルスの新規感染者数も増加傾向となるおそれがあるため、来客数は減少する。
	×	一般レストラン（経営者）	・3回目のワクチン接種と治療薬の普及が進んでくれば、安心して外食を楽しめるようになるため、そろそろ期待できる状況となる。ただし、物価の上昇が進めば、娯楽関連が最も節約の対象となる。4月からは物価の上昇が続くと予想されるため、少し落ち着くまでは、まだ気が許せない状況である。
	×	観光型旅館（経営者）	・直近を含めて、3か月先の動きはほとんどみられない。やはりコロナ禍の影響で、予約の間際化が進んでいる。
企業 動向 関連 (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・国際コンテナ運賃の暴騰や、ロシアのウクライナ侵攻など、自社事業に影響の大きな事象が発生し、利益が計画よりも大幅に減っている。利益の減少は販売量の増加で埋めるしかなく、より一層の販路拡大を目指し、事業を進める予定である。
		食料品製造業（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除になったため、これから人の流れがもっと増えれば、売上も少し良くなっていく。さらに、Go To Travelキャンペーンが再開となれば、少し景気も良くなる。
		建設業（経営者）	・今の状況が続けば、受注も少しずつ増えていく。ただし、材料費の高騰による影響で、発注の見合せや延期の可能性も否定できない。
		輸送業（商品管理担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたため、今後は酒類の販売が増加する。
		広告代理店（営業担当）	・このままコロナ禍の再拡大がなければ、新型コロナウイルス発生前には戻らないまでも、前年よりも広告出稿は回復すると予想される。
		広告代理店（営業担当）	・今年に入り、Web媒体、紙媒体共に、広告売上は前年を少し上回る状態が続いている。
		繊維工業（団体職員）	・新型コロナウイルスの感染状況に左右されるが、原材料費や加工料の値上げが続く一方、販売価格の値上げ交渉は思うようには進んでいない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・上向きような情報がない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・コスト削減の動きは続くと予想され、各企業は必要最低限の受注を意識せざるを得ない。
		化学工業（経営者）	・一部では景気が回復しつつあるが、コロナ禍の長期化で、感染対策の製品は購入が一巡し、売れなくなっている。既存の製品も相変わらず売行きが悪いなど、全体的にはまだまだ厳しい。
		化学工業（企画担当）	・元々食品原料の価格が高騰していた上に、ロシアのウクライナ侵攻により、本来であれば作付けの時期である春に、コーンや他の農作物の作付けができないため、中長期にわたって原料が不足することが予想される。
		金属製品製造業（開発担当）	・新型コロナウイルスの影響で中国経済の動きがストップしている。
		金属製品製造業（営業担当）	・最終需要の動きは、業界によって様々となっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・コロナ禍で既に悪いなか、ウクライナ危機の影響もあり、業況が持ち直すことはない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・世界情勢が不安定ななか、景気が悪化することはあっても、好転することは難しい。
		輸送用機械器具製造業（役員）	・主な取引先である自動車関連各社の動向が見えにくい。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・まん延防止等重点措置が解除されたが、新型コロナウイルスの新規感染者数は依然として多く、感染第7波の発生のおそれもあり、収束の見込みが立たない状況が続いている。それに加え、原油価格の上昇によって原材料の値上げも進んでいるが、販売価格に転嫁できず、苦しい状態である。
		建設業（経営者）	・ウクライナ危機による建設資材関連への影響を心配している。今後も設備投資の計画予算に合わず、工事が凍結や延期、縮小、中止となるケースが増えそうである。
		輸送業（営業担当）	・商品の納期が延びており、しばらくは今の状況が続くそうである。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・仮にコロナ禍が収束し、消費が戻ってきたとしても、この2年で事業の継続のために発生した負債や金利の負担は大きい。それを補えるだけの劇的な収益の回復が見込めるかといえば、いささか不安である。
		金融業（営業担当）	・コロナ禍やウクライナ危機の影響で、商品が値上がりしている。また、入荷がないため、資金繰りも悪化が進む。
		金融業（副支店長）	・ウクライナ情勢の不安定化で、株式相場も不安定な状況となっている。景気についても、引き続き様子見の消費者が多いと予想される。
		司法書士	・まん延防止等重点措置が解除されたが、早くも新型コロナウイルスの新規感染者数の増加傾向がみられたり、ウクライナ問題も続き、明るい兆しがみえてこない。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・早く新型コロナウイルス発生前の状況に戻ってほしい。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・まん延防止等重点措置は解除されたが、新型コロナウイルスの新規感染者数がまだまだ多いため、前向きな活動ができていない。
		食料品製造業（従業員）	・国内だけの問題ではなく、世界的に経済が混乱しており、予想外のところまで影響が広がっている。原材料や資材価格の高騰は止められない状況であり、為替の変動の影響も出ている。今後は値上げ交渉を進めていくが、量販店は簡単に受け入れてくれない。
		繊維工業（総務担当）	・物価の高騰が買い控えの引き金となり、売上の減少につながる。
		化学工業（管理担当）	・ウクライナ問題や原材料の価格高騰などで、先行きは不透明であり、利益の減少が予想される。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギー問題が注目されているが、石油製品の更なる値上がりが予想される。仮に原材料の価格上昇分を製品価格に転嫁すれば、受注量の減少につながる。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響で、景気の先行きは不安定である。経費のうち高い比率を占める燃料費の高騰が確実な状況であるため、売上は堅調に推移する予想ではあるものの、純利益の減少は避けられない。不安な要素が多く、景気はやや悪くなることが予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・ロシアによるウクライナ侵攻で、経済に更なる減速感が出てくる。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・世界情勢が余りにも良くない状態であり、物価も上昇傾向にあるが、収入面では上昇が見込めない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今後2～3か月のロシアの動き次第で、今年の動向が左右される。とにかく今は、ロシアの冷静な判断が求められる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・コロナ禍とウクライナ問題により、材料価格が上がっているほか、入荷も減少している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・部品の納期が延びる方向にあり、半年先の注文しか受注ができない。
		建設業（経営者）	・4月からのアスベスト規制の強化が、住宅の小規模リフォームにまで及ぶため、コストへの影響を含めた混乱が予想される。
		輸送業（営業担当）	・個人間売買の荷物が増え続けており、その分、企業の新たな製品が売れなくなることが心配される。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・ロシアによるウクライナ侵攻で、今後は国内でも徐々に影響が出てくる。既にガソリン価格は170円台後半まで値上がりしており、物価の上昇が懸念される。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ危機や中国でのロックダウンの影響も懸念されるなど、良い方向には進まない。
		繊維工業（総務担当）	・円安の進行や原油価格の高騰で、原料等の全てのコストが上昇し始めたため、今後の景気は相当悪くなると判断している。
	×	通信業（管理担当）	・ロシアによるウクライナ侵攻で、世界経済の悪化が進むと予想される。
	×	不動産業（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除されても、賃料の値下げが続いている。また、原油価格が上がり、それによって全ての物が値上げとなっている。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・世界情勢が混とんとしている。
雇用 関連 (近畿)		*	*
		人材派遣会社（役員）	・まん延防止等重点措置の解除は景気にプラスであるが、ロシアのウクライナ侵攻と、その経済制裁に伴う資源や穀物相場の上昇、円安の進行はマイナスである。先行きは不透明感が強いが、トータルではプラスと考えている。
		人材派遣会社（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きとともに、回復が進むと予想されるが、ここへきて感染第7波への懸念も払拭されておらず、予断を許さない。
		人材派遣会社（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きや採用の動きも戻ってくる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染も収束に向かう傾向にあるため、景気はやや戻ると期待している企業が多い。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・2023年卒の新卒採用では、学生の根強い大手志向で、早くも選考落ちがみられる。そのため今後も求人広告の動きは活発化すると予想される。2024年卒のインターンシップ募集においても、今年はコロナ禍の採用減の反動で、特に夏のインターンシップに力を入れる企業が増える見込みで、広告掲載も増えそうである。
		学校〔大学〕（就職担当）	・物価上昇による影響が気になるが、株価も上昇しているため、景気も良くなると予想される。
		人材派遣会社（経営者）	・新年度に入っても企業はいろいろな意味で慎重にならざるを得ない。好調な業種は余り見当たらず、良くなると期待していた自動車関連も横ばいとなっている。
		人材派遣会社（営業担当）	・ウクライナ危機の長期化による日本への影響が懸念される。物価が更に上昇した場合も、賃金の上昇は進まない。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、物販や飲食、旅行、観光業などを中心に、消費は上向くとみられる。一方、ロシアによるウクライナ侵攻については、まだ先が見通せない。一旦、株価は侵攻前の水準に戻っているが、原油や穀物などの資源価格の高騰は更に進む可能性があり、先行きの見通しは厳しい。ただし、不確定要素が多いため、今後の景気は上下のどちらにも向かう可能性がある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・まだコロナ禍から脱したとはいえ、新聞広告の推移も前年比で80%程度の見込みとなっている。	
	職業安定所（職員）	・ウクライナ情勢の先行きは不透明であり、原油や原材料価格は高騰が続くことが懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（営業担当）	・引き続き新型コロナウイルス関連の特需に加え、ワクチン接種に関する求人が出てくる。また、通常の派遣求人数も増加が続くことから、現状と大きく変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ウクライナ危機の今後の情勢次第で、ムードが変わることを期待している。
		人材派遣会社（支店長）	・引き続き受注は多いが、スタッフの採用が鍵になりそうである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻がどういった形で終わるのかにもよるが、世界の景気がすぐに以前の水準まで戻ることはない。
		職業安定所（職員）	・まん延防止等重点措置の解除により、今後の明るい動きが期待されるものの、雇用調整助成金の申請件数が2～3月にかけて微増となるなど、雇用調整の動きが懸念される。一方、企業からはウクライナ危機による悪影響を懸念する声が出ているが、現時点では求人動向への直接的な影響はみられない。
		民間職業紹介機関（職員）	・景気の先行き不透明感が強く、仕事の受注見通しは未確定と回答する求人企業も多い。それに伴い、今後も求人数の増加は見込めない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・現在の地政学的な問題が長引けば、今後の景気への影響はますます大きくなる。
	x	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (中国)		乗用車販売店（店長）	・自粛の反動で来客数は増加する。
		バー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着けば景気は回復する。
		観光型ホテル（副支配人）	・今後新型コロナウイルス感染者の状況が落ち着けば、今まで利用できなかった常連客を含め利用が増える。
		テーマパーク（業務担当）	・来客数がこのまま推移すれば景気は良くなる。
		競艇場（企画営業担当）	・5月下旬にSG競争があるので売上が見込める。
		商店街（代表者）	・まん延防止等重点措置が解除されて客足が戻りつつあるので景気は良くなる。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・新型コロナウイルスによる規制がなくなり、気温とともに客の外出の機会が増える。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・もうそろそろコロナ禍が終わりを迎え、アフターコロナの対応についてのコンサルタントも盛んになってきているが、コロナ禍で更に2極化が進んでいる。とにかく経済活動を始める準備をする必要がある。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、ゴールデンウィークや夏休み等で外出機会が増えることに比例して需要が増加する。
		百貨店（売場担当）	・まだまだ予断を許さない状況は続いているが、ゴールデンウィークに向けて国内の人の動きは更に活発化してくる。そうすれば衣料品や雑貨を中心に全体的に売上は復調してくる。
		スーパー（販売担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、行楽シーズンの需要や人が集うイベントの需要が増えてくる。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスの感染が少し落ち着き、今後は広告やイベント等については従来どおりに戻す予定である。希望的観測も含めてではあるが、直近の客の様子を見る限りでは景気の底は脱した感がある。
		コンビニ（支店長）	・Go To Travelキャンペーンの再開で週末の来客数の増加が期待できる。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・物価の上昇といったマイナス要因はあるが、レジャー、スポーツ、仕事など人の動きが活発になるシーズンに入るため、それらに対応した売場づくりを進めていく。
		衣料品専門店（経営者）	・株価が上がってきている。
	家電量販店（店長）	・前年は売上が減少したので、今年はその分改善する。前々年と比べてしまうと全く景気は良くない。	
	家電量販店（販売担当）	・夏商戦に期待ができる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（企画担当）	・まん延防止等重点措置が解除されて来客数が増加しているため、売上と景気も良くなる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・この状態が維持できれば景気は回復する。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減り、次第に外出や観光をするムードになり、それに合わせて広告をするなど広報活動をしていく。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・3回目のワクチン接種で重症化の心配が薄まり、新生活需要も増えることから、客が買物や外出をする機会は増えてくる。暖かくなり、レジャー関係やアミューズメント関係の需要も高まる。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・県民割やGo To Travelキャンペーンが再開されれば景気は上向く。
		一般レストラン（店長）	・月下旬より県外からの客や外食を控えていたサラリーマン層が来店するようになっている。客は我慢の限界の様子なので、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着けば売上が伸びる要素は十分にある。
		観光型ホテル（営業担当）	・隣県割・Go To Travelキャンペーンが再開すれば景気は良くなる。
		都市型ホテル（企画担当）	・県民割、ブロック割、Go To Travelキャンペーンが再開されれば、客の外出需要は高まってくる。
		都市型ホテル（企画担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の状況から、まだ楽観視できないが、このまま新型コロナウイルスオミクロン株の終息とともに、県民割のエリア拡大も予想され、県の観光振興策もスタートするので、一気に需要の回復が期待できる。
		都市型ホテル（総支配人）	・今後の新型コロナウイルスの感染状況によるが、地方版Go To Travelキャンペーンの地域拡大を前提とした先行予約は増加傾向にある。
		旅行代理店（経営者）	・海外への旅行はもう少し我慢が必要であるが、国内需要は回復傾向である。
		旅行代理店（支店長）	・Go To Travelキャンペーンを始め、国の施策と連動して需要回復が見込める。
		タクシー運転手	・3回目のワクチン接種が進み、治療薬が開発され、新型コロナウイルスに対する恐怖感が薄れつつあり、人の動きが活発になる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染が落ち着けば、売上は伸びていく。
		通信会社（経理担当）	・サービスエリアの拡大によって売上は良くなる。
		通信会社（販売企画担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、客の外出機会が増える。
		通信会社（工事担当）	・まん延防止等重点措置が解除され、客の動きが良くなる。
		テーマパーク（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が不透明であるが、繁忙期になり観光客が動き出す。
		観光名所（館長）	・まん延防止等重点措置が解除になり、気候も温暖になってきたことで旅行や外出の機会が増えており、来客数が増加する。
		観光名所（管理担当）	・世論も客の行動も新型コロナウイルスとの共存方向で動き始めているため、今より景気が悪くなることはない。
		ゴルフ場（営業担当）	・先の予約状況が順調に伸びている。
		住宅販売会社（従業員）	・3回目のワクチン接種が進み、年末のにぎわいまで回復すると思われる。
		商店街（理事）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減することは難しく、客も現在の生活に慣れてきており、景気回復にはまだ遠い。
		商店街（代表者）	・商店街に新規出店の動きが見受けられるが、人通りや来客数の増加にはまだつながらず、コロナ禍が終息して自由な交流ができるようになるまでは景気も悪いままである。
		商店街（代表者）	・様々な商品が値上げされ、売上は減少する一方である。
		商店街（代表者）	・空気感が変わらない限り、今の状況は変わらない。
		商店街（代表者）	・客の購買意欲は低いままで、改善の手立てが見つからない。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・新型コロナウイルスの第7波が予想されるが、引き続きオンラインでの受注増加を目指していくため客数に大きな変化はない。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は少なくなっているが、電気代といった固定費やガソリン価格など物価上昇の影響で客の買い控えが発生している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・飲食店と違って当店の来客数が増える要素はない。
		百貨店（経理担当）	・商品の値上げが続き、客の買い控えや低価格志向が進むと景気が回復しない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大で客の生活様式が様変わりし、四季を通じたイベントもなくなり、そのための洋服を購入する機会が増えることはない。
		百貨店（外商担当）	・ワクチン接種が更に進み、新規感染者数の減少が続けば景気回復が見込めるが、また新型コロナウイルスの新たな変異株が発生する可能性もあり楽観視はできない。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの影響は落ち着き始めているが、ロシア紛争など、これからの景況感の不安から客は必需品しか購入しない。物価が上がる不安から客の購買意欲は低下する。
		スーパー（店長）	・近隣商業施設を含め、客の購買単価は上昇するが、来客数の増加は緩やかなままである。
		スーパー（店長）	・客が支出を抑える傾向は続く。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、客の外出頻度が高まっても店の販売量に影響はなく、現状のまま推移する。
		スーパー（業務開発担当）	・食品だけでなく、輸送費、ガス料金、電気料金も値上がりし、総菜など店内加工品も値上げせざるを得ない状況になっており、客の買い控えは続く。
		スーパー（営業システム担当）	・新型コロナウイルスの感染がピークアウトしていれば飲料等の行楽用品の動きは良くなるが、値上げがどこまで影響するか分からない。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしているため、景気回復は難しい。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大や食品などの値上げで景気は悪くなり、呉服に関しては着物を着ていく場が少ないので厳しい状況は続く。
		衣料品専門店（代表）	・新型コロナウイルス発生前のような生活スタイルに戻ることはない。第7波が来れば来客数が激減する。
		家電量販店（店長）	・一部商品や部材の値上げがあり、商品供給は困難な状況になる。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車が発売されるまでは契約をしても登録ができず、なかなか利益が見込めない。
		乗用車販売店（営業担当）	・半導体不足による新車納期の遅れに伴い、客も決断が先延ばしになるケースが多く見受けられる。販売台数も新規来場者数も前年比を大きく下回っている。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルス発生前とは異なり、客は必要なときにしか来場しない。
		乗用車販売店（店長）	・納期の長期化が続き、売上見込みが読みにくい。世界情勢の影響がどの程度か分からないが、整備部門の頑張りで見込みに維持していく。
		乗用車販売店（統括）	・新車の供給が厳しい状況が続く。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・春になり人の気持ちは明るくなるが、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着かないと景気回復は難しい。
		一般レストラン（経営者）	・社会情勢的に外食の自粛は続き、以前の来客数までは回復しない。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染は一時的に減少しているが、再拡大から第7波の予測も出ているなか、景気の先行きはみえない。感染者の年齢が下がっているため、30～40代のファミリー来客数が減少し、4～6月にかけては輸入食材の値上がりが見込まれているため、客の生活防衛意識の高まりから外食頻度が低下する。売上と利益の苦戦は続く。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で外出自粛が日常化しており、不安定な世界情勢もあいまって、景気が回復していくことはない。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されて来客数は戻りつつあるものの、新型コロナウイルスの感染拡大前の2割強の売上にとどまっており、今後の景気回復に期待はできない。
		タクシー運転手	・桜の季節になり客の外出機会は増えるものの、新型コロナウイルスの新規感染者数が横ばい状態なので、客の自粛生活は続き、景気状況に変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・コロナ禍のステイホームといったライフスタイルが定着し、ネット需要は底堅く増えていく。しかし、当社提供のネット接続サービスは他の消費財やし好材とは異なり、単価の上昇傾向はなく、また1人が複数のサービス契約をすることもないので、景気に変化はない。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症対策における消極的な行動と物価高による影響で、景気は現状のまま推移する。
		テーマパーク（管理担当）	・コロナ禍において、感染抑止と経済成長を両立させるとの政府・地方自治体の対策について、十分な実効性があった、または今後景気回復の効果が期待できるとの実感が共はない。
		美容室（経営者）	・人の動きが出てくれば新型コロナウイルスの新規感染者数が増加する可能性があり、景気回復にはまだ時間が掛かる。
		美容室（経営者）	・ウィズコロナに意識が変わりつつあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数は変わらないので、景気回復にはまだ時間が掛かる。
		設計事務所（経営者）	・新年度からの景気政策はなく、しばらく現状は変わらない。
		設計事務所（経営者）	・客の予算幅が狭くなり、多くの受注を確保しにくくなる。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・原油価格の高騰とウクライナ問題で景気が悪くなっている。
		百貨店（営業担当）	・多少の波はあるが、衣料品の売上回復は厳しい。この2年間で客の購買意欲や価値観が大きく変わっている。外出需要はあるので、カジュアルなどを中心としているショップはどのようにか売上を確保しているが、冠婚葬祭需要などはまだ先がみえてこない。
		百貨店（営業企画担当）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響がどこまで尾を引くのかは分からないが、燃料や輸入品の価格高騰により全ての物が値上がり傾向になって消費低迷につながる。その反面、新型コロナウイルスの影響が少なくなりゴールデンウィークには旅行者の動きが活発になる。
		百貨店（販売計画担当）	・ウクライナ情勢、個人所得の低下、新型コロナウイルス感染状況の影響で、来客数が増加することはない。
		スーパー（店長）	・商品の値上げで客は節約傾向になる。ゴールデンウィークは前年より外出機会は増え、内食から外食への流れが加速する。
		スーパー（店長）	・3月から値上げをした商品があり、4月以降も値上げをする商品が多いので、客の生活防衛意識が強く動き、売上は低下する。
		スーパー（店長）	・原油価格の高騰や食品の値上げなど、客の財布のひもは固くなる。
		スーパー（総務担当）	・商品の値上げの影響で売上は前年並みで推移するが、販売数量は減少する。
		スーパー（財務担当）	・3回目のワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、外食機会が増加するため、内食向け商品の売上が減少する。
		コンビニ（エリア担当）	・ウクライナ情勢や4月から予定されている商品の値上げの影響で売上が減少する可能性が高く、厳しい状況は続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況や半導体不足の影響で納期が今以上に掛かり、3月の決算期が終われば販売量はかなり減少する。
		乗用車販売店（業務担当）	・メーカーの大幅減産が決定し売上が立たず、今後も不透明な状況が続く。
		自動車備品販売店（経営者）	・値上げ前の駆け込み需要の反動で、来月からの販売の落ち込みが懸念される。
		住関連専門店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染が終息しつつあるなかで、ウクライナ情勢の影響による原材料の値上げや円安による輸入コストの上昇で、客が購買に慎重になる。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないと、景気回復の楽観的な判断はできない。
		設計事務所（経営者）	・ガソリン価格の高騰が続いており、今後は建材価格に影響が出ると懸念される。木材等の材料も相変わらず不足気味で、住宅の着工遅れやコスト上昇にもつながっており、見通しが悪い。
		住宅販売会社（営業担当）	・まん延防止等重点措置の解除により、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	コンビニ（エリア担当）	・燃料や原材料の価格高騰が続き、景気は悪くなる。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・4月以降の物価の値上げで、客の買い控えが発生する。
	×	通信会社（広報担当）	・社会情勢が悪いため、景気回復の糸口はない。
	×	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大前の生活を取り戻さない限り、客の購買意欲は上昇せず、景気は良くならない。
	×	住宅販売会社（営業所長）	・物品の値上げに伴い、住宅の資材高騰が顕著になっている。消費税増税並み、それ以上の影響がありそうな状況である。金利上昇機運も高まり、マイナス要素が多い。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・多忙な生産状況が続く。
		輸送業	・取引先からの発注数量が増加する。
		繊維工業（財務担当）	・新入学・入社シーズンとなり、人の移動が活発になるため、様々な消費活動が行われる。
		化学工業（総務担当）	・新型コロナウイルスやウクライナ問題といった懸念材料はあるが、景気は少しずつ好転していく。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・原材料価格の高騰や調達状況は不透明ではあるものの、プリント基板製造装置の受注は引き続き増加しているため増収の見通しである。
		輸送業（総務・人事担当）	・今後数か月で新型コロナウイルスにより抑制された需要が回復する可能性がある。
		農林水産業（従業員）	・コロナ禍に慣れてしまい、飲食店の客離れがある模様で、そこまでの景気回復は見込めない。
		食料品製造業（総務担当）	・ウクライナ情勢の今後の動向は全く予想がつかない。
		化学工業（総務担当）	・原燃料価格の高騰が収益を圧迫する。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・大型案件の生産が継続し、通常の生産品も現在の生産水準が継続する見込みで、現在の多忙感は当面継続する。
		鉄鋼業（総務担当）	・受注は引き続き好調を維持する。
		鉄鋼業（総務担当）	・半導体不足等が継続する。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・新型コロナウイルス感染状況は先行きが不透明で、ウクライナ情勢も景気回復への影響が懸念される。
		建設業（総務担当）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢など、地政学的リスクの影響で資材不足や価格転嫁がこの先1年は続きそうである。
		通信業（営業企画担当）	・客の計画的な需要が見込まれることや、東日本で発生した大きな地震などの影響もあり、災害時の事業継続計画や復旧の手段や計画のため、デジタルトランスフォーメーションのニーズが西日本で増えると見込まれる。またウクライナ情勢の悪化で、ネットワーク機器のセキュリティ強化など、新たなニーズが更に増えてくると考えられる。
		金融業（融資企画担当）	・当面、半導体不足などのマイナス材料が継続し、地元完成車メーカーの国内生産はフル操業の8割程度が続く。このため、系列の部品メーカーの受注も現状の低調状態が継続する。
		金融業（貸付担当）	・新型コロナウイルス第6波の収束スピードが鈍くりバウンドの懸念があること、また、原油価格の高止まりも予想されることから、取引先の収益改善には時間を要する。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が継続しており、動きが悪く受注量も増えない状況で進行する。
		食料品製造業（経営者）	・ウクライナ情勢の影響で物価が上昇し、値上げをしないと追い付かない状況となっている。客は生活防衛で消費意欲が低下しており、このままでは企業存続を考える必要が出てくる。
	木材木製品製造業（経理担当）	・ロシアのウクライナ侵攻が長期化すれば、今後の景気は悪くなる。新型コロナウイルス感染者数は下げ止まりとなり、一部景気回復の兆候もあったものの不確定要素が多く、総合的には将来の景気は今以上に悪くなる。	
	非鉄金属製造業（業務担当）	・半導体不足による一部製品の受注減少や原油高による電力料金等の値上げが収益を圧迫してくる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（総務担当）	・受注量は増加傾向にあるものの、コロナ禍で人員を減らしてきたため、工数が不足している。そのため、納期遅れが発生し、受注増加がそのまま収益に直結してこない。また、鉄原材料価格は過去にないほど高騰している。ロシア産の材料が入ってこないため需給が更にひっ迫し、価格が上がる可能性も否定できない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・コロナ禍の悪影響は、東南アジア関係国だけでなく、中国からの部品調達にも広がり、新年度も急な操業停止のスタートとなることとなり、先行きは全く不透明の状況である。
		建設業（経営者）	・民間建築工事において、価格競争が激しくなっているにもかかわらず、材料代が高騰している。
		輸送業（業務推進担当）	・燃油費高騰やロシアのウクライナ侵攻により自動車業界などは下方修正が止まらない。
		不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の需要が落ち着くため、景気はやや悪くなる。
		会計事務所（経営者）	・客の収益力が低下すると懸念している。ウクライナ問題、原油高、地震、車の納車遅れ等マイナス材料が多く、客は将来投資に消極的になる。
		コピーサービス業（管理担当）	・年度末の特需が終わると例年どおり売上は悪くなる。また新年度になり業務が落ち着いた頃には、各社が電子帳簿保存法の対応で更にペーパーレス化が進む。
	x	*	*
雇用 関連 (中国)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発出されず、人流が活発になれば景気は良くなる。円安傾向が影を落とす可能性もあるが、それよりも上振れが大きい。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	・新型コロナウイルスをきっかけとする環境変化が徐々にニューノーマルとして定着することで、求人だけでなく求職者心理にも変化が出てくる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ウクライナ情勢次第ではあるが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、周辺企業の様子から経済活動は確実に活発化する。
		職業安定所（所長）	・特に自動車関連事業所では繁忙状態が続いており、新型コロナウイルスの影響は少なく、募集活動も活発になっている。
		民間職業紹介機関（職員）	・ウクライナ情勢、円安、値上げなどのマイナス要因は多いものの、人が自由に移動できる、時間を気にせずに飲食ができるという生活が、国内旅行などへの需要につながる。開幕したプロ野球に関連する消費も伸びる。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、求人者からの発注が徐々に増えてきているため、景気が回復傾向に進む見込みがある。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・企業から新卒求人に関する訪問アポイント数が増えてきており、景気が上向き傾向にある。
		その他雇用の動向を把握できる者	・身近な商品価格の高騰は継続し、客は買い控えをするため景気が上がる要素は少ない。しかし、まん延防止等重点措置が全国的に解除されたことによる経済効果が期待できる。
		職業安定所（雇用関連担当）	・求人数は増加しているが、未充足求人も多く、人手不足が解消できていない。ウクライナ侵攻が地方に及ぼす影響が見通せない。
		職業安定所（事業所担当）	・まん延防止等重点措置が解除されたことに伴い、今後、新規求人数は増加していくと推測しているが、製造業や運輸業の企業からは、新型コロナウイルス感染症の影響よりも、原油や小麦等の原材料価格の高騰が業況に与える影響を心配する声がある。今後の景気の判断は原油、原材料価格の高騰やウクライナ情勢に注視していく必要がある。
		人材派遣会社（副支店長）	・燃油価格の高騰が見込まれる。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・ウクライナとロシアの戦争が長引いて原油価格の高騰が続けば、物価が上昇して消費は冷え込む。持ち直しつつある雇用への影響も懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)		百貨店（販売促進）	・新型コロナウイルスの感染状況の改善が予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスは徐々に収束に向かっている。ワクチン接種も進捗し景気は良くなる。
		旅行代理店（営業担当）	・県民割が実施される方針であり、客の旅行に対する意識が一気に高まる。
		通信会社（営業部長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少していないが、新年度を迎えるに当たり、客に購買を控える雰囲気はない。
		商店街（事務局長）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染者数が減らないなか、多くの人はウィズコロナの生活環境を受入れつつあり、消費者心理も徐々に改善へと向かう。
		商店街（代表者）	・リニューアルオープンにより、集客力のあるテナントが入り人出は多くなっている。新型コロナウイルス次第ということもあるが、春先のイベントなどは多くの人出が見込まれる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・ワクチンの3回目接種が終わった客から、今まで自粛していたお祝い事や法事などで使用する商品の予約が入ってきている。
		コンビニ（店長）	・客はこれ以上自粛は続けられないと感じている。4月からの値上げの影響にもよるが景気は良くなっていく。
		コンビニ（商品担当）	・新型コロナウイルスに関し、ワクチン接種により人流が増えたと考えられるが、ウクライナ情勢によるエネルギー不足などで家計のひっ迫が予想される。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束し景気も上向く。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・新型コロナウイルス感染症の収束状況次第ではあるが、4月から県民割が再開され、今までの非常に厳しい状況から、少し脱却できると期待している。
		一般レストラン（経営者）	・コロナ禍の落ち着き、慣れ、気の緩み、暖かな気候、新年度のスタートなど、飲食する機会が増えると予想する。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、客足が戻ると予想する。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の状況によっては、大きく変化すると予想する。
		タクシー運転手	・遍路客の予約が少しずつ増加している。このままコロナ禍が収束方向に向かえば、夜の街にも徐々に人が戻ってくる。現状よりは多少良くなると予想する。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症も多少落ち着き来客数も回復傾向。
		観光遊園地（職員）	・まん延防止等重点措置解除に伴い、ゴールデンウィーク期間中の多くの人出が期待できる。
		競輪競馬（マネージャー）	・ワクチンの3回目接種も進み、まん延防止等重点措置も解除され、新型コロナウイルスとの共存気運が浸透していることから、人流もこれから行楽シーズンに入り活発化し、景気は上向くと予想される。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の治療薬及び待機期間の縮小など状況は改善されてはいるが、感染再拡大等の不安要素もあり不透明。ウクライナ情勢等により原油高が継続し、様々な物価も上昇傾向にあり消費が冷え込んでいく気配がある。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除となり人出は戻っているが即好転にはならない。今後に期待したいが、状況を見極める必要がある。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・食料品や光熱費の値上げの影響により消費者の節約志向が根付いており、まだまだ財布のひもは固い。	
	百貨店（企画担当）	・今後の感染状況次第である。新型コロナウイルスからの回復が認められた場合には、景気は若干だが上向く。	
	スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が大きく動かない限り消費の状況は変わらない。	
	コンビニ（総務）	・景況感が変わるような要因が見当たらない。	
	衣料品専門店（経営者）	・売上は好調で推移し、また賃上げする気配もあることから、景気は上向くと期待する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（営業責任者）	・まん延防止等重点措置が長引き、春の重要な商戦が大きく損なわれたことから、半期の見通しは急激に悪化。客の動きが悪く回復には時間が掛かる。
		家電量販店（副店長）	・新型コロナウイルスの感染を気にしない人が多くなってきているが、来客数は前年度と比べ縮小傾向で推移しており回復はまだ見込めない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢などにより、業界へ悪影響が及んでいる。
		観光型旅館（経営者）	・ウクライナ問題と世界のコロナ禍からの回復による原材料高が景気の足を引っ張り団体需要などは盛り上がらない。個人の旅行需要だけでは旅行業界は回復できない。Go To Travelキャンペーンの利用も一回りすると減速すると思う。
		タクシー運転手	・例年、5月6月は新入社員の入社及び人事異動などによる慌ただしさが落ち着いてくるが、コロナ禍以降そういった動きもなく状況は変化しない。
		美容室（経営者）	・身近なところで新型コロナウイルス新規感染者数が増加しているが、その状況に慣れを感じている。
		設計事務所（所長）	・建築費については原材料や設備関係が更に高騰しているが、コロナ禍においても経済活動や設備投資が活発化している。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染が一旦収束し、巣籠り消費の恩恵が縮小するとともに、相次ぐ食品の値上げで消費者の買い控えを予想する。
		スーパー（店長）	・度重なる値上げにより消費低迷すると予想する。
		スーパー（財務担当）	・まん延防止等重点措置の解除により、再び外食産業に人が流れると予想する。
		家電量販店（店員）	・度重なる値上げにより必需品の購買傾向が強まる。
		乗用車販売業（営業担当）	・例年、売上は決算月が終わると落ち込むため、厳しくなると予測する。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況及びウクライナ情勢等により、今後どの様に変化するか予想が付かない。
		乗用車販売店（役員）	・物価上昇の賃金への反映や生産の回復などの見極めが難しい。
		通信会社（支店長）	・物価高の影響が消費行動にも影響する。
	×	スーパー（人事）	・新型コロナウイルスが収束するとは思えず、マイナスな材料ばかりが目立っている。
	×	コンビニ（店長）	・電力、燃料費等が高騰しているなか、運営コスト及び製品価格も上昇しており、ますます生活防衛に動き、購買意欲の減退は避けられない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・ウクライナ情勢により様々な物価が上昇し始めており当面悪化する。
企業 動向 関連 (四国)		*	*
		食料品製造業（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除に伴い、徐々に外食、観光業の回復が予想される。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・新型コロナウイルスの影響でウェットクリーナーの需要は高いが、供給量が多いため売上が伸びない。今後製造する商品の売上が上がれば景気が上向くと予想する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・資源や部品が入手困難になっているが、代替品が開発されることより、徐々に供給量も回復すると見込んでおり、景気もやや上向いてくると予想する。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況をうまく受け入れている。マスクに踊らされていない。
		通信業（総務担当）	・まん延防止等重点措置の終了を見越し、社外のイベント実施も予定され、景気は改善傾向になると予想している。
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が改善され、旅行関係の客先の販促回復や採用関係の受注見込みが予定されており、やや良くなると予想をしている。
		農林水産業（職員）	・消費者は日配品の値上げ、燃料価格の高止まり等、財布のひもは固くなる。一方で青果物は消費の調整役としての位置づけが定着しており、新型コロナウイルス発生前に戻る兆しがないなかでは、厳しい販売状況が続く。
		木材木製品製造業（営業部長）	・大手ハウスメーカーの受注が伸びない。材料費の高騰で利益が出ない状態になっており、値上げを行い、利益を確保していくことが急務な状態。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経理）	・新型コロナウイルス第6波のピークは超えたものの感染者率は高止まりしており、さらにはロシアによるウクライナ侵攻に伴う金融経済への影響が出てきており、引き続き不安定な状況。
		建設業（経営者）	・コロナ禍、物価、ウクライナ、エネルギー問題などが精神的なマイナス効果となる。受注・売上額については、予算規模から例年並みが想定できる。景況感の大きな変動は想定しておらず、世相等のマイナス要素が払拭できないため、変わらないと予測する。
		建設業（経営者）	・景気が上向くことを期待するが、ガソリンを始め、様々なものが値上がりしていることが心配である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・景気回復期であるが、ウクライナ問題を始め点在する地政学的リスクに加え、世界的な半導体不足による調達環境の悪化、原材料価格の高騰、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大の懸念等、依然として先行き不透明な状況。
		輸送業（営業）	・新型コロナウイルスにおける3回目のワクチン接種や内服治療薬の普及が進み、低迷している消費が上昇に転じ景気回復につながることで取扱物量についても増加すると推察されるが、燃料油価格が低下しない限り、依然として厳しい経営を強いられる状態が続くと予想している。物流業界はいまだ楽観視できない状況であり、景気の先行き予測は極めて厳しい。
		輸送業（経理）	・国内向けの出荷予定数量は微減、海外向けの出荷予定数量も横ばいか減少の見込み。
		通信業（企画・売上管理）	・まん延防止等重点措置は解除されたが、依然として新規感染者数が高止まりしているとともに、ウクライナ情勢によるネガティブな貿易や株価の影響も懸念される。
		化学工業（所長）	・今後もますます原油価格の高騰は歯止めが掛からない。原油価格の高騰が、ナフサの高騰、原料価格の高騰を招いており、余りにも急激な価格上昇により製品単価への転嫁が遅れる。
		鉄鋼業（総務部長）	・稼働人員の減少とウクライナ情勢が主原料のスクラップ価格の高騰の原因となり、収益を圧迫している。
	税理士事務所	・国際情勢や円安が問題となり物価が上昇し購買意欲が減退する。	
雇用 関連 (四国)		-	-
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの収束を見越し、求人数が増加する。
		人材派遣会社（営業）	・新年度に向けて進学、転勤などにより、物も人も新陳代謝が進み、景気も少しずつ回復傾向にある。
		職業安定所（求人開発）	・新規求人数が前年同月と比較して増加傾向にある。宿泊、飲食、サービス業も増加している。原油価格の上昇とそれに伴う販売価格の上昇が気になるが、今後景気は上向くと予想する。
		民間職業紹介機関（所長）	・まん延防止等重点措置も解除され、最も打撃を受けていた「飲食」「宿泊」「観光」業界の復調が予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・まん延防止等重点措置の解除及び3回目のワクチン接種の加速により景気は回復に転じると予想する。
		-	-
		求人情報誌（営業）	・中小企業では、人手不足に加え、原材料・燃料代の高騰を商品・サービス価格に転嫁できていない企業が多い。今後もこのままの状況が続くと予想されることから、景気は悪化の見込み。
	求人情報誌制作会社（従業員）	・異動時期が落ち着き求人数の若干の減少が予想される。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス及びウクライナ情勢など、いずれの問題も収束して明るい兆しが欲しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	人材派遣会社（営業担当）	・原油価格の高騰、物流コストの上昇に対し、人件費で経費削減する企業が増える可能性があり、景気の更なる悪化を警戒する。

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		一般レストラン（スタッフ）	・新しい生活様式にも慣れ、今までの我慢の反動により、これから消費が増大する。
		観光型ホテル（総務）	・新年度の宿泊、宴会、レストランの予約状況から、5月以降の回復傾向がはっきりみえる。学校や福祉施設での感染が多発しており、新規感染者数は微減ではあるが、3回目の新型コロナウイルスのワクチン接種が徐々に進んでいることも好要因である。
		観光型ホテル（専務）	・新型コロナウイルス治療薬の発表があり、これから平常の状態に戻ることを期待している。
		商店街（代表者）	・人の動きは、新型コロナウイルスの感染に気を付けながら、活発になっていくと予想されるが、売上に繋がる材料は少ない。これから、気候が良くなるため期待をしている。
		商店街（代表者）	・売上の低下や来客数の減少がやや改善している。
		商店街（代表者）	・年度が替わるため、若干売上の上昇は見込めるが、前年と比較すると減少傾向になる。まん延防止等重点措置は解除されているが、新型コロナウイルスの新規感染者数は緩やかな減少であり、まだ外出を控えている人が多い。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの対策が見えつつあり、経済にとって明るい兆しである。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・野菜の動きに変化はないが、県産物である果物の売上は、右肩上がりが増えていくと予想されるため、前年の実績を踏まえ、期待をしたい。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・コロナ禍による行動制限が少しずつ軽減される。
		一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	・円安進行に歯止めが掛からなければ、輸入食材の値上がりがますます進む。また、ウクライナ情勢が流動的であり、一定の需要の増加は見込める。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大も一定水準で推移すると予想されるが、旅行需要を含めて回復していくことを期待する。生産コストの上昇によるインフレや、ウクライナ情勢等の懸念もあるが、景気は段階的に改善すると見込んでいる。
		百貨店（販売促進担当）	・政府の規制も緩和されつつあり、来客数が増加傾向にあるため、景気はやや良くなる。
		百貨店（経営企画担当）	・2月はまん延防止等重点措置により来客数が減少し、売上は下降したが、3月に入りまん延防止等重点措置が解除され、来客数や売上の回復がみられる。しかし、第7波の報道が出始めており、今後も予断を許さない状況である。
		スーパー（店長）	・ウクライナ情勢と新型コロナウイルス感染症の終息次第で景気は良くなる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は下降傾向であり、スポーツ観戦やイベントも通常どおり開催されている。人の活動は少しずつ活発になっていく。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス感染症の終息次第である。
	家電量販店（店員）	・来客数や購入者は、新型コロナウイルス発生前と変わらなくなっている。単価も高額商品を選ぶ客が増加し、食事や旅行に向いていた消費が、耐久消費財の需要に回っている。このまま順調に上昇していくことを期待している。	
	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・半導体関連企業が、一部の街に集約されるため、周りの状況はにぎわいを取り戻しつつある。このため、今後新規の客が増加傾向にあり、売上増加につながっていく。	
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・劇的な改善はみられないが、新型コロナウイルスについては明るい話題も多く、また、マスク生活にも慣れ、大きな第7波が来ない限り、少しずつ景気も回復していく。一方で、各種の物価高騰については、消費者心理にも悪影響を与えることが心配である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、来月から当面は来客数は回復していく。
		高級レストラン（経営者）	・マスク着用ではあるが、講演会や地域の集会等、様々な会合が始まっている。今後は、人の移動や歓送迎会が徐々に増え、景気が上がることに期待している。
		一般レストラン（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除により、人出は回復傾向にあるため、地方自治体や国による補助事業の実施次第では、景気回復が見込める。
		観光旅館組合（職員）	・新型コロナウイルス次第ではあるが、ワクチン接種や薬の開発等が進めば、新規感染者数もある程度減少すると考えられるため、期待している。
		旅行代理店（職員）	・Go To Travelキャンペーンの再開による旅行需要の増加に期待している。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置が解除されてからは、人の動向や景気は戻りつつあるが、懸念材料は多い。
		通信会社（企画担当）	・既存客の予算感や見込み客の引き合いは、数や内容的にも積極的に受注・見込みがあり、今までより落ち込んでいない。
		通信会社（営業担当）	・新しい生活様式が現状以上に浸透してくる。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・客先の受注状況では、2～3か月先は繁忙であり、今月より景気は良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が続けば、今後のイベント等の来場者数に期待が持て、景気も良くなっていく。
		商店街（代表者）	・例年3～4月は売上が上がる時期だが、ここ2年は新型コロナウイルスの影響で、厳しい状況が続いている。今年も同様の状況であり、商店街へ多くの客が来街し、景気が上向く状況はほぼない。
		商店街（代表者）	・まん延防止等重点措置が解除され、人の動きが増えてくるとやや景気は良くなっていくが、基本的には変わらない。
		商店街（代表者）	・飲食店や生鮮食料品では新型コロナウイルス発生前の活気が戻りつつあるが、物販店では販売数も販売単価も厳しい状況が続いている。特に年配層向けの店舗では回復が遅い。
		商店街（代表者）	・ウクライナ情勢と新型コロナウイルスの感染状況から、この悪い状態がいつまで継続されるのか不安である。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・漁師によると、魚がおらず、不漁である。これでは商売にならず、考え方を変えなければ生き残れない。
		百貨店（総務担当）	・今後のプラス要因が見当たらない。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株の発生や、それに対する政府の対応、ウクライナ情勢の影響等、不透明な要素が多い。
		百貨店（経理担当）	・春休みになりやや売上也回復傾向がみられるが、客の購買意欲が依然として感じられない。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大報道で、店舗への来店回復が遅れるが、県下のサテライトショップやギフトショップ、通信販売、ネット受注は堅調と予想される。新社会人や新学期等人の移動で来客数の増加は見込めるが、感染の抑え込みができず急回復は難しい。店頭では自家需要やし好性の高い舶来雑貨・和洋酒・時計・リビング用品等は引き続き堅調で、購買客単価、商品単価も好調に推移している。新型コロナウイルスの感染抑制までは、来客数や購買客数の回復は難しい。
		百貨店（業務担当）	・コロナ禍での生活も3年目となり、消費低下したところで生活ベースが落ち着いており、先行きに対する不安はなくなる。しかし、Go To Travelキャンペーン等の施策が再開されれば、経済改善の兆しはある。
		コンビニ（経営者）	・商品の値上げに加え、ウクライナ情勢も消費動向に影響を与える。早期の回復は期待できない。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大とエネルギーを含めた物価上昇が悪い要因だが、経済活動の再開ムードや日常生活への回帰志向も来店傾向としてみられるため、景気が良くなる動きと相殺し、横ばいの景気動向が見込まれる。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が変わらず、売上也変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（取締役）	・4月以降、多くの商品が値上げし、外出が極端に増加することもないと考えられ、ここ2年の自粛生活から今後の行動を読むことができない。衣料品に対してどこまで需要があるか先行き不透明である。
		家電量販店（店長）	・世界的な半導体不足の影響で一部家電の品薄状態が続いており、売上にも影響が出ている。しばらくは現状が続く。
		家電量販店（店員）	・売上は前年を超えてきており、この状態が続いていく。
		乗用車販売店（代表）	・景気が良くなる好材料がない。
		住関連専門店（経営者）	・3回目のワクチン接種が進み、規制緩和も進んでいるが、ウクライナ情勢や材料の価格高騰により、大きな値上げが始まっている。そのため、消費者の買物が慎重になり、景気は低迷する。
		住関連専門店（従業員）	・高額の冬物商材の需要が落ち着く一方、催事等を計画しているため、横ばいに推移する。
		高級レストラン（経営者）	・深刻な状態が続く。新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、新しい生活様式に慣れて人が外出するようになり、来店が増加することを期待している。
		タクシー運転手	・月末になり、新型コロナウイルスの感染再拡大があり、先行きが不透明である。また、ウクライナ情勢により物価の上昇が予想され、不安要素が多い。
		タクシー運転手	・まだタクシーを利用する客が、昼夜問わず少ない。
		通信会社（統括者）	・来客数を増やすために、スマートフォン教室等への参加の案内をしているが、苦戦している。店舗外でのイベント等を開催し、客を取り込もうとしているが、来客数は減少傾向であり、店舗外でのイベントを工夫することによって、客との接点を増強させ、販売につなげていく。
		通信会社（業務担当）	・新型コロナウイルスとの共存が定着しつつあるが、まだまだ新規感染者数によって景気が左右する。感染症対策をしながら経済を回すという意識が定着するには時間が掛かる。
		観光名所（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大により、状況の見通しが立たない。
		美容室（経営者）	・4～6月の景気は、今と変わらないのではないかと予想している。業界的には、通常3月が卒業や入学の時期になり動きが良いが、今年は売上が悪いため、今後、徐々に回復することを期待している。
		理容室（経営者）	・当県は中高年が多く、来店を控えたり来店頻度の低下があり、全体的な来客数が減少している。建設業では5月まで仕事があるが、サービス業界は非常に厳しい状態が続いている。
		美容室（店長）	・旅行を我慢している人が多く、景気が良くなるには半年掛かる。
		学習塾（従業員）	・今より良くなるとは考えられない。
		設計事務所（所長）	・3か月先の結果は、今のやや良くない状態が継続する。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数はやや減少しており、街には以前より人出が増え、景気は少し回復する。しかし、ウクライナ情勢の影響で商品の価格が上昇すると、消費は減少し、一段と厳しい経済状況になる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・卒業式や退任、離任等がある3月の受注件数は増加してくる。しかし、2～3か月先は母の日があるため、景気は悪くはないが、3月と比べると売上は減少する。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数は下がってきたが、今度はガソリン価格の高騰により、来月からほとんどの食品が値上がりになる。現状でも売上は伸び悩んでいるが、更に減少する。
		百貨店（企画担当）	・時期的にイベントが少なく、在庫一掃値引き前の買い控えを予想している。
		スーパー（店長）	・原油価格の高騰が及ぼす影響が5月以降に深刻化してくる。物価高騰による消費者の生活防衛意識の高まりから、消費支出金額が減少すると判断している。
		スーパー（総務担当）	・食品値上げの影響は、消費減退をもたらす。
		スーパー（企画担当）	・物価の急激な上昇が、収入の増加に追い付いていない。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルス発生前の状態には戻らないとしても、一定の外食需要が増えていき、スーパーマーケットでの消費は減少傾向になる。
		スーパー（統括者）	・ウクライナ情勢の影響もあり、単価の上昇が余儀なくされており、ディスカウントストア等への買い回りや買い控えが増加することから売上の減少を懸念している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・コンビニエンスストアにも値上げの波が押し寄せしており、客の購買行動はディスカウントストアに流れる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・第6波の新規感染者数が減少しないうちに第7波が発生すると予測しており、客の動きが若干昼から夜にかけて鈍っていく。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢が落ち着かなければ、景気は良い方向には向かない。原材料費の高騰もあり、製品価格も上昇していくことが消費に影響を与える。
		家電量販店（従業員）	・新生活に向けて、家電の需要が増えている。
		乗用車販売店（従業員）	・ウクライナ情勢により、下取り価格が下落し、販売量が減ることが予想される。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が、増加傾向にある。
		通信会社（企画担当）	・販売量は好調であるが、原因は不明であり、先行きは不透明である。
		ゴルフ場（従業員）	・物価上昇が続けば、少しずつ来場者の消費マインドにも影響が出て、売上減少の要因になる可能性がある。経費面でも電気やガス、石油製品、食料品等の価格上昇により厳しさが増す。
		ゴルフ場（営業）	・ロシアのウクライナへの軍事侵攻が終わらない限り、世界経済が不安定であり、化石燃料の価格上昇による経済の停滞が続く。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・来客数やサービス提供量は戻りつつあるが、2月末から発生したウクライナ情勢により、ガソリンや食品の値段が高騰しており、今後、様々な方面からの値上げ要請が発生する可能性がある。
		設計事務所（代表）	・物価の上昇が続いていく。
	×	コンビニ（経営者）	・ウクライナ情勢と新型コロナウイルスの影響に加え、商品価格の高騰もあり、客足は伸び悩んでおり、厳しい状態が続いていく。
	×	家電量販店（従業員）	・食品等の値上げやガソリン価格の高騰により景気は悪くなる。4月以降は取り扱っている商品の多くが値上げとなるため、景気が上がる材料が見当たらない。
	×	スナック（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数は少しずつ減少しているが、まだ油断ができない状況である。ウクライナ情勢による経済的影響への不安から、中高年層の動きが悪い。夜に出歩いているのは20代の若年層である。まん延防止等重点措置が解除された解放感で出歩く人は見受けられない。また、4月から食品類や酒類の値上げが相次ぎ、景気が良くなる要素が全く見当たらない。
	×	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新型コロナウイルスの感染状況に加え、ウクライナ情勢の悪影響もあり、物価は上昇している。
	×	通信会社（店員）	・オンラインでの販売や手続が増え、客との接点が減少している。
	×	競馬場（職員）	・ガソリン等の物価が急速に上昇している。
	×	美容室（経営者）	・6月は、ゴールデンウィークが終わり、梅雨に入り、再度新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していくと予想され状況は悪くなる。商売が成り立たず、死活問題である。国の対策を期待している。
	×	設計事務所（所長）	・建築における素材や製品等の材料単価が4月から3～4割上がる事が決定しており、更に生活必需品やエネルギーの単価も上昇しているため、見通しは明るくない。海外の状況も楽観視できず、不安がある。
	×	住宅販売会社（従業員）	・原油やガソリン等の燃料の値上げやウクライナ情勢の影響で、食品類の値上げがある。生活が苦しくなっており、他の消費に回らない可能性があり、景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (九州)		電気機械器具製造業（経営者）	・更なる増産の見込みがある。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・新型コロナウイルス次第ではあるが、恐らく収束していくのではないかと考えている。ウクライナ情勢は危惧しているが、今までの売上の減少を取り返す程度の景気の回復を期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		農林水産業（経営者）	・3～4月は例年需要が多い時期であり、新型コロナウイルスの新規感染者数次第ではあるが、5～6月も売上に期待ができる。今まで人手不足だった工場や運輸業では、外国人労働者の入国や国内労働者の確保次第で生産力が大きく変わってくる。賃上げも積極的に実施し、可能な限り人手不足を解消していく。
		農林水産業（従業者）	・今後、飲食店の開店が増えるにつれ、需要と供給の均衡が取れるようになる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今後1～2か月の間に取引先は落ち着き、半導体の動きも良くなっているため、2～3か月先は現況より景気は上昇する。
		電気機械器具製造業（取締役）	・ウクライナ情勢や北朝鮮ミサイル問題等の不安定要因はあるものの、景気は少し良くなる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連客の予測では、来期も受注量は増産傾向にある。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・このまま少しずつ景気が良くなる予想をしているが、ウクライナ情勢や新型コロナウイルスの感染状況による不確定要素がかなりあるため、慎重に見極めていく。
		金融業（営業）	・3か月先は、更に新型コロナウイルスの感染が落ち着いている。しかし、第7波も来ると予想され、一進一退である。
		不動産業（従業者）	・賃貸オフィスの入居率が高く推移している。
		広告代理店（役員）	・自治体からの業務発注が増加傾向にある。
		経営コンサルタント（社員）	・夜の外出が増えることで売上は戻りつつある。
		食料品製造業（経営者）	・原料不足で、商品在庫の不足が続く。
		家具製造業（従業者）	・新型コロナウイルスの感染拡大に加え、世界情勢の著しい変化もあり、材料費や輸送費の高騰は避けられない。受注件数は上向き傾向になっても、十分な利益確保にはつながらない。
		化学工業（総務担当）	・燃料価格高騰の影響は不透明であるが、現時点での業績等は本年度並で推移する。
		一般機械器具製造業（経営者）	・半導体製造装置関連機械加工は、今後も客の発注状況に変わりはしない。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・半導体不足の影響により、生産計画数は低い水準で推移しており、更に減産の可能性もある。
		輸送業（従業者）	・ウクライナ情勢が落ち着かない限りは、回復は難しい。
		通信業（経理担当）	・新型コロナウイルスの一時的な山場は超えたが、ウクライナ情勢を含めて先行きが不透明である。
		金融業（営業担当）	・ロシアのウクライナへの軍事侵攻の終息次第であるが、物価高や円安、また、物と金の流通が滞っている状態であり、緩和されるまでには時間が掛かる。中小企業も含め、全業種で悪い状況は変わらず、仕入先からは値上げ交渉があり、販売先には値上げの交渉をするような状況がみられる。
		金融業（調査担当）	・3回目のワクチン接種が進む一方で、新型コロナウイルスの新規感染者数は下げ止まっており、収束がみえない状況である。新年度や祝祭日で人の動きが活発化する4～5月の感染再拡大を懸念する声もあり、景気はしばらく現状程度での推移を見込んでいる。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・景気が良くなる好材料が見当たらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先の業況や人材投資に大きな変化がない。
		経営コンサルタント（社員）	・最近の沈滞した雰囲気は急速に変わるとは思えないが、今までどおり活動は継続していく。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・国際情勢の変動により、物価の上昇や納期遅延が発生し、景気は上向きにならない。引き続き、景気に大幅な変動はない。
		繊維工業（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いても、ウクライナ情勢の影響で、景気回復はまだないと予想している。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・取引先の例年の発注状況から判断して、受注量は減少する。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今月が余り良い状態でないため、4～5月の売上は減少するのではないかと心配している。Web関係やふるさと納税は、上向きような状態ではなく、原材料や人件費、ガス等の高騰は、今後の業績に響いてくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（事業統括）	・ウクライナ情勢次第で、エネルギーの価格高騰による影響が出てくる。新規案件は、客の状況判断次第である。
		建設業（従業員）	・資材の高騰や入荷等により設備投資を控えたり、工期の延長が懸念され、景気が冷え込む。
		輸送業（従業員）	・受注販売は好調だが、資材や原料等の原価高騰が発生している。高騰幅がみえない部分もあり、全てを売価に反映できない。売上は増加するが、利益は減少となる見込みである。
		輸送業（総務担当）	・原油の価格高騰や4月からの穀物類の物価上昇等の生活必需品の値上がりで、消費意欲の低下が懸念される。また、ウクライナ情勢が心理面で悪影響を与え、加えて福島県沖地震による震災の被害もあり、景気が良くなる材料が見当たらない。
		通信業（職員）	・来年度の官庁が施主である営業案件数と受注予想額が伸びていない。新型コロナウイルスとウクライナ情勢の影響で機器の納期が遅延しており、工期遅延による価格上昇を懸念している。
		金融業（従業員）	・公共投資が高水準で推移しており、住宅投資も持ち直しの動きがみられる。しかし、ウクライナ情勢が緊迫し、原材料費や食料品の値上がりもあるため、消費者心理は落ち込みが出ている。
		金融業（調査担当）	・世界的にも新規感染者数は多く、経済活動抑制の動きに終わりがみえない。また、経済成長が期待できず、原油価格が上昇し、為替は円安である。そのため、地場事業者にとっては生産費用の負担の増加や、消費の落ち込みによる収益力の低下が懸念される。
		広告代理店（従業員）	・まん延防止等重点措置が解除され受注増加を期待していたが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻の影響により、エネルギー価格やその他物価の上昇があり、今後も厳しい状況が続く。
	×	建設業（社員）	・コロナ禍であるため、官公庁の予算も公共工事は後回しになっている。ゴールデンウィーク後までには発注があると予想されるため、それまでは雑工事や常用工事をつなげるが、早期の発注を期待している。
	×	其他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・3月の発注状況から市町村の調査や計画、設計の受注量が減少することが予想され、4月からの当初予算に計上が予定されていた業務については、発注の中止等の連絡もあり、景気が悪くなることが予想される。
雇用関連 (九州)		新聞社〔求人広告〕（社員）	・まん延防止等重点措置の解除後は、旅行や宿泊関連の広告も復活しつつあり、Go To Travelキャンペーンの再開となると、更に増加する。電車や地下鉄共に乗客数の増加を肌で感じており、人の動きが戻りつつある。新型コロナウイルスの新規感染者数が再度増えれば、元の状態に戻る可能性はあるものの、景気としては上向きになっている。
		人材派遣会社（社員）	・求人の動きは引き続き上昇傾向であるが、求職者の動きが非常に鈍い。長期就業者の転職意向が例年と比べ低下している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・Go To Travelキャンペーンやゴールデンウィークを中心に人の動きが出てくる。特にサービス業はこの時期に収益を出さなければ、コロナ禍から立ち直られなくなる。人材ビジネスでは、人の動きが活発にならなければ経営は厳しい。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染が収束傾向にある。また、駅周辺の再開発事業により、建設業や宿泊業、飲食業からの求人数が増加している。
		民間職業紹介機関（職員）	・企業の採用意欲が高まっている。採用選考が例年以上に早まり、前年より早めに内定や内々定が出ており、採用状況は良くなっている。
		人材派遣会社（社員）	・派遣社員の求人受注は時期的には増えているが、求職者とのマッチングに時間が掛かる状況は続く。
		人材派遣会社（社員）	・企業からの注文数や成約件数は増えていくが、人材募集にかなり苦労をしている。思うようには登録者数も伸びず、成約件数も下降気味になっていく。実際3月下旬からは成約件数が伸びていない。
		人材派遣会社（社員）	・急激な変化は期待できない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・まん延防止等重点措置の反動で一時的に消費が活発になるものの、4月の諸商品の値上げや円安、海外動向等の影響もあり、景気が大きく上向くことは難しいと推測する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・企業活動も再開しているが、新型コロナウイルスの不安はあり、インバウンドも当面は望めない。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスオミクロン株も出現し、新規感染者数に落ち着きが見られず、事業活動を幅広くできない状態である。
		職業安定所(職員)	・前年との比較では、新規求人数に余り変化がない。新型コロナウイルスによる休業相談や雇用調整助成金の申請件数は、令和4年1月以降高止まりしているが、相談件数に変化がない。
		職業安定所(職員)	・新規求人の状況が回復し、現在は落ち着いている。今後、現状より増加する要因が見当たらない。
		学校〔大学〕(就職支援業務)	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大も山場は超えているが、まだ新規感染者数は高い水準で、直近では再拡大している状況である。ただし、企業の採用活動は活発であり、企業の採用意欲も高まっているため、多くの企業では2023年卒業の採用者数は今年と同程度、若しくは微増になるのではないかと推測している。
		-	-
	x	-	-

12. 沖縄(地域別調査機関:一般財団法人南西地域産業活性化センター)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)		百貨店(店舗企画)	・当地は新規感染者数が少なくないが、買物を楽しむ姿をみていると、うまく新型コロナウイルスと付き合っている印象がうかがえる。4月からの物価高騰も気になるところであるが、集客できるイベントを重ね、切り抜きたいと考えている。
		コンビニ(副店長)	・来月下旬の最大10連休のゴールデンウィーク、また沖縄の本土復帰50周年記念や県内を舞台にしたドラマなどを県内景気の起爆材として大いに期待している。
		一般小売店〔酒〕(店長)	・新型コロナウイルスワクチン接種により病床使用率が減っている。
		コンビニ(経営者)	・気温が暖かくなってくるので来客数が増し売上が増加する。
		コンビニ(代表者)	・全国的に現状が維持されれば、観光客の増加はもちろんのこと、県民の人流も更に活発になっていく。
		その他専門店〔陶器〕(製造)	・旅行できるのが当たり前に戻るといった希望的観測である。
		観光型ホテル(代表取締役)	・先々の宿泊予約が動き出している。まだこの程度の売上では赤字だが、その幅が縮小傾向にある。飲食に関しては、昼食などの予約は増えている。夜の宴会も5月には数件入っている。
		旅行代理店(マネージャー)	・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発出されなければ、それなりに経済は動くということが分かっているので完全停止に戻らないよう期待したい。
		住宅販売会社(役員)	・コロナ禍の状況次第だが、観光産業、飲食産業の比重が大きい県内では人流が活発になり不動産業の状況も良くなるとみられる。
		スーパー(企画担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が下げ止まり、逆に上昇に転じる可能性もあることから予見するのが難しい。
		衣料品専門店(経営者)	・今月はまん延防止等重点措置も解除されており、客のとも期待していたが、思いの外良くない。天候が悪い日が多いのが要因かもしれないが、まだ景気が良くなる気配は感じられない。
		通信会社(営業担当)	・新型コロナウイルス新規感染者数も下げ止まりのため、収束に向かっているとは考えられない。これから暖かくなり人の動きは出てくるが自粛傾向は続くとみている。景気が回復するのはまだ先ではないだろうか。
	その他サービス〔レンタカー〕(営業)	・まん延防止等重点措置が全面解除されたものの、先行きの受注状況は横ばいで推移している。行政による観光施策等がないと今後の活発な動きは厳しい。	
	住宅販売会社(代表取締役)	・土地価格が変わらず高いままで、建築資材も継続的に値上がりしており、客の住宅購入が難しくなっている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売企画）	・ウクライナ戦争による商品への影響も懸念されているが、実際に商品の値上げなど多くあり、また新型コロナウイルス感染第7波のことも懸念されており今のところ景気が良くなる要素が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・家計に直接響くであろう様々な値上げ、高騰がどこまで続くのか。新型コロナウイルスの感染再拡大の可能性も高く、良くなる要因が見当たらない。
	×	商店街（代表者）	・現在沖縄県では新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしているようである。早く収束しなければまだ大変だとみている。
	×	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・新型コロナウイルスに関わる制限の解除が続けば、大型連休に向けて人の動きは良くなるが、戦争の影響で全ての品物が値上がりし、また人件費もどんどん上がってきている。消費者の財布のひもが固くなれば、費用の上昇分を単純な値上げでカバーしようとしても逆に来店人数は減るので、対応に苦慮している。
	×	観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの3月の販売室数が前年比34%増加とプラスなのに対して、3月末時点での6月の予約室数は前年比6%減少とマイナスに転じている。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-
		建設業（経営者）	・現在打合せ中の案件は具体的に進み、ほぼ契約となる見通しである。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、官需部門においては石垣島の陸上自衛隊関連工事が本格化しているが、新型コロナウイルスオミクロン株の影響が心配される。宮古島は民需でのホテル関係が出てきている。軽石問題は解消されつつあるが、原油を始めとした諸価格の高騰が懸念される。
		広告代理店（営業担当）	・物価上昇を懸念する県内企業もあり、収益を確保するため販促活動を抑える傾向がある。
		食料品製造業（役員）	・引き続き燃料費の上昇や円安による材料費の上昇が進むことが予想され、値上げによる価格転嫁で利益を出すようにしないと厳しい。
		窯業土石業（取締役）	・公共、民間工事の見積依頼件数が減少傾向にあり、受注量、生産量の減少が懸念される。
	×	輸送業（経営企画室）	・4月から食品などの物価上昇、ウクライナ情勢、新型コロナウイルスの感染再拡大等が懸念される。
	×	会計事務所（所長）	・海外紛争が終息しても事後処理の影響が相応程度、長期化すると予想している。
雇用 関連 (沖縄)		-	-
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・これから観光関連の求人数の増加が見込まれる。
		職業安定所（職員）	・官公庁の求人、例年より応募者が集まらないという声がある。民間の求人も人手不足であるが応募がないとの相談が増えている。条件緩和や、賃金増の求人数が増えるかと期待している。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・新卒の求人採用活動が最盛期を迎え、企業活動が活発化すると考える。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業の採用活動が活発な時期でもあるため、求人数は今後増えると予想している。
		-	-
	×	求人情報誌製作会社（営業）	・求人数としては3月をピークとして、緩やかな減少を予測している。宿泊業界における採用活動再開への準備段階との引き合いもあり、採用活動が本格化した際には全体的な求人数は横ばい、又は増加傾向への転換も考えられる。